

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
検定英語Ⅰ	山中 祐子	8
検定英語Ⅰ	岩井 千秋	9
検定英語Ⅱ	波多野 五三	10
検定英語Ⅱ	黒住 奏	11
資格英語Ⅰ(前期)	天野 みゆき	12
資格英語Ⅰ(後期)	天野 みゆき	13
資格英語Ⅱ(前期)	天野 みゆき	14
資格英語Ⅱ(後期)	天野 みゆき	15
日本語Ⅰ	中石 ゆうこ	16
日本語Ⅱ	中石 ゆうこ	17
日本語Ⅲ	中石 ゆうこ	18
日本語Ⅳ	中石 ゆうこ	19
ITパスポート検定(前期)	小川 仁士	20
ITパスポート検定(後期)	小川 仁士	21
保健体育理論	辻 文	22
キャリアアデベロップメント	原田 淳	23
キャリアビジョン	原田 淳	24
インターンシップ	栗原 武士	25
哲学	小川 吉昭	26
倫理学	小川 吉昭	27
心理学	向居 暁	28
歴史学	小平 直行	29
文学	西本 寮子	30
教育学	藤井 宣彰	31
日本語表現(小川)	小川 俊輔	32
日本語表現(高松)	高松 亮太	33
日本語表現(経営情報学部)	五條 小枝子	34
法学	岡田 高嘉	35
日本国憲法	岡田 高嘉	36
経済学	竹林 栄治	37
社会学	中島 満大	38
人権論	岡田 高嘉	39
文化人類学	上水流 久彦	40
基礎数学(人間文化)	富田 哲治	41
基礎数学(経営情報学部)	富田 哲治	42
統計学	富田 哲治	43
物質科学	大竹 才人	44
生活化学	長尾 則男	45
生命科学	岡田 玄也	46
地球科学	吉富 健一	47
県大生として学ぶ広島と世界	上水流 久彦	48

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
地域の理解	五條 小枝子	49
地域情報発信論	五條 小枝子	50
ボランティア活動	手島 洋	51
留学生と学ぶ広島	柳川 順子	52
海外研修Ⅰ(人間文化・前期)	吉本 和弘	53
海外研修Ⅰ(人間文化・後期)	吉本 和弘	54
海外研修Ⅰ(経営情報学部・前期)	平野 実	55
海外研修Ⅰ(経営情報学部・後期)	平野 実	56
海外研修Ⅱ(人間文化・前期)	吉本 和弘	57
海外研修Ⅱ(人間文化・後期)	吉本 和弘	58
海外研修Ⅱ(経営情報学部・前期)	平野 実	59
海外研修Ⅱ(経営情報学部・後期)	平野 実	60
体育実技Ⅱ(山寺)	塩川 満久	61
異文化としての日本	柳川 順子	62
教養ゼミナール(地方から考える日本)	上水流 久彦	63
教養ゼミナール(Hiroshima Global Studies)	馬本 勉	64
教養ゼミナールグローバルな視点で見る男女共同参画	日高 陵好	65
教養ゼミナール(対話で進める精神保健・福祉)	江本 純子	66
教養ゼミナール(異文化組織とCSR)	小原 久美子	67
教養ゼミナール(異文化理解)	柳川 順子	68
教養ゼミナール(ヒトと言語・コミュニケーション)	細川 淳嗣	69
教養ゼミナール(現代社会の諸課題について考える)	福岡 政行	70
宮島観光学入門(英語)	大知 徳子	71
ライフデザイン	岡田 高嘉	72
教職入門	中村 勝美	73
教育学概論	藤井 宣彰	74
教育心理学	向居 暁	75
教育社会学	藤井 宣彰	76
教育課程論	吉田 成章	77
道德教育論	宮里 智恵	78
特別活動論	山田 浩之	79
教育方法学	深澤 悦子	80
生徒・進路指導論	坪田 雄二	81
教育相談	森田 裕司	82
教育実習指導	向居 暁	83
教育実習Ⅰ	向居 暁	84
教育実習Ⅱ	向居 暁	85
教職実践演習(中・高)	向居 暁	86
社会科・公民科教育法Ⅰ	胤森 裕暢	87
社会科・公民科教育法Ⅱ	高田 悟	88
行動心理学	向居 暁	89

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
大学基礎セミナー(村上)	村上 恵子	90
大学基礎セミナー(橋上)	橋上 徹	91
英語 I a(経営)	岩井 千秋	92
英語 I b(経営)	船津 晶代	93
英語 II a(経営)	橋本 朝子	94
英語 II b(経営)	岩井 千秋	95
英語 III a(経営)	橋本 朝子	96
英語 III b(経営)	笠本 晃代	97
英語 IV a(経営)	吉本 和弘	98
英語 IV b(経営)	川尻 武信	99
英語表現 I b(経営)	D リー	100
英語表現 II a(経営)	K カゼミ	101
英語表現 II b(経営)	K カゼミ	102
英語表現 III a(経営)	ウルシュラ スティチェック	103
英語表現 III b(経営)	J ノーリン	104
英語表現 IV a(経営)	M レーガン	105
英語表現 IV b(経営)	M レーガン	106
中国語 I (経営)	袁 葉	107
中国語 II (経営)	袁 葉	108
ドイツ語 I (経営情報学部)	小田 智敏	109
ドイツ語 II (経営情報学部)	小田 智敏	110
情報リテラシーa(経営)	肖 業貴	111
情報リテラシーb(経営)	重安 哲也	112
情報リテラシー演習a(経営)	岡部 正幸	113
情報リテラシー演習b(経営)	重安 哲也	114
体育実技 I a(経営)	辻 文	115
体育実技 I b(経営)	辻 文	116
経営学概論	小原 久美子	117
マーケティング論	栗島 浩二	118
経営戦略論	朴 唯新	119
簿記入門	五百竹 宏明	120
ファイナンス概論	村上 恵子	121
公共社会論	和田 崇	122
理論経済学入門	片桐 昭司	123
ビジネス数理入門	富田 哲治	124
情報科学論(経営)	重丸 伸二	125
情報処理基礎(経営)	重丸 伸二	126
経営統計学入門	韓 虎剛	127
ベンチャービジネス論	朴 唯新	128
リスクマネジメント論	朴 唯新	129
イノベーション論	朴 唯新	130

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
ビジネスモデル論	矢澤 利弘	131
知識経営論	矢澤 利弘	132
経営組織論	小原 久美子	133
組織文化論	小原 久美子	134
グローバル経営論	小原 久美子	135
経営管理論	平野 実	136
人的資源管理論	平野 実	137
組織行動論	平野 実	138
流通システム論	粟島 浩二	139
営業マーケティング論	粟島 浩二	140
マーケティングリサーチ	川原 直毅	141
初級簿記	五百竹 宏明	142
中級簿記	橋上 徹	143
会計学概論	橋上 徹	144
財務会計論	橋上 徹	145
会計実務	橋上 徹	146
工業簿記	足立 洋	147
原価計算論	足立 洋	148
管理会計論	足立 洋	149
NPO会計論	五百竹 宏明	150
コーポレートファイナンス論	村上 恵子	151
戦略会計論	足立 洋	152
地域金融論	塚原 一郎義治	153
金融論	塚原 一郎義治	154
金融機関論	塚原 一郎義治	155
金融システム論	塚原 一郎義治	156
パーソナルファイナンス論	村上 恵子	157
証券システム論	鈴木 喜久	158
投資分析論	鈴木 喜久	159
地域政策論	和田 崇	160
地域マネジメント論	和田 崇	161
地域コミュニティ論	和田 崇	162
NPO論	名波 彰子	163
経済・社会データ分析	柴田 浩喜	164
現代社会学	中島 満大	165
社会調査論	中島 満大	166
地域社会学	中島 満大	167
産業組織論	前田 純一	168
地域経済論	柴田 浩喜	169
公共経済学	片桐 昭司	170
経済政策	片桐 昭司	171

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
経済発展論	片桐 昭司	172
民法 I	岩元 裕介	173
経営法務	松原 正至	174
ビジネス英語	S L ROSEN	175
経営学特別講義 I	足立 洋	176
経営学特別講義 II	五百竹 宏明	177
経営情報学特別講義 I	志多木 義浩	178
経営情報学実践実習	粟島 浩二	179
プロジェクト研究	粟島 浩二	180
情報学入門	岡部 正幸	181
経営史	山内 昌斗	182
ビジネスプラン作成	矢澤 利弘	183
外国書講読(平野)	平野 実	184
外国書講読(矢澤)	矢澤 利弘	185
外国書講読(五百竹)	五百竹 宏明	186
外国書講読(村上)	村上 恵子	187
経済学概論	式部 信	188
経営学専門演習 I (村上)	村上 恵子	189
経営学専門演習 I (和田)	和田 崇	190
経営学専門演習 I (片桐)	片桐 昭司	191
経営学専門演習 I (橋上)	橋上 徹	192
経営学専門演習 I (中島)	中島 満大	193
経営学専門演習 II (橋上)	橋上 徹	194
経営学専門演習 II (村上)	村上 恵子	195
経営学専門演習 II (和田)	和田 崇	196
経営学専門演習 II (片桐)	片桐 昭司	197
経営学専門演習 II (中島)	中島 満大	198
大学基礎セミナー(小川)	小川 仁士	199
大学基礎セミナー(韓)	韓 虎剛	200
大学基礎セミナー(宇野)	宇野 健	201
大学基礎セミナー(岡部)	岡部 正幸	202
英語 I (経情学科)	黒住 奏	203
英語 II (経情学科)	岩井 千秋	204
英語 III (経情学科)	黒住 奏	205
英語 IV (経情学科)	栗原 武士	206
英語表現 I (経情学科)	K カゼミ	207
英語表現 II (経情学科)	J ノーリン	208
英語表現 III (経情学科)	M レーガン	209
英語表現 IV (経情学科)	J ノーリン	210
中国語 I (経情学科)	津坂 貢政	211
中国語 II (経情学科)	津坂 貢政	212

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
情報リテラシー(経情学科)	佐々木 宣介	213
情報リテラシー演習(経情学科)	佐々木 宣介	214
体育実技 I (経情学科)	辻 文	215
情報科学論(経情学科)	錦織 昭峰	216
情報処理基礎(経情学科)	重丸 伸二	217
経営数学	呉 漢生	218
経営統計学	韓 虎剛	219
情報数学	折本 寿子	220
オペレーションズリサーチ I	呉 漢生	221
オペレーションズリサーチ II	市村 匠	222
シミュレーション論	市村 匠	223
社会情報論	市村 匠	224
最適システム論	市村 匠	225
経営科学実験	重丸 伸二	226
経営システム計画論	呉 漢生	227
知能情報論	生田 顯	228
経営情報論	広谷 大助	229
知的生産システム論	広谷 大助	230
経営情報システム論	岡部 正幸	231
経営情報システム開発論	広谷 大助	232
知識情報システム論	錦織 昭峰	233
経営情報システム実験	韓 虎剛	234
経営情報シミュレーション	錦織 昭峰	235
サプライチェーン戦略論	広谷 大助	236
意思決定論	韓 虎剛	237
経営データ解析論	岡部 正幸	238
応用情報システム開発論	重安 哲也	239
情報リスクマネジメント	重安 哲也	240
応用確率システム論	生田 顯	241
プログラミング	宇野 健	242
プログラミング演習	宇野 健	243
コンピュータ概論	生田 顯	244
情報システム論	折本 寿子	245
数理情報論	折本 寿子	246
視覚情報処理論	肖 業貴	247
データベース論	岡部 正幸	248
情報システム実験	肖 業貴	249
マルチメディア概論	宇野 健	250
マルチメディア演習	宇野 健	251
インターネットアプリケーション	佐々木 宣介	252
情報ネットワーク論	陳 春祥	253

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
ネットワーク管理論	陳 春祥	254
情報ネットワーク実験	陳 春祥	255
情報セキュリティ論	佐々木 宣介	256
ソフトウェア開発管理論	重安 哲也	257
情報技術基礎論	小川 仁士	258
情報と倫理	上村 崇	259
情報と職業	若林 義啓	260
外国書講読 I (経情学科)	吳 漢生	261
外国書講読 I (経情学科)	陳 春祥	262
外国書講読 II (経情学科)	錦織 昭峰	263
外国書講読 II (経情学科)	生田 顯	264
環境情報処理論	折本 寿子	265
経営情報学研究序論	小川 仁士	266
情報科教育法 I	長松 正康	267
情報科教育法 II	長松 正康	268
経営情報学専門演習 I (小川)	小川 仁士	269
経営情報学専門演習 I (韓)	韓 虎剛	270
経営情報学専門演習 I (吳)	吳 漢生	271
経営情報学専門演習 I (肖)	肖 業貴	272
経営情報学専門演習 II (小川)	小川 仁士	273
経営情報学専門演習 II (韓)	韓 虎剛	274
経営情報学専門演習 II (吳)	吳 漢生	275
経営情報学専門演習 II (肖)	肖 業貴	276
Linear System Theory and Design (I)	吳 漢生	277
Intelligent Production Systems	広谷 大助	278
MATLAB Programming	韓 虎剛	279
Fundamentals of Adaptive Filters	肖 業貴	280
Linear System Theory and Design (II)	吳 漢生	281
Linear Control System Theory	重丸 伸二	282
Systems Management Optimization Theory and Applications	錦織 昭峰	283
Supply Chain Management	広谷 大助	284
Fuzzy and Rough Sets	韓 虎剛	285
Adaptive Filtering and Applications	肖 業貴	286

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名	山中 祐子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業：TOEIC実践力を養うことをめざし、指定テキストを各自読み進めてきていることを前提にグループ発表形式で行います。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC 500点以上 ささまざまなアメリカ英語音声		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため, 聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	映画教材を用いて, 聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。		
成績評価の方法	中間期末テスト, TOEICに対応できる力の習得, 英語コミュニケーションへの積極的態, 等で評価する。TOEIC受験を求める。詳しくは初回の授業で説明します。		
テキスト	名作映画でTOEIC カサブランカ 英宝社 ISBN978-4-269-66028-1		
参考文献	適宜授業内で配布します。TOEIC受験に際して, 授業のテキストとは別に, <公式問題集シリーズ> を解いてゆくことをおすすめします。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	スマートフォンは許可を得た場合を除き, 電源を必ず切ってください。三分の二以上の出席が必須です。各自テキストを予習していることを前提に, グループ発表形式で授業を行います。積極的に授業に参加してください。		



授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名	岩井 千秋 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業では必ず予習として課題を出し、それを出席クイズとして出題します。さらに、TOEICなどの英語検定の出題形式に慣れてもらうために、書き取り (ディクテーション) や音読 (シャドーイング) などを繰り返すほか、学習者どうして解答結果を評価し合うようなピア学習を取り入れた形式で授業を進めます。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC、英語検定試験、運用能力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させます。語彙や英語の慣用的な表現の知識を増やすことが重要であるため、かなりの量の単語や英語独特の言い回しを覚えることを目標とします。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解、速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行います。また英語の本当の力を身につけるには TOEIC 対策の学習では十分とは言えないため、日常的に英語の学習に取り組むためのノウハウを知り、それを実践してもらいます。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価します。TOEIC受験を求めます。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。		
テキスト	T. O'Brien 他 Simply 500: Acing the TOEIC 南雲堂 CD付き		
参考文献	各種の教材やサイトを授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身につくことなどあり得ません。他人任せではなく、与えられる課題や学習方法を実践する覚悟で受講してください。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名	波多野 五三（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。英語文献の読解並びに聴解を行う際に、ペアまたはグループに分かれてディスカッションを行うことがある。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	健康科学科，経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 英語能力試験、英語のスキル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC（国際コミュニケーション英語能力テスト）においてスコアを取得し、英語運用能力を総合的に高めるため、聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解，読解，英語構文理解，語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い，TOEICに対応できる力を養う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態度、等で評価する。TOEIC受験を求める。		
テキスト	『文法・読解で高得点をねらう新TOEIC Test (Develop Your Grammar and Reading Power of the TOEIC Test)』（安藤祐介・他. 2007. 東京：松柏社.）		
参考文献	『新TOEIC TEST 英単語・熟語高速マスター』Linkage Club. 2012. ISBN: 978-4-947747-22-8		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習の際に、センテンスやパラグラフの要点を把握するとともに全文を和訳し練習問題を解いておくこと。さらに、内容理解ののちに本文を3回以上朗読しておくこと。特に、無生物主語、関係代名詞/関係副詞、分詞構文、倒置、強調、省略などに注意する。未知語は、Longman Dictionary of Contemporary EnglishやOxford Advanced Learner's Dictionaryなどで語義を調べたのちに英和辞典で日本語訳を確認すること。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名	黒住 奏（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	テキストを用いて、演習形式と講義形式を組み合わせる授業を行います。また、グループワークやディスカッションなどを、適宜取り入れます。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	健康科学科，経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎的英語力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC（国際コミュニケーション英語能力テスト）においてスコアを取得し，英語運用能力を総合的に高めるため，聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解，読解，英語構文理解，語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い，TOEICに対応できる力を養う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価する。TOEIC受験を求める。		
テキスト	TOEIC TEST Trainer Target 470, Revised Edition by Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer. CENGAGE LEARNING		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	英和辞書を必ず持参してください。		

授業科目名	資格英語 I (前期)		
担当教員氏名	天野みゆき		
研究室の場所	1816		
オフィスアワー	水曜日 4 時間目		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数 (時間数)	1	0	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。		
授業の内容			
成績評価の方法	TOEIC、550点以上、TOEFLiBT、57点以上で単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	資格英語Ⅰ（後期）		
担当教員氏名	天野みゆき		
研究室の場所	1816		
オフィスアワー	水曜日 5 時間目		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数（時間数）	1	0	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。		
授業の内容			
成績評価の方法	TOEIC、550点以上、TOEFLiBT、57点以上で単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	資格英語Ⅱ（前期）		
担当教員氏名	天野みゆき		
研究室の場所	1816		
オフィスアワー	水曜日 4 時間目		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数（時間数）	1	0	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。		
授業の内容			
成績評価の方法	TOEIC 700点以上またはTOEFLiBT、76点以上で単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	資格英語Ⅱ（後期）		
担当教員氏名	天野みゆき		
研究室の場所	1816		
オフィスアワー	水曜日 5 時間目		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数（時間数）	1	0	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。		
授業の内容			
成績評価の方法	TOEIC 700点以上またはTOEFLiBT、76点以上で単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本語 I		
担当教員氏名	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	毎週火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、授業外課題（宿題）を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 文法 聞く 話す		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。 本科目の目標は、①語彙力を高めること、②文法力を高めること、③日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めることである。		
授業の内容	① 生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。 ② 日本語の文法に関する知識を確認し、それを運用に結び付ける。 ③ 自分の考えを説明したり、交渉したりする練習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 授業外課題（宿題）(20%) 期末テスト (50%) 出席 (10%) ※宿題の提出が遅れた場合は、減点する。		
テキスト	『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』（凡人社）を予定。 ※学生の能力によって決定する。（第3回の授業で指示）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。		



授業科目名	日本語Ⅱ		
担当教員氏名	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	毎週火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 聞く 話す 書く 発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。「日本語Ⅱ」では、「日本語Ⅰ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。  本科目の目標は、①語彙力を高めること、②日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めること、③大学生活で必要とされる日本語力のうち主に話す活動（課題について情報を集める、自分の考えを効果的に発表するなど）の日本語力を高めることである。  日本語Ⅰから継続で受講することが望ましい。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。作文では、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。プレゼンテーションでは、自己の考えを聞き手に分かりやすく表明する練習をする。  ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 発表、宿題 (30%) 期末テスト (40%) 出席 (10%)  ※宿題の提出が遅れた場合は減点する。		
テキスト	『中級からの日本語プロフィシエンシー ライティング』（凡人社）を予定。 ※学生の能力によって決定する。（第3回の授業で指示）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅲ		
担当教員氏名	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。 本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動（専門書を読む、レポートや論文を書くなど）のための日本語力を高めることである。		
授業の内容	①生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。 ②教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。 ③様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 授業外課題 (宿題) (20%) 期末テスト (またはレポート) (50%) 出席 (10%) ※宿題の提出が遅れた場合は減点する。		
テキスト	『日本語プロフィシエンシーライティング』（凡人社） 『中・上級のための速読の日本語』（The Japan Times）の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。（第3回の授業で指示）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅳ		
担当教員氏名	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 漢字 読む 書く プロジェクト課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。 本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動（専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど）のための日本語力を高めること、③他者と自分との意見を調整し、問題解決をすることである。		
授業の内容	①大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。 ②レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。 ③様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ④他者と自分との意見を調整し、問題解決をする活動として、プロジェクト学習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 授業外課題（宿題）(20%) 期末テスト（またはレポート） (50%) 出席 (10%) ※宿題の提出が遅れた場合は減点する。		
テキスト	『日本語プロフィシエンシーライティング』（凡人社） 『中・上級のための速読の日本語』（The Japan Times）の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。（第3回の授業で指示）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。日本語Ⅲから継続で受講することが望ましい。		

授業科目名	ITパスポート検定（前期）		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、理解度確認試験の受験が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【27年度以降入学生】人間文化学部，経営情報学部 1～3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は，全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 ITに関する知識にとどまらず，企業活動，経営戦略，会計や法務など，ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として，国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では，『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系，マネジメント系，テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して，以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し，経営科学の各手法についての基礎知識を備え，企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し，プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え，情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し，コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに，データベース，ネットワーク，セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ，適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	期間中に実施する数回の理解度確認試験に合格した者について，その得点に応じ評定値を与える。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	テキストを用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので，積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	ITパスポート検定（後期）		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、理解度確認試験の受験が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【27年度以降入学生】人間文化学部，経営情報学部 1～3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は，全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 ITに関する知識にとどまらず，企業活動，経営戦略，会計や法務など，ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として，国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では，『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系，マネジメント系，テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して，以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し，経営科学の各手法についての基礎知識を備え，企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し，プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え，情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し，コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに，データベース，ネットワーク，セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ，適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	期間中に実施する数回の理解度確認試験に合格した者について，その得点に応じ評定値を与える。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	テキストを用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので，積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	保健体育理論			
担当教員氏名	辻 文			
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室			
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する			
授業の形式・方式	<p>対面授業。本授業科目では、一方的な講義形式ではなく、グループにわかれて学生同士の議論や意見発表、全体で教員も含めた質疑などを行い、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p> <p>また本授業では、ストレッチング、ウォーキング、レジスタンス運動などの実技を通して、運動を実施する上で必要となる基本的な技能を身につけていきます。</p>			
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別	平成26年度以前入学生：必修 平成28年度入学生：選択
履修要件	国際文化学科、健康科学科、経営学科、経営情報学科1年次対象			
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修			
キーワード	健康づくり、生涯スポーツ、運動、トレーニング、生活習慣病			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①現代の日本人の健康状態や運動・スポーツと健康のかかわりを理解する。  ②生涯に渡って運動・スポーツを継続するために必要となる環境や取り組みを説明できる。  ③運動・トレーニングを行った場合に身体の中でどのような変化（生理的変化）が起こるのか、さらに、それらが健康の保持・増進とどのように関係するのか説明できる。  ④運動を実施する上で必要となる基本的な技能を身につける。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】保健体育理論は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>			
授業の内容	<p>本授業は、3部構成になっています。</p> <p>第1章（第1～5回）では、健康と運動について考えていきます。日本人の健康状態を理解し、運動・スポーツが病気（生活習慣病）やこころの健康とどのように関わるのか、さらに運動・スポーツを生涯に渡って継続していくにはどういった環境や取り組みが必要になるのか理解を深めます。</p> <p>第2章（第6～10回）では、運動時の身体のしくみについて学びます。運動やトレーニングを行うと身体の中でどのような変化や適応が起こるのか、さらにそれらの身体的変化が健康とどのように関わるのか理解を深めます。</p> <p>第3章（第11～15回）では、運動・トレーニングの方法について学びます。実際に運動を実施・継続していく上で、どのようなトレーニングの種類があり、それぞれどのような効果が得られるのか等について、実習を交えながら理解を深めていきます。これら15回の授業を通して、生涯スポーツを実践していく上での基本的知識、態度および技能を身につけていきます。</p>			
成績評価の方法	<p>毎回の小レポート20%、課題レポート30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。</p> <p>「期末試験」：期末試験（90分）を行う。試験は自身が作成したA3サイズのメモのみ持ち込み可（メモ用紙は、事前に配布した指定の用紙のみ認め、試験後に回収する）。出題は第15回までの講義内容及び小テストの中から行う。</p>			
テキスト	教科書なし。毎回、資料プリントを配布する。			
参考文献	健康づくりのための運動の科学（鶴木秀夫 編、化学同人）、スポーツ生理学（富樫健二 編、化学同人）、トレーニングの科学的基礎（宮下充正、ブックハウス・エイチディ）			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	<p>授業態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止、教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。無断の途中退室は認めない。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>			

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式による解説を行い, 必要に応じて適宜, 演習を実施する.		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力, 感情コントロール, ストレスコントロール		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、感情のコントロール、ストレスへの対処、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	<p>1) 社会で活躍するために必要な能力, 2) セルフイメージと目標設定, 3) 情報収集と要約のスキル, 4) コミュニケーションと対人関係のスキル, 5) 論理的に説明するスキル, 6) 問題解決・発想法, 7) 感情とストレスのコントロール</p>		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料はUNIVERSAL PASSPORTにアップロードするので、必要に応じてダウンロードする。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 山根 英幸, (魚谷 滋己)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 基礎的・汎用的能力, 論理的思考, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では, 自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に, 社会で必要とされる論理的思考力, プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	前半は, 社会で必要とされる能力や資質を理解するための講義を行い, 後半は, 「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに, グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し, 担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め, 質問を一つ考えておくこと。		



授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	栗原武士, 鍛島秀明, 富田哲治, 橋上徹		
研究室の場所	広島キャンパス 1680 (富田)		
オフィスアワー	随時 (アポを取ってください)		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数 (時間数)	2	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の複合科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。		

授業科目名	哲学		
担当教員氏名	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科 1・2 年次, 健康科学科 1 年次, 経営学科・経営情報学科 1・2 年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択必修, 高一種免（公民）選択必修		
キーワード	原因、根拠、神、科学、帰納、演繹、循環		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の人文系科目。哲学を初めて学ぶ学生を対象に、哲学とはどのようなものかを紹介する。併せて、論文を読み、論理的展開を正確に把握できるようになることを目指す。		
授業の内容	Stephen Law “THE PHILOSOPHY GYM” の中から、Chapter 1、Chapter 16、Chapter 18、Chapter 19、を、それぞれ三回で取り上げ、そこで何が問題となっているのか、どのような解決策がありうるのか、それぞれの解決策にどのような問題が潜んでいるのか、等々を考えながら、全体の構成（アウトライン）を読み取る。取り上げる各章は、スティーブン・ロー著『北極の北には何がある？「考える脳」をつくる哲学トレーニング 19』中山元訳、ランダムハウス講談社、に収録されているが、現在絶版。すべての Chapter について翻訳を準備する。 時間に余裕があれば、Chapter 7、Chapter 9、Chapter 4 のいずれかを取り上げる。		
成績評価の方法	期末試験の成績による。		
テキスト	Stephen Law “THE PHILOSOPHY GYM”（翻訳を準備する）		
参考文献	岩崎武雄『西洋哲学史』（再訂版）有斐閣、門脇俊介『現代哲学』産業図書、熊野純彦『西洋哲学史』上・下 岩波新書		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	添付ファイルから、PhG_01.pdf, PhG_16.pdf PhG_18.pdf, PhG_19.pdfを各自でプリントする。		

授業科目名	倫理学		
担当教員氏名	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択必修、高一種免（公民）選択必修		
キーワード	善悪、人格、自由、決定論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の人文系科目。倫理学を初めて学ぶ学生を対象に、哲学の一部門としての倫理学とはどのようなものかを紹介する。併せて、論文を読み、論理的展開を正確に把握できるようになることを目指す。		
授業の内容	Stephen Law, "THE PHILOSOPHY GYM" (スティーブン・ロー著『北極の北には何がある? 「考える脳」をつくる哲学トレーニング19』中山元訳、ランダムハウス講談社)の中から、Chapter 20、Chapter 5、Chapter 12、Chapter 17を取り上げる。全体の構成（アウトライン）を読み取る努力をしよう。 テキストは翻訳を準備する。		
成績評価の方法	期末試験の成績による。		
テキスト	Stephen Law, "THE PHILOSOPHY GYM"		
参考文献	大庭健 『善と悪 - 倫理学への招待 -』 岩波新書 中島義道 『悪について』 岩波新書		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	各自でテキストをプリントする。		

授業科目名	心理学		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～2回の講義につき、教科書1章分の講義を想定した授業を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科 1年次対象、経営学科・経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択必修		
キーワード	知覚、記憶、思考、社会的認知、パーソナリティ、発達		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔りがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行う。そして、素朴心理学に基づいた、心理学に対する誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象にしている。		
授業の内容	授業では、人間の基本的な心の働きや行動を扱う。授業内容は、心理学の歴史に始まり、感覚・知覚、認知、社会、発達、教育、パーソナリティ、臨床など多岐にわたる心理学分野を少しずつ紹介するものとなっている。毎回の授業において、学生からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付ける。そして、それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介する。		
成績評価の方法	試験90%、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、90分間、主として論述式、座席指定、学生証呈示で実施する。試験における、教科書・ノート・資料等の持ち込みに関しては、後に決定する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著 「グラフィック心理学」 サイエンス社 1997		
参考文献	主な参考文献は以下の通りである。 中島義明 他編 (2005) 「新・心理学の基礎知識」 (有斐閣) ノーレン・ホークセマ, S. 他 (2012) 「ヒルガードの心理学 (第15版)」 (金剛出版) 海保博之 他 (1995) 「クイズと体験でわかる心理学」 (福村出版) 菊池聡 他 (1995) 「不思議現象なぜ信じるのか」 (北大路書房) また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、ポータル、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	歴史学		
担当教員氏名	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業（講義）		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科1・2年次，健康科学科2年次，経営学科，経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	資本主義、フォーディズム、グローバリゼーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	受講生が、現代の世界資本主義に内在する重要な諸問題について、基礎的理解ができるようになることを目標とする。		
授業の内容	<p>コンドラチェフの長期波動によれば、現在われわれは、単なる世界恐慌的局面に直面しているのではなく、長期の1周期（1990～2020年）の下降局面にある。これまで、こうした時期には、基礎的エネルギーの転換、資本主義経済（基軸的資本・産業、世界商品）の根本的変化、国家と国家間システムの変容などが生じており、したがって、われわれは歴史の転換期に際会している。本講では、歴史の現局面を理解するために、「1960～1990年の上昇局面」（＝「20世紀型資本主義」の盛期）と「1990年～の下降局面」（＝「21世紀型資本主義」の開始期）—における世界資本主義と諸国家の形態と構造について論じる。すなわち、過去（「20世紀型資本主義」）との〈対話〉を通して、現在（「21世紀型資本主義」）の理解をめざす。</p>		
成績評価の方法	期末試験による。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	文学		
担当教員氏名	高松亮太、西本寮子		
研究室の場所	1911（高松） 1914（西本）		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って主として講義形式（オムニバス）で実施する。 授業の進め方、レポートの課題提示および提出の方法、評価については開講時に指示する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧に記載される各学科の教育課程表を参照すること		
免許等指定科目			
キーワード	教養としての古典、古典詩歌、和歌、俳諧、パロディ、想像力、物語、随筆、日記、記録		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置づけ：全学共通教育科目、教養科目群のうち、人文系科目  授業の目標：さまざまなジャンルの文学作品を読むことを通して、文学についての基本的内容を講義する。この科目の目標は、まず、履修生が文学作品を鑑賞すること、楽しむこと、そして、文学に関する基本的な概念、基礎的内容を理解することである。現代社会を生きる上で必要な教養としての古典を、日本人のものの見方考え方について考えながら鑑賞する。		
授業の内容	さまざまなジャンルの日本の古典文学作品をテキストとし、現在のわれわれを考える上で重要な問題がどのように表象されているかを読み取っていく。そして、それらの作品がその時々どのような状況によって作られ、長い歴史の中でどのように受容されてきたのかを理解し、現代を生きる人々にとって古典がどのような意味を持つのかを考える。前半は韻文を、後半は散文作品を取り上げて、原典をじっくり味わいながら、日本人のものの見方の特徴について考える契機とする。		
成績評価の方法	期末に課すレポート50%、学期中に課すレポート30%、毎時間の取組状況20%の割合で評価する。		
テキスト	プリントを使用する。参考文献については授業時に指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、原則として教学課の掲示および授業内で口頭により行う。		

授業科目名	教育学		
担当教員氏名	藤井 宣彰		
研究室の場所	庄原キャンパス 2409研究室		
オフィスアワー	木曜日3時限		
授業の形式・方式	対面で講義形式の授業を行うとともに、プレゼンテーションを課す。(遠隔：広島C発信，三原C受信)		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科1年次，健康科学科1・3年次，経営学科，経営情報学科1・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	教育，学習，社会，学校，家庭，教育問題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目である。 教育学の概要や教育の基本的な概念について知識を得ることが目標である。 また，教育問題とその背景について考察することで，幅広い視野，資料を検索してまとめ，発表する技法，自ら考える力を身に付けることを目標とする。		
授業の内容	教育は誰もが経験してきた身近なことだけに，家庭や学校について自らの経験の範疇で考察しがちになる。教育問題についての報道等を手がかりとして，関連する資料を分析し，子ども，家庭，学校，大学，社会における問題の背景や解決策について考察を行う。		
成績評価の方法	①プレゼンテーション70%②提出物等30%を目安として総合的に評価する。		
テキスト	特になし(適宜資料を配付する。)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分自身や他校出身の友人の学校や家庭での生活を振り返りながら学修内容を深めて下さい。		

授業科目名	日本語表現 (小川)		
担当教員氏名	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー	在室時であれば基本的にいつでも対応する。 時間割が確定次第 (4月上旬), オフィスアワーを設定し, 研究室の扉に掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義と実習 (課題に則った作業), 受講生同士の相互評価を組み合わせ実施する。学生は, 毎時間課題 (400字から1200字) に取り組み, その結果を提出することが義務づけられる。提出物は, 翌週、教員により添削された上で返却される。それをPC等で電子データ化し、メールで提出する。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	人間文化学部 全学生対象 経営情報学部 2年次生以上対象 ※経営情報学部の1年次生は五條先生ご担当の「日本語表現」を履修すること ※国語の教育免許の取得を考えている人は、高松先生・五條先生ご担当の「日本語表現」ではなく、小川の「日本語表現」を履修すること		
免許等指定科目	中一種免 (国語) 必修, 高一種免 (国語) 必修		
キーワード	事実文, 意見文, 論説文, 書簡文, 文芸創作		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	【授業の目標】 (1) 魅力的かつ説得的な表現力を身につける。 (2) 時, 場所, 相手に応じた表現を学び, 身につける。  【カリキュラム上の位置付け】 全学共通教育科目 > 教養 > 人文系		
授業の内容	要約文, 論説文, 書簡文などの実用文, および俳句, 短歌, 詩, 小説などの文芸作品の執筆に取り組む。読む, 書く, 聞く, 話す, 推敲するといった作業を繰り返しおこなうことを通じて, 時, 場所, 相手に応じた適切な日本語表現を学び身につける。受講生相互による添削と意見交換・批評, 教員による文章添削などの方法を取り入れ, 読み手・受け手双方の立場から, 客観的に自らの表現を点検し, 構築していく力を身につける。		
成績評価の方法	毎時の取り組み (提出課題) により評価する。		
テキスト	『さらさらいくよ』第3号 (第1回の授業時に配布する) 毎回プリントを配布する。		
参考文献	日本漢字能力検定協会編『文章検 公式テキスト2級』, 樺島忠夫『五つの法則による十の方策文章表現法』, 榎原邦彦ほか編『学生・社会人のための表現入門』, 文部科学省『中学校学習指導要領』, 同『中学校学習指導要領解説 国語編』, 同『高等学校学習指導要領』, 同『高等学校学習指導要領解説 国語編』など。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講生は毎回, 課題に取り組み, 提出しなければならない。読み, 書き, 聞き, 話すを粘り強く繰り返すことになる。自分の書いた文章の推敲, 他の受講生の文章・発表への批評活動も含まれる。積極的に取り組んでほしい。		



授業科目名	日本語表現（高松）		
担当教員氏名	高松 亮太		
研究室の場所	広島キャンパス 1911研究室		
オフィスアワー	月・火・木の在室時。それ以外はメールで応相談。 詳細は、研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義と実習（課題に則った作業）、発表、受講生同士の合評などを組み合わせて実施する。学生は、ほぼ毎時間課題に取り組み、提出することが義務づけられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科 全学年、経営学科・経営情報学科 2年次以上		
免許等指定科目			
キーワード	小説、四コマ漫画、川柳、連句、俳句、パロディ、エッセイ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目（教養・人文系）。 文芸作品の創作に取り組みながら、豊かな日本語表現力を身につけるとともに、受講生相互の合評により、他者の作品に対する批評力や鑑賞力、自己作品への客観的視点を養う。		
授業の内容	基本的には授業計画にしたがって、受講生は毎時個人ないしはグループで鑑賞文の作成や文芸作品の創作を行い、披露および提出をする。教員の添削は最小限とし、授業中で披露し、受講生相互で意見交換や合評を行うことによって、客観的に自らの表現を見つめ直す視点を養い、洗練していくことを目指す。		
成績評価の方法	毎時の取組状況、課題提出、発表、討議への参加状況によって総合的に判断する。		
テキスト	毎時プリントを配布する。		
参考文献	角川学芸出版編『新版 今は始める人のための俳句歳時記』（角川ソフィア文庫、2011年）、加藤明『「もっと読みたい」と思わせる文章を書く』（すばる舎、2013年）ほか授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・教員免許状取得希望者は履修不可（小川俊輔先生の「日本語表現」を履修すること）。 ・ほぼ毎時間課題をこなし、提出してもらう。また、合評においては受講生に発言を求めるので、積極的な姿勢で取り組んで欲しい。		

授業科目名	日本語表現（経営情報学部）		
担当教員氏名	五條 小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式と実際の作業とで実施する。学生は、授業に出席し、ほぼ毎時間、課題に取り組み、その結果を提出することが義務づけられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本語表現の意識化 多様性 体系性 論理的思考 説得力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、レポート・論文の執筆に必要な論理的で説得力のある文章を作成する能力の向上を目標とする。平素無意識に使っている日本語による文章表現、文章理解を意識化、対象化するために、表現選択の可能性・事実と意見の書き分け・読者への配慮等の多様な観点の課題について、作業と分析とを行う。このトレーニングに主体的に取り組むことにより、まずは、自らの文章表現の特徴や弱点を認識する。ついで、多彩な表現法について学び、応用力を身につける。</p>		
授業の内容	<p>文章の説得力を高めるための表現効果について考える。ことばで認識し思考した結果として得られた事柄を、他者に伝える時に重要な要素は、誰が（筆者）／誰に（読者）／何のために（目的）／何を選んで（素材）／どう書くか（方法）である。これらを意識しながら、様々な形で提示された課題に取り組む。提出された作業結果の分析を通じて、自らとは異なる他者の発想を知る。多様な表現技術の実態に触れ、ことばをめぐる新たな発見をすることができれば、自らの表現力を向上させることができるはずである。さらに、講義内容に関連する事柄を自らの表現でまとめ直すことを試みる。</p> <p>本科目で扱えるものは文章表現の一部でしかないが、大学という“場”で必要であろうと想定される項目を選び、段階をおって、説得力をもつ文章表現を修得するための訓練を行う。</p>		
成績評価の方法	講義内容に関わるレポートおよび実作（5回）50%、ほぼ毎時間の課題30%、授業への参加度20%の割合で評価する。授業への参加度は、どれだけ主体的・積極的に作業に取り組んでいるか、分析結果やそれに係る解説について、どれだけ意欲的に向き合ったかという観点で評定する。		
テキスト	毎時間プリント資料を配付する。		
参考文献	参考文献は、適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	文章表現には、ただひとつの正解というものはないが、読み手に自分の考えを伝えるためには何が必要なのか、自分自身で作業し、考え、つかみ取ってほしい。		

授業科目名	法学		
担当教員氏名	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次以上対象		
免許等指定科目	平成27年度以前入学生 中一種免(社会)選択必修，高一種免(公民)選択必修		
キーワード	法と裁判、民法（財産法，家族法）、刑法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法とは何か、現代社会における法や裁判の役割を説明できる。</li> <li>2 刑法や民法の基本的な考え方を説明できる。</li> </ol> <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。</li> <li>2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</li> </ol> <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。</li> <li>2 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</li> <li>3 他者と協働して課題に取り組むことができる。</li> </ol> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>全学共通教育科目・教養・社会系科目</p>		
授業の内容	<p>現代社会において、私たちのあらゆる生活は、法によって規制されている。法は私たちを拘束するものであるが、それによって私たちの利益が守られている。したがって、法知識は現代人の生活に欠くことができない。</p> <p>この授業では、まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と特に密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①契約や財産に関するルール、②家族制度、③犯罪と刑罰に関するルールなどを取り上げる。</p> <p>これらを通じて、市民生活と法の密接な結びつきを理解し、社会生活に付随する現代の問題を法的な思考に基づいて解決しうる能力を養うことを目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 定期試験 (60%)</li> <li>(2) 授業態度 (10%)</li> <li>(3) 小テスト (30%)</li> </ol> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね法学の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	法学六法'18 (信山社、2017)		
参考文献	<p>中山竜一『法学』（岩波書店 2009）</p> <p>齊藤信幸『現代社会における法学入門』（成文堂 2010）</p> <p>末川博『法学入門 第6版補訂版』（有斐閣 2014）</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。</p> <p>本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。</p>		

授業科目名	日本国憲法		
担当教員氏名	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科1年次以上対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	立憲主義、基本的人権、三権分立、国民主権、精神的自由、経済的自由、法の下での平等		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <p>1 憲法の存在意義を説明できる。 2 基本的人権の内容を説明できる。</p> <p>3 権力分立の意義と統治構造を説明できる。</p> <p>思考・判断・表現の観点</p> <p>1 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。</p> <p>2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>主体性・協働性の観点</p> <p>1 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。</p> <p>2 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>3 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>全学共通教育科目・教養・社会系科目</p>		
授業の内容	<p>ニュースや新聞等では、しばしば憲法にかかわる社会問題が取り上げられる。この授業では、憲法の核である人権保障と統治機構の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。</p> <p>授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容と統治機構について解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト、レポート等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%)</p> <p>(2) 授業態度 (10%)</p> <p>(3) 小テスト、レポート等 (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね日本国憲法の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	<p>(1) 水島朝徳『18歳からはじめる憲法 第2版』（法律文化社、2016年）</p> <p>(2) 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』（筑摩書房、2004年）</p> <p>(3) 池上彰「池上彰の憲法入門」（ちくまプリマー新書、2013年）</p> <p>(4) 渋谷秀樹「憲法への招待 新版」（岩波新書、2104年）</p> <p>(5) 木村草太「憲法という希望」（講談社現代新書、2016年）</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。		

授業科目名	経済学		
担当教員氏名	竹林 栄治（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面（遠隔）授業。授業日程にしたがって、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義に1章を想定し、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられている。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科1・2年次、健康科学科1年次対象、経営学科、経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択必修、高一種免（公民）選択必修		
キーワード	希少性と選択、機会費用、価格機構、比較優位、分業の利益、取引費用		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	授業で学んだ経済学の概念を利用して、経済学的思考ができることを目指す。この科目は経済・経営や社会の仕組みに関する基本的知識を学ぶための科目であるとともに、社会人の教養をなす科目の一つである。		
授業の内容	我々が営む日常生活を経済学の考え方で見ると、我々の常識とは少し異なった風景が見えてくる。本講義では、経済学の基本概念（希少性と選択、機会費用、価格機構、比較優位、分業の利益、取引費用など）を、身近な暮らしの中の事例を取り上げて、分かりやすく説明する。授業の中で、経済学の世界と常識の世界の違いを理解する。その際に単に座学で教科書の知識を頭で理解する（静的授業）だけではなく、五感を使った体感型授業（動的授業）を目指す。		
成績評価の方法	期末試験（80%）と課題（小試験あるいはレポート）等（20%）の総合評価である。		
テキスト	新井 明・柳川範之（編）『経済の考え方がわかる本』岩波ジュニア新書511 2005年		
参考文献	日経新聞社編『身近な疑問が解ける経済学』日本経済新聞社2014年、藤田康範『図解世界一わかりやすい経済学の授業』中経出版2013年、山岡道男・浅野忠克『アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書』アスペクト文庫2013年、柳川範之『東大柳川ゼミで経済と人生を学ぶ』日経ビジネス人文庫2015年、茂木誠『経済は世界史で学べ』、ダイヤモンド社、2013年		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	事前に教科書を熟読することしておくこと。事後に教科書の練習問題を解くこと。授業本番での積極的発言を期待する		

授業科目名	社会学		
担当教員氏名	中島 満大		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科1・2年次，健康科学科1年次，経営学科，経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択必修，高一種免（公民）選択必修		
キーワード	自分らしさ，個性，コミュニケーション，友人関係，近代家族，流行		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義は，社会学の入門に該当する。私たちの身のまわりの現象を，社会学ではどのように考えているのかを紹介していく。社会学のおもしろさを少しでも講義から感じ取ってほしい。そして社会的な考え方を身につけることが本講義の目標である。経営学や経済学などの考え方で，社会学との違いを，他の科目を履修しながら考えていってほしい。		
授業の内容	講義は，日常の風景や「私」という存在，人間関係，コミュニケーション，家族，教育，流行などについての研究をもとにして進めていく。多様なテーマを扱っているが，共通しているのは，私たちにとって身近な問題を考えていくということである。最終的には個々のトピックから「現代社会」がいかにして成立しているのかを論じていく。		
成績評価の方法	コメントカードと講義への参加度に基づく平常点（30％），課題（20％），試験（50％）によって成績評価を行う。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	浅野智彦ほか『考える力が身につく社会学入門』KADOKAWA/中経出版（2010年），井上俊・船津衛『自己と他者の社会学』有斐閣（2005年），落合恵美子『21世紀家族へ』有斐閣（2004年）など		
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	社会学やシラバスのトピックに少しでも興味のある者はぜひ受講してほしい。		

授業科目名	人権論		
担当教員氏名	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次以上対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)選択		
キーワード	基本的人権、自己決定権、人種差別、死刑制度、社会的弱者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 憲法上の人権保障の意義を説明できる。</li> <li>2 多種多様な人権問題の概要、発生原因を説明できる。</li> <li>3 人権問題の解決策を指摘することができる。</li> </ol> <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代の人権問題を多角的かつ冷静に考察することができる。</li> <li>2 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</li> </ol> <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 テレビや新聞等で見聞きする人権問題に関心を持つことができる。</li> <li>2 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</li> <li>3 他者と協働して課題に取り組むことができる。</li> </ol> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>全学共通教育科目・教養・社会系科目</p>		
授業の内容	<p>人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく予定である。また、人権問題に関わる映画を教材とする場合もある。</p> <p>主要な個別論点としては、①人権思想の展開、②自己決定権、③差別問題、④社会的弱者の人権、⑤死刑制度などである。授業においては、裁判例その他の参考資料を利用しつつ、グループワークを取り入れながら、具体的な問題に即して深く考えることができるよう心がける。</p>		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 期末レポート (50%)</li> <li>(2) 授業内の課題レポート (50%)</li> </ol>		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	<p>上田正昭『国際化のなかの人権問題』（明石書店、2004年）</p> <p>横藤田誠『人権入門』（法律文化社、2011年）</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。</p> <p>本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。</p>		

授業科目名	文化人類学		
担当教員氏名	上水流 久彦		
研究室の場所	庄原キャンパス 3305地域連携センター		
オフィスアワー	随時 事前に連絡がある方が好ましい。		
授業の形式・方式	遠隔授業（発信：三原C）講義形式		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	フィールドワーク，文化相対主義，性，婚姻，家族・親族，宗教		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>知識・技能の観点 1 日本とは異なる文化のありようを知る 2 異文化の風習の背景にあることを理解する</p> <p>思考・判断・表現の観点 1 異文化理解の基本的ありかたを深める 2 私たちの常識が持つ問題点を指摘できる 3 性や婚姻などの意義を指摘できる</p>		
授業の内容	<p>「日本に生まれてよかった」と感じる時，そこに文化の優劣はないでしょうか。文化人類学では，文化に優劣はないという考えを基本としていますが，それは理想として語る「あるべき姿」なのでしょう。それとも裏付けがあつてのことでしょうか。どうして文化に優劣はないと言えるのか，この問いを考えるために，第三の性の存在，一妻多夫等の多様な婚姻方法，迷信と思われがちな呪術などを事例として，文化を論じます。</p>		
成績評価の方法	原則，期末試験で評価します。		
テキスト	上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂、2200円+税		
参考文献	授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私語には厳しく対処します。		



授業科目名	基礎数学 (人間文化)		
担当教員氏名	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可, 事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい.		
授業の形式・方式	対面, 講義形式		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象, 健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	行列, ベクトル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	線形代数学の基本であるベクトル・行列の定義および演算を, 普通の数の演算のように自由にできるようになることを目標とする.		
授業の内容	基礎数学では, 統計学など他の専門分野を学ぶにあたって必要な線形代数を学ぶ. 主な内容は, ベクトル・行列の定義とその演算, 行列の階数, 行列の基本変形, 連立1次方程式の解法, 行列式等を紹介する. 随時, 演習や小テストを行い, 理解を深めていきます.		
成績評価の方法	中間試験またはレポート (30%), 期末試験 (60%), および授業中の課題演習 (10%) で評価します.		
テキスト	やさしく学べる線形代数 (石村園子著, 共立出版<9784320016606>)		
参考文献	特に指定なし. 必要に応じて参考資料を配布する.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1回, 1回の授業内容は難しくないが, 各回の内容は密接に結びついています. 前回までの内容を土台として新しい話題が紹介されるので, 理解を深めるための復習が大切です. テキストは演習問題が豊富にあるので, 各自の復習に活用してください.		

授業科目名	基礎数学（経営情報学部）		
担当教員氏名	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面，講義形式		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	行列，ベクトル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	線形代数の基本であるベクトル・行列の定義および演算を，普通の数の演算のように自由にできるようになることを目標とする。		
授業の内容	基礎数学では，統計学など他の専門分野を学ぶにあたって必要な線形代数を学ぶ。主な内容は，ベクトル・行列の定義とその演算，行列の階数，行列の基本変形，連立1次方程式の解法，行列式等を紹介する。随時，演習や小テストを行い，理解を深めていきます。		
成績評価の方法	中間試験またはレポート（30%），期末試験（60%），および授業中の課題演習（10%）で評価します。		
テキスト	やさしく学べる線形代数（石村園子著，共立出版<9784320016606>）		
参考文献	特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	1回，1回の授業内容は難しくないので，各回の内容は密接に結びついています。前回までの内容を土台として新しい話題が紹介されるので，理解を深めるための復習が大切です。テキストは演習問題が豊富にあるので，各自の復習に活用してください。		

授業科目名	統計学		
担当教員氏名	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面，講義形式+情報処理演習室での演習形式		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	人間文化学部 1年次対象，経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	データとは？，データの要約，母集団と標本，推定と検定，回帰分析，統計ソフト		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	データから意味のある情報を抽出する道具として，統計学はとても有効な道具になります。本講義では，統計学の基礎とそれにもとづくデータ解析の初歩を，Rと呼ばれる無料の統計ソフトを用いて身につけることを目標とします。		
授業の内容	統計学の考え方や手法に関する知識は多くの分野において必要とされています。本講義では，データをどのように整理し，その特性をどのように捉えていくかを，具体的なデータを利用しながら理解していきます。無料の統計ソフト「R」を用いた演習を中心に授業を進めていきます。ただし，履修者数によって内容を変更する場合があります（履修者数>PC端末数の場合など）。		
成績評価の方法	中間レポート（30%），期末レポート（50%），および授業中の課題演習（20%）で評価します。		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	統計ソフトの力を借りることで統計学をデータ解析の道具として使えるようになることを目指した授業です。		

授業科目名	物質科学		
担当教員氏名	大竹 才人		
研究室の場所	庄原キャンパス 4301研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義は、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	電子軌道・電子配置・原子構造・分子軌道・混成軌道・化学結合・ $\sigma$ 結合・ $\pi$ 結合・共役系		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	物質を科学するという事は、その構造、性質、振る舞いなどの特徴を、学術的な体系に従って論理的に理解し明らかにしていくことである。ここではその学術体系を学び、物質に対する本質的な理解を系統的に広げていくことで、「科学」を習得していく。		
授業の内容	講義と演習		
成績評価の方法	期末試験により評価する。適宜、小テストやレポートを課す場合もある。		
テキスト	数学いらずの分子軌道論 齋藤勝裕 著 化学同人		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	期末試験により評価する。適宜、小テストやレポートを課す場合もある。		

授業科目名	生活化学		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	化学，人体，健康，食品，薬品，産業，環境，化学的事象，化学物質		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「身近な化学」に関する講義を展開し、生命環境学部分野に必要な化学的知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	身の回りの化学が関与する事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的な思考ができるようになることを目指す。具体的には、生命の化学、食の化学、暮らしの化学、技術の化学、環境の化学について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%，課題レポート30%，小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室（試験室）内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間（90分）内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	生命科学		
担当教員氏名	岡田 玄也・江島 洋介・北台 靖彦・藤井 保		
研究室の場所	1668 (岡田)・1526 (江島)・1426 (北台)・1523 (藤井)		
オフィスアワー	初回の授業時に周知するとともに、各教員の研究室に表示する。		
授業の形式・方式	対面授業を基本とし、双方向性の授業運営に努める。視聴覚教材を使用。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は、レポート作成・提出、並びに中間試験と期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヒトの起源と進化, 細胞, 生命の設計図, 遺伝と環境, 遺伝子診断, 幹細胞技術, 発生と老化, がん, 食と健康, 感染と免疫, 生命倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	近年, 生命科学に関わる諸問題が日常的话题や課題として, 避けては通れないほど身近なものとなっている。本講義では, 生命科学の基礎固めをしながら, 関心の高いテーマ(がん, 生活習慣病, 感染症, 免疫など)を取り上げて概説する。この講義では, 生命現象の基本について理解し, 誰もが必要となる一般教養レベルの知識の修得を目標としている。これにより, 生命科学に関する情報があふれている現代において, 正しい知識や情報を共有し, 客観的に評価できる資質を身につけることにつなげる。		
授業の内容	人間(ヒト)の生命活動を念頭に, 細胞や遺伝子のはたらき, 栄養と健康, 放射線による影響, がんの発症, 感染症と免疫などをテーマに精緻な生命の仕組みに関する理解を深めるとともに, 生命倫理について考察する。 1 ガイダンス(岡田・藤井) 2 細胞の構造と機能(岡田) 3 生体物質と代謝(同) 4 食と健康(同) 5 身近な遺伝(江島) 6 放射線と生物(同) 7 生物としてのヒト(同) 8 中間試験 9 炎症(北台) 10 がん(同) 11 癌と炎症(同) 12 加齢・老化(岡田) 13 自然免疫と獲得免疫(藤井) 14 自己と非自己を見分ける分子群(同) 15 生命倫理(同)		
成績評価の方法	中間試験40%, 期末試験40%, レポート20%の割合で総合評価する。試験は指定された試験日, 指定された教室において実施する。レポートについては, 各教員がそれぞれ1回課題(テーマ)を設定し, 指定日までの提出を課す。		
テキスト	各担当教員が資料を配付する。		
参考文献	・田口英樹著『学んでみると生命科学はおもしろい』ベレ出版 ・各担当教員が授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講目標を念頭におき, 準備学習に取り組んで授業に臨むこと。また, 宿題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	地球科学		
担当教員氏名	吉富 健一（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔授業（広島キャンパス発信） 授業日程に従って、主に講義形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地球，プレートテクトニクス，生命の進化，気象		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	自然を対象として考える時，マイクロからマクロまで様々な空間スケールがあるとともに，時間スケールにおいても通常の時間スケールとは異なる長い時間スケールで捉えることが重要である。 本授業科目では，現在得られている地球や宇宙に対する知識や概念が，過去どのように変遷してきたのか明らかにするとともに，現在得られている知識や情報について考えるきっかけを与える授業としたい。 なお，高等学校で地学を履修していない学生にも充分理解が深まるよう配慮する。		
授業の内容	次の項目を取り上げ，講義する。 ◎地球の構造 ◎プレートテクトニクス ◎地震と火山 ◎生命の進化と絶滅 ◎風の吹くしくみ		
成績評価の方法	期末試験80%，小課題20%の割合で評価する。 期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。		
テキスト	数研出版編集部編『もういちど読む数研の高校地学』（数研出版）		
参考文献	第一学習社『スクエア最新図説地学』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は，正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。課題，試験等において，本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は，大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	県大生として学ぶ広島と世界		
担当教員氏名	上水流 丸山		
研究室の場所	上水流 (庄原C 3305) 丸山 (広島C 1712)		
オフィスアワー	上水流 随時 丸山 随時		
授業の形式・方式	講義形式, グループ討議		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 ありません
履修要件	ありません		
免許等指定科目	ありません		
キーワード	県立広島大学 留学 国外事情		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>知識・技能の観点 ①本学、広島県の特徴、課題を知る。 ②本学が協定を結んでいる大学のある国や地域について理解を深める。 ③自身が関わりを持つ広島と世界の概要を知る。</p> <p>思考・判断・表現の観点 ①国際的にどのような素養が必要かを見極める</p> <p>主体性・協働性の観点 ①各国の事情の情報を積極的に探し、グループ討議に貢献する。</p>		
授業の内容	<p>地域の諸問題への取り組みや国際交流活動において中心的な役割を果たしている教員の講義、及び留学経験者等の話を聴くことを通して、地域に立脚した県立広島大学の歴史と現状、協定校のある中国、韓国、ハワイ、イギリス、インドネシア、タイ、台湾、ドイツ、フィンランド、オーストラリアなどの社会や文化について基本的な知識を修得し、地域での活動や、留学への関心を高める。</p>		
成績評価の方法	<p>広島県という地域や本学、本学が関わりを持っている世界各地の社会や文化について、どれほど関心と理解度を深めたか、毎回の授業後の提出の感想レポートの合計点で行う。</p>		
テキスト	ありません。		
参考文献	授業時に必要に応じて提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	迷惑行為について厳しく対処する。		



授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名	オムニバス・科目担当：五條 小枝子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク（1ヶ所）への参加を課す。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県，自然環境，歴史，文化，産業，地域の実態，地域の課題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>まずは，地域の特性や課題について，様々な観点からの知見を得る。ついで，地域の生の実態を自分の眼で観察し，課題を発見し，その解決策を模索する。最後に，フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ，発表する。これら一連の流れの中で，地域に関する基礎知識を身につけるとともに，物事に主体的に向き合う姿勢を培う。</p> <p>本科目は，全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>本科目では，我々が生活する地域（広島県）に注目し，1）「広島」をいろいろな視点から見つめる，2）「広島」の現状を理解し，その実態を肌で感じ取る，3）「広島」の問題や課題を発見し，それについて考察を加える。これらにより，広島県に対する関心や理解を深め，課題を議論できる素養を身につける。プログラムは，講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境，地域性，歴史，文化，産業など多岐にわたる情報を得て，地域の特性を基礎知識として身につけるとともに，フィールドワークでは，地域の実態と課題を把握し，その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告（プレゼンテーションならびにポスターセッション）し，相互評価する。</p> <p>具体的なプログラムについては，後期開始時に掲示で通知する。</p> <p>（注）シラバスは，前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	<p>①授業レポート計3回（50%）  ②合同発表会における相互評価及び教員評価（40%）  ③授業・フィールドワークへの取組姿勢（10%） で評価する。</p>		
テキスト			
参考文献	参考文献は，必要に応じて，担当者から紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>単位認定の要件として，上述のとおり，レポート提出の他，フィールドワーク（指定された地域の中から1ヶ所選択）と合同発表会への参加を課す。合同発表会は，平成30年2月6日（火）に開催するので，終日予定を空けておくこと。</p> <p>フィールドワーク先への交通費・入館料等は自己負担とする。昨年度の平均負担額は，一人3,300円。ただし，自己負担額の上限（昨年度：3,000円）を定め，超過分について補助される可能性がある。</p> <p>受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ，そこにある問題に気づき，解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p>		

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	五條 小枝子 他		
研究室の場所	広島キャンパス 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。前期集中講義（8月下旬～9月上旬，3コマ×5日間）。 サテライトキャンパスひろしまで実施。 期間中のフィールドワークを含む。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び，地域に密着したテーマについて取材，記事の編集，発信に至る一連の流れを体験することを通じて，地域情報の発信力を身につける。 本科目は，全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 今年度は，「広島の街：これまでとこれから」をテーマとし，地域の抱える課題を探り，現地へ出向いて取材を行い，口頭で意見を述べ，記事として文章にまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	①課題レポート（50%） ②グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50%）		
テキスト	事前に配付される新聞，プリントを用いる。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。		

授業科目名	ボランティア活動		
担当教員氏名	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス4525研究室		
オフィスアワー	最初の授業の時に連絡。可能な限り随時対応。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	集中講義は講義と演習により実施する。また、これとは別に福祉・介護・地域の分野でのボランティア実習を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ボランティア、地域福祉活動、市民福祉活動、NPO		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き、将来積極的に社会貢献に参加して行く人材を養成するために、社会福祉分野でボランティア活動を学ぶ。実践的に学べるよう、ボランティア活動の実践者による講義・演習や学生の実習を主な内容とする。		
授業の内容	(1) 集中講義・演習 ①ボランティア概論（1）・（2） ②ボランティア活動の実際 ③ボランティア活動を知る（1）・（2） ④先輩からの報告・注意事項説明 ⑤ボランティア活動報告 ⑥ボランティア活動で得たものとまとめ (2) 実習（6月～8月） ⑦ボランティア実習 実習条件（予定）：福祉分野でのボランティア活動、実働30時間以上、活動終了後にレポート提出が必須		
成績評価の方法	平常点，ボランティア実習の参加，レポートにより評価		
テキスト	特になし		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	集中講義の日程は、第1～3回の授業が6月10日（土）3～5限、第4～6回の授業が6月17日（土）3～5限、第14～15回が9月7日（木）3～4限なので気をつけること。 参加するボランティア実習先は、各自が探す。ただし、探す際の学生からの相談は担当教員が行う。また、実習中は食費、交通費等の負担がある場合もある。		

授業科目名	留学生と学ぶ広島		
担当教員氏名	柳川順子, 五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス1713, 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	遠隔授業・フィールドワーク・対面形式の合同発表会		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	1~3年次		
免許等指定科目			
キーワード	異文化間コミュニケーション, 広島地域の歴史・文化・産業・自然		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。文化的背景の異なる留学生と日本人学生とが, 広島という地域への理解を深めながら, 異文化間コミュニケーションの基礎を体得することを目標とする。		
授業の内容	留学生と日本人学生が, 県立大学の位置する広島の3地域を訪れ, 当地の歴史・文化・産業・自然とともに学ぶ。フィールドワークで得た知見を, 多様な視点からの調査やディスカッションを通して深め, その成果をレポートやグループ発表によって表現する。ディスカッションは少人数のグループで行い, 成果の発表に向けても, グループを単位とした共同作業を行っていく。合同発表会は, 広島・庄原・三原の学生が一堂に会して行う。		
成績評価の方法	レポート3本(30%), 合同発表会における相互評価及び教員評価(40%), 授業への参加度(30%)により, 総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	3回のフィールドワーク, 及び合同発表会には必ず参加すること。		

授業科目名	海外研修Ⅰ（人間文化・前期）		
担当教員氏名	丸山浩明、吉本和弘		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	この科目は認定科目であり、授業は行わない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外研修、単位認定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修（最低2週間以上のプログラム）は対象となります。 正規の長期留学には適用されません。課外プログラム（相手方のカリキュラム等）を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	海外研修Ⅰ（人間文化・後期）		
担当教員氏名	丸山浩明、吉本和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件	1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外研修、単位認定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修（最低2週間以上のプログラム）は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム（相手方のカリキュラム等）を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	海外研修Ⅰ（経営情報学部・前期）		
担当教員氏名	平野， 韓		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室（平野）， 1636研究室（韓）		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	本科目は，認定科目であり，授業は開設しない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学部全学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して，文化の多様性を知り，共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は，全学共通教育科目に位置付けられる。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し，その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合，この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で，語学研修やその他の活動に自主的に参加した後，所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚，1200字以上）を提出し，経営情報学部の教授会で，その内容が，90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば，単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については，各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	海外研修Ⅰ（経営情報学部・後期）		
担当教員氏名	平野， 韓		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室（平野）， 1636研究室（韓）		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	本科目は，認定科目であり，授業は開設しない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学部全学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して，文化の多様性を知り，共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は，全学共通教育科目に位置付けられる。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し，その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合，この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で，語学研修やその他の活動に自主的に参加した後，所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚，1200字以上）を提出し，経営情報学部の教授会で，その内容が，90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば，単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については，各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		



授業科目名	海外研修Ⅱ（人間文化・前期）		
担当教員氏名	丸山浩明、吉本 和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してから面談してください。		
授業の形式・方式	認定科目であり、授業はない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件	1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外研修、単位認定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修（最低2週間以上のプログラム）は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム（相手方のカリキュラム等）を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	海外研修Ⅱ（人間文化・後期）		
担当教員氏名	丸山浩明、吉本和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してから面談してください。		
授業の形式・方式	単位の認定のみであり授業は行わない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修（最低2週間以上のプログラム）は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム（相手方のカリキュラム等）を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	海外研修Ⅱ（経営情報学部・前期）		
担当教員氏名	平野， 韓		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室（平野）， 1636研究室（韓）		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	本科目は，認定科目であり，授業は開設しない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学部全学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して，文化の多様性を知り，共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は，全学共通教育科目に位置付けられる。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し，その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合，この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で，語学研修やその他の活動に自主的に参加した後，所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚，1200字以上）を提出し，経営情報学部の教授会で，その内容が，90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば，単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については，各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	海外研修Ⅱ（経営情報学部・後期）		
担当教員氏名	平野， 韓		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室（平野）， 1636研究室（韓）		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	本科目は，認定科目であり，授業は開設しない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学部全学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して，文化の多様性を知り，共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は，全学共通教育科目に位置付けられる。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し，その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合，この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で，語学研修やその他の活動に自主的に参加した後，所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚，1200字以上）を提出し，経営情報学部の教授会で，その内容が，90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば，単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については，各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	体育実技Ⅱ（山寺）		
担当教員氏名	塩川満久（三原）、辻文（広島）、楠堀誠司（庄原）		
研究室の場所	広島キャンパス 1541室（辻）		
オフィスアワー	※随時対応 要連絡		
授業の形式・方式	集中授業（別途、説明会を開催します）		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【27年度以降入学生】全学部 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	山寺、自然農法、学生交流		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、異環境下で主体的に健康について考える。  ②健康を取り巻く食生活環境全般について課題意識を持つ。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>大学における基礎・基盤の導入となる体育実技Ⅰに対して、体育実技Ⅱは展開に位置づけられる。すなわち、身体活動をともなう運動から自然と誘発される意識改革のみならず、心身の健康を内面的に考えようとする授業である。</p>		
授業の内容	<p>北広島町円泉寺において、禅宗の作法に準じた生活体験より生活環境と古来からの食生活の関連について考える。また、自然農法により農作物の育成を実践している地域の方々の指導のもと、経済効率を重視した食品との違いについて実践形式の農環境整備を体験する。なお、自然農法による食材にて健康志向に適した調理方法について学修する。</p> <p>さて、この体育実技Ⅱは3キャンパス（広島、三原、庄原）合同の授業であり、作務や座禅・問答を通じたキャンパス間の学生交流も重要なテーマとしている。</p>		
成績評価の方法	実践報告およびレポート等によって総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	<p>実習にかかる費用は自己負担となる。「山寺」では、3,000円（風呂、食材および器材レンタル代）程度の自己負担となる。また、これらに加えて、実習地までの交通費が費用としてかかる。</p> <p>授業内容等についての説明会を行いますので、履修希望者は説明会に参加してください。</p>		

授業科目名	異文化としての日本		
担当教員氏名	柳川順子, 五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス1713, 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	遠隔授業		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	2～3年次		
免許等指定科目	異文化間コミュニケーション認定プログラムの必修科目		
キーワード	異文化間コミュニケーション, 文化の多様性, 価値観の相対化, 日本観, 共生社会, 母語と外国語		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。 日本を外側からの視点で捉え直すことを通して, 文化の多様性を知り, 共生社会を実現してゆける柔軟な思考力を身につけることを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>日本人学生と, 実際に異文化を体感している留学生とが, 日本の文化・社会をテーマにディスカッションすることを通して, 日本をひとつの異文化として捉え直す。本学の外国人教員による講話と質疑応答, それを契機とする調査とディスカッションを重ねながら, 多様な文化の共存や, 異文化間の相互理解に対する認識を深めてゆく。終盤には, 授業で学び得たことを母語以外の言語で発表する機会を設ける。</p>		
成績評価の方法	<p>毎回のミニレポート (50%)、母語以外の言語によるプレゼンテーション (20%)、期末レポート (30%) により評価する。</p>		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	教養ゼミナール（地方から考える日本）		
担当教員氏名	上水流、西川		
研究室の場所	上水流（庄原C 3305） 西川（広島C 2222）		
オフィスアワー	上水流 随時（事前に連絡があることが望ましい） 西川 随時（事前に連絡があることが望ましい）		
授業の形式・方式	対面授業・ゼミ形式		
単位数（時間数）	2		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件	ありません		
免許等指定科目	ありません		
キーワード	地方 地域活性化 中山間地域 観光 地域ブランド 地方産品づくり 地方への移住		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	知識・技能の観点 ①地方の課題を理解する ②地方活性化の取り組み策を知る 思考・判断・表現の観点 ①活性化取り組み先の課題を指摘できる ②有効な具体的対策を提示できる 主体性・協働性の観点 ①他者の指摘の意義と問題点を理解できる ②建設的な意見を行い、グループ討議に貢献できる。		
授業の内容	地方の人口減、高齢化などの課題を知ったうえで、現在地方の活性化のためにどのような取り組みがなされているのか、その利点と問題点をゲストスピーカーも含めた講義、文献、グループ討議通じて理解を深めます。		
成績評価の方法	授業中の発言・発表（30%）、並びにレポート（70%）で評価します		
テキスト	授業開始時に文献を紹介します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業での積極的な質問、発言を期待します。		

授業科目名	教養ゼミナール (Hiroshima Global Studies)		
担当教員氏名	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	対面授業。前期集中講義（土曜日、3コマ×5日間）。サテライトキャンパスひろしまで実施。期間中のフィールドワークを含む。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【27年度以降入学生】 全学部学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	グローバル、地域の歴史・文化・社会、英語による発信		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>目標： 地域の歴史・文化・社会を深く理解し、英語で発信することを通じて、グローバルな視野を養う。</p> <p>位置づけ： 本科目は、全学共通教育科目の教養科目・教養ゼミナールに区分されており、県立広島大学の3年生として幅広い豊かな教養を身につける科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島歴史・文化・社会に関連し、若者にとって関心の高いテーマを選定する。</li> <li>・ 日本語および英語の文献を読み、メディアからの情報収集を行う。</li> <li>・ テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。</li> <li>・ テーマに関する実地見学や体験を行う。</li> <li>・ 学んだ内容を英語で世界に発信する方法を学び、実践する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>①グループ討議や英語による情報発信を含む、授業への参加度（50%）</p> <p>②課題レポート（50%）</p>		
テキスト	プリント教材を使用する。		
参考文献	適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の抱える諸問題に関心を持つとともに、英語でどう発信するかを常に考えておきましょう。</li> <li>・ 「Hiroshima Global Studies」は、「異文化間コミュニケーション認定プログラム」において必修とされる「教養ゼミナール」の一つです。</li> </ul>		



授業科目名	教養ゼミナール グローバルな視点で見る男女共同参画社会		
担当教員氏名	日高 陵好		
研究室の場所	三原キャンパス 3号館5階 (3521室)		
オフィスアワー	メールでアポを取って下さい。		
授業の形式・方式	小人数制のゼミ形式。対話、ディスカッション、抄読、調査（フィールドワーク）、発信		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択科目 異文化間コミュニケーション 認定プログラムである。
履修要件	特になし		
免許等指定科目	特になし		
キーワード	グローバル, 男女共同参画、ジェンダー格差		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>① グローバルな視点を入れて、わが国の男女共同参画社会について考察できる。</li> <li>② 課題発見から、計画、調査、発信の一連の作業を通して一つの成果を出すことができる。</li> <li>③ 文献資料、フィールドワーク、ディスカッションを行う中で、批判的に思考し、自らの考えを構築できる。</li> <li>④ 一連の流れを踏みながら、思考力、クリティーク力、協働力をつける。</li> </ol>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画社会に関係するテーマにゼミ形式で取り組む。</li> <li>・ジェンダーを含めた社会の中の男女の位置づけ、役割、法的保護、ワークライフバランス等、また夫婦やカップル間の男女のあり様、男女の働き方、社会への参画、こうした中からテーマを選定する。</li> <li>・テーマについて、グローバルな視点からわが国について考察する。</li> <li>・国内外の文献資料の読解と解釈を行う。必要に応じて英文資料のこともある。</li> <li>・広島をフィールドとして、調査を行い、現実社会を通してテーマへの理解を深める。</li> <li>・学修の最後は、一つの成果として発信を行う。</li> </ul>		
成績評価の方法	主体的、積極的な参加を評価する。また、プレゼンまたはレポート他の成果物を評価する。		
テキスト	特になし。		
参考文献	随時提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	*【重要】第1回目の日時（場所はサテライトキャンパスを予定）は受講生のスケジュールを調整して決めます。そのため、受講登録したら、必ず私のメールアドレス宛に、「学部・学科・学籍番号・氏名・電話番号」を明記して連絡を下さい。		

授業科目名	教養ゼミナール（対話で進める精神保健・福祉）		
担当教員氏名	江本純子		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室		
オフィスアワー	事前予約により、個別に対応します。		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数（時間数）	2	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 3,4年、選択
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	対話力 精神保健・福祉		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	大学生として基本的に必要である議論（対話）する力、すなわち、身近な問題を言葉で表現し、議論する力を培うとともに、議論することの楽しさ、醍醐味を味わう。		
授業の内容	授業は以下5点を中心にした内容とする。第1に、身近な問題を精神保健・福祉の視点で考える力を養う。第2に、それを言葉で表現する力を培う。第3に、他の人の意見をきちんと聞く力を培う。第4に、議論しあう力を培う。第5に、議論を深めるために必要な基礎的力をつける。		
成績評価の方法	評価方法 全授業3分の2以上参加者のみを評価の対象とします。評価は、授業（討論等）への参加状況60%、レポート等課題40%とします。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の出欠の扱いは、大学の規定に従います。欠席の場合の代替措置はありません。		

授業科目名	教養ゼミナール（異文化組織とCSR）		
担当教員氏名	小原 久美子		
研究室の場所	1721小原研究室		
オフィスアワー	メール又はTELにて予約の上、実施する。		
授業の形式・方式	対面による講義および実習形式（後期、広島キャンパス）		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 全学共通教育：選択
履修要件	3年次以上を対象とする。		
免許等指定科目	企業経営に関する各種資格試験内容を含む。		
キーワード	CSR(企業の社会的責任)、現代CSR経営、企業の組織文化、日本のCSR、ヨーロッパのCSR、アメリカのCSR、広島地域企業のCSR、異文化組織、組織の異文化融合とCSR、これからのグローバル化したCSR課題、等。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業は、全学共通科目の中での「教養ゼミナール」であり、特に現代的課題であるCSR（企業の社会的責任）について興味をもつ学生を対象に、CSRの現代的課題の解明を試みようとするものである。その場合、個々の企業にまず着目する。なぜなら、CSRは個々の企業ごとに、その内容が異なっており、CSRの認識の仕方、その責任の在り方や具体的実践内容に違いがあるからである。</p> <p>そこで、本ゼミナールでは、その異なりを組織的価値観の違いや組織文化の違いにあると仮定し、「いかなる組織文化を持つ企業が、より責任ある企業としてのCSRを実現することができるか。また、これからのグローバル化した企業の異文化間におけるCSR実践事例の内容はどのようなものか」を考えることにある。</p> <p>授業目標は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代CSR経営とは何か、その基本的な概念と特徴を理解する。</li> <li>2. 海外における異文化（経営）組織のCSR事例を分析し、そこから学べるものを抽出する。</li> <li>3. 日本及び広島地域のCSR事例を分析し、日本のCSR経営の現状を理解する。</li> <li>4. グローバルな視点から、日本や広島地域のCSRのあり方や今後の課題を考える。</li> </ol>		
授業の内容	<p>企業の社会的責任については、今日ではCSR経営として、多くの企業が積極的に取り組んでいる課題であることは周知のとおりである。日本でCSRの議論や取組、持続可能な発展を求めるグローバルな潮流があり、CSRに関する国際行動基準の広がり起因するものである。</p> <p>グローバル化した異文化組織間におけるCSRをケース課題に基づきながらともに考え、日本や広島地域におけるCSRの在り方や今後の課題を考える授業を実施する。</p> <p>ゼミナールであるので、異なる組織文化を持つ企業のさまざまなCSR実践事例を基に、本ゼミの皆さんのより活発なディスカッションを通じて、異文化組織とCSR実践との関係性について解明する。そして、これからのCSR実践の在り方について考えるとともに、CSR実践技法をも習得していく。</p>		
成績評価の方法	授業参画度（課題発表およびグループディスカッション） 40% 課題レポート作成 60%		
テキスト	プリント配布資料に基づいて授業を行う。テキストは皆で相談の上、後日決定する。		
参考文献	谷本寛治著『責任ある競争力—CSRを問い直す』エヌティティ出版、2013年4月11日発行。適宜、自作のプリント教材も配布する。		
備考（履修上のアドバイス・禁止行為等）	本授業では、平常点も含めて総合的に評価する。授業での個別の発表や、グループディスカッションにも積極的に参加してほしい。また、ゼミナールであるので、異文化組織のマネジメントやCSR（企業の社会的責任）について、興味を持ち、探究心のある学生を望んでいる。		

授業科目名	教養ゼミナール（異文化理解）		
担当教員氏名	秋山 伸隆, 小川 俊輔, 鈴木 康之, 鄭 銀志, 柳川 順子		
研究室の場所	1924, 1913, 1912, 1717, 1713		
オフィスアワー	各研究室に提示		
授業の形式・方式	集中講義、対面授業。一部にフィールドワークを含む。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	3年次対象		
免許等指定科目	異文化間コミュニケーション認定プログラム必修科目「教養ゼミナール」の一つ		
キーワード	異文化理解、中国古典、韓国文化、考古学、日本語学、日本史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目・教養の枠に位置づけられるゼミナール。 現代を生きる私たちは、誰もが国際社会の一員である。そんな私たちに必要な、基本的姿勢と教養とを身につける。		
授業の内容	異文化とは何か、なぜそれを理解する必要があるのか、異文化理解に不可欠なことは何か、といった問題意識を持ちながら、日本、東アジア、英米の3地域を主軸として、さまざまな文化の諸相や地域間交流に関する教養を身につけ、それをもとに、国際社会の一員として生きる姿勢を模索する。授業は、講義とディスカッションとを組み合わせる。		
成績評価の方法	担当教員ごとに課せられるレポートにより評価する。		
テキスト	各担当教員から別途指示する。		
参考文献	13~15回の参考文献：村井章介『中世日本の内と外』（筑摩書房、1999年）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教養ゼミナール（ヒトと言語・コミュニケーション）		
担当教員氏名	細川淳嗣		
研究室の場所	三原キャンパス3号館4階 3421		
オフィスアワー	特に設定しない。メールで連絡し随時		
授業の形式・方式	学生自身の発表を含むゼミ形式		
単位数（時間数）	2		学科または専攻毎の必修・選択の別 全学・選択科目
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	言語・コミュニケーションという、ヒトの行動を俯瞰的にとらえ、理解することが本ゼミナールの目標である。		
授業の内容	<p>概要： 言語を使ったコミュニケーションを行うことは、ヒトという種の大きな特徴の一つである。このゼミナールでは、ヒトという種をより広く・深く理解するための一つの視点として、言語とコミュニケーションをキーワードとして、様々な視点からの議論を行う。</p> <p>種としての時間軸（進化） 広がり（言語の多様性） 個としての時間軸（発達） 手段の多様性（音声、文字、手話） ミクロレベルからマクロレベルまで（分子レベルー組織レベルー個体レベルー社会レベル） 正常と異常 情報としての言語</p> <p>以上に挙げたさまざまな視点から自分のテーマに興味に従って選択し、調査し発表することを繰り返し、よりよいレポートを作成する。 15回のゼミナールの中でこれを2回繰り返す。</p>		
成績評価の方法	毎回の発表と議論への参加状況 50% レポート2回分 25%*2 により評価します。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>「教養ゼミナール」の目的を各学生が達成するために次のことを求めます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の専門と異なる視点からのテーマを選ぶ。</li> <li>・選択したテーマについて他の学生よりも詳しくなるように調べる。</li> <li>・専門でないメンバーにも分かるように発表し説明できるように努力する。</li> <li>・質問者は発表者の発表がよりよくなるためにはどうしたらいいかという視点をもって質問する。</li> </ul>		

授業科目名	教養ゼミナール（現代社会の諸課題について考える）		
担当教員氏名	福岡 政行		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	ゼミ形式での講義・演習，フィールドワーク		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科 3・4年次		
免許等指定科目			
キーワード	メディア・災害・危機管理・ボランティア		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	情報の受け止め方と個人々の判断力の養成 <ゼミ内ディスカッションとプレゼンテーション，さらに現場現地主義の下での行動力と判断力の育成>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎各自のレポート発表と5分間プレゼン</li> <li>◎ゼミ生相互のディスカッションとサマリー</li> <li>◎討論後，自己レポートの修正をし，再度提出</li> <li>◎報告，連絡，相談，そして確認の4ステージ</li> <li>◎Q&amp;Aを中心に，リパッタル重視</li> <li>◎自己分析とその結果にあるものを抽出することを目標とする！</li> </ul>		
成績評価の方法	総合判断（レポートを含む）		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	体力・ガッツ・気配りの三大モットーを… シラバスは柔軟に運用することがある。 シラバスに記載されている15のテーマを11回の講義に集約し，6月27日（火）まで開講。 これに加えて，フィールドワークを実施する（講義4～5回に相当，夏季休業中の予定）。		

授業科目名	宮島観光学入門（英語）		
担当教員氏名	主担当：大知徳子 副担当：馬本勉、西本寮子 外部講師：ウェバー・リチャード・チャールズ		
研究室の場所	宮島学センター（2219）		
オフィスアワー	宮島学センターに大知が在室する時はいつでも可。メール等で事前に予約することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業に加えて宮島でのフィールドワーク、ガイド実践もおこなう。ガイドの準備はグループで作業をおこなう。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学部 全学年		
免許等指定科目			
キーワード	宮島，英語，ガイド，ボランティア，国際交流，観光，歴史，文化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業では、宮島の歴史や文化に関する基礎知識を身につけ、学生が自ら宮島の魅力を発見し、授業後半に実施する現地でのガイド実践において、自分のことば（英語）で発信することを目標とする。 カリキュラム上の位置づけ：全学共通教育科目「広島と世界」		
授業の内容	世界文化遺産「厳島神社」を有する宮島の歴史や文化について国際的な視点で学び、英語で分かりやすく案内できる力を養う。 授業の前半では宮島の歴史や文化に関する基礎知識について学び、少人数のグループに分かれて役割を分担し、ガイド原稿やツールを作成する。また、宮島でフィールドワークをおこない、外国人観光客に対するガイドの技術を身につける。 授業の後半では、グループごとに作成したガイド原稿やツールを用いてバーチャルガイドをおこない、受講生全員でディスカッションし、発信力の向上を試みる。 この授業の最後におこなう宮島におけるガイド実践では、ガイドを通して外国人観光客と交流する力を養う。		
成績評価の方法	知識の修得状況と実践（宮島でのガイド）により評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。 参考として「京都学生ガイド協会」の実践例を紹介する。（ <a href="http://association-of-guide.baribari.cc/">http://association-of-guide.baribari.cc/</a> ）		
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	初回のガイダンスに必ず出席すること。授業の適正な規模と環境を保つため、受講定員を20名とする。希望者が多い場合は、将来留学を検討している者、観光業への就職を希望する者などを優先する。TOEIC450点程度を履修要件とする。 国際文化学科2年次配当科目「宮島学」、国際文化学科3年次配当科目「宮島観光学」を履修し、発展的に学ぶことが望ましい。		

授業科目名	ライフデザイン		
担当教員氏名	日高陵好、村上恵子、岡田高嘉		
研究室の場所	日高陵好 三原キャンパス 3521研究室 村上恵子 広島キャンパス 1647研究室 岡田高嘉 広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	日高陵好(メールでアポを取って下さい) 村上恵子 随時(事前にメールでアポを取ってください) 岡田高嘉 随時		
授業の形式・方式	3キャンパス合同型の集中講義・オムニバス講義		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ライフサイクル、リプロダクティブヘルス、ライフプラン/生活設計、資産運用、リスク管理、税務/採用、賃金、労働時間		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の基本的内容を理解している。</li> <li>2 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の知識を実生活に応用できる。</li> </ol> <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実生活で直面する課題を、多面的かつ論理的に考察することができる。</li> <li>2 他者の声に真摯に耳を傾けつつ、集団の中で多様な自己表現ができる。</li> </ol> <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</li> <li>2 他者と協働して積極的に課題に取り組むことができる。</li> </ol> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>全学共通教育科目キャリア</p>		
授業の内容	<p>本科目は、3名の教員によるオムニバス科目です。将来のライフデザインを描く上で重要となる①リプロダクティブヘルス、②金融、③労働法について学びます。3名の教員が順次講義を行います。</p> <p>また、本科目は、「3キャンパス合同型」の集中講義です。受講生は、夏季休業期間中に1つのキャンパスに集まり、他キャンパスの学生と協働しながら学びます。グループディスカッションやプレゼンテーションなど協働参加型の学修を積極的に活用します。開講キャンパスは、「日替わり」で、キャンパス間の移動にバスを利用する予定です。</p>		
成績評価の方法	<p>各教員が、以下の点を総合的に考慮し、各々100点満点で評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各分野の基本的知識・技能の修得</li> <li>②知識・技能の応用・展開力(知識・技能を応用した問題解決力)</li> <li>③能動的な学修態度</li> </ol> <p>最終的な成績評価は、各教員が算出した点数の平均値とします。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。		
参考文献	<p>水町勇一郎『労働法入門』(岩波新書、2011年)</p> <p>貝塚啓明・吉野直行・伊藤宏一(編著)『実学としてのパーソナルファイナンス』(中央経済社、2013年)</p>		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	4月の履修登録期間中に、本科目にかかるガイダンスを行います。集中講義の日程、開講キャンパス、移動方法などの詳しい事柄についてお話をしますので、受講希望者は必ずガイダンスに出席してください。		



授業科目名	教職入門		
担当教員氏名	中村 勝美 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主に、講義を中心とするが、一部グループワーク(討論や発表)を取り入れる。学生は、講義への出席、小レポート等の課題の提出が求められる。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必須, 栄養一種免必須		
キーワード	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容(研修、サービス、身分保障) 進路選択		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業は、教職課程の導入科目である。  授業の目標は下記の4点である。 1) 現代の教育の問題を理解し、教師の役割について考察する。 2) 教師の職務内容について説明できる。 3) 自らの教師としての資質能力について省察する。 4) 自己の教育観をもとに、教師としての使命感を培う。		
授業の内容	近年、孤立した子育て、育児不安や虐待、いじめや不登校、格差社会への不安など家庭や学校は様々な問題を抱えている。一方、変化の激しい時代の中で、教師に対しては地球や人類のあり方を自ら考え行動する能力、問題解決能力やコミュニケーション能力、実践的指導力などが求められている。本講義では教師という職業を選択することについて、学生自らが熟考する機会を提供すること、および教員養成に対する現代的課題を踏まえ、教育者としての使命感を育むことを目的とし、教師という職業に必要な基本的事項について学習する。また、現代の学校が抱える諸問題を取り上げながら、教師に求められる資質や役割について探求する。		
成績評価の方法	期末レポート(70%)、課題レポート(30%)の割合で評価する。課題レポートについては、授業の際に詳細を指示する。		
テキスト	とくに使用しないが、講義でレジュメを配布する。		
参考文献	①秋田喜代美他『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ、②山田浩之『漫画が語る教師像』昭和堂、③汐見稔幸編『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、④内藤朝雄『いじめの構造』講談社現代新書、⑤柿沼昌芳他『教師という<幻想>』批評社、⑥赤田圭亮『不適格教員宣言』日本評論社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本授業は、教職課程の学生のための授業である。将来、教職をめざしている学生であることを前提とし、授業中の私語、携帯電話およびスマートフォンの使用については厳しく対応する。		

授業科目名	<b>教育学概論</b>		
担当教員氏名	藤井 宣彰		
研究室の場所	庄原キャンパス 2409研究室		
オフィスアワー	木曜日3時限		
授業の形式・方式	対面の講義形式の授業である。授業日程に従って、各回の内容に関連する資料を配付する。授業には配布した資料を読んでもらうこと。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	人間文化学部，経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修、栄養一種免必修、学芸員資格必修		
キーワード	教育理念、学校制度の歴史、人間の発達、教育思想、学校組織、生涯学習、教育問題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、教育の初学者を対象として、教育学の概要や教育の基本的な概念について講述する。教育に関する基本的な概念について理解することを目的とする。教育職員免許を取得するための必修科目である。 教育の理念について理解すること、主要な人物の教育思想を理解すること、学校教育の成立過程について理解すること、現代の教育の動向に触れることが目標である。		
授業の内容	大学入学以前に生徒として関わっていた学校教育について、その成立の過程を教育の通史や教育の思想から考える。それらの内容を踏まえ、教育の意義や目的、現代の教育に関する制度、教育実践、教育問題の解説と考察を行う。教育学の入門としての内容で構成する授業である。受講者がいままで当然のように接してきた学校教育がどのように成立してきたのか、その一端に触れるとともに、学びは学校に通う時期のみならず、生涯にわたることを理解することを目的とする。		
成績評価の方法	①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。		
テキスト	特になし（適宜資料を配付する。）		
参考文献	田代直人・佐々木司編『新しい教育の原理-現代教育学への招待-』ミネルヴァ書房、2010年。 <9784623056866>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	生徒の立場から教師の立場へ変わることを自覚して学ぶこと。 学校ボランティア等に積極的に取り組むこと。 近世以降の歴史、特に産業革命や明治維新について復習しておくこと。		

授業科目名	教育心理学		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～3回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科・経営学科・経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修、栄養一種免必修		
キーワード	児童・生徒の知的能力、学習の動機づけ、学習指導法、教育評価、家庭学習、障害の理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、教員免許取得を希望する学生を対象にして、児童・生徒の学習過程など教育活動に関わる心理学について、基本的な内容を講述する。将来「せんせい」と呼ばれるようになるときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけること、また、そのような知識をどのようにして教育活動に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることを目標とする。本科目は、中・高等学校教諭及び栄養教諭の免許に係る教職に関する必修科目で、教育の基礎理論に関する科目の一つとして位置づけられている。生徒・進路指導論、教育相談等の他の教職に関する科目で扱う内容は扱わない。		
授業の内容	授業では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価など教育活動に関わる心理学についての基本的知識の獲得を目指す。また、特別な学習支援が必要な児童・生徒の学習過程についても、その特徴などを学ぶ。この授業の目標は「心理学による教育方法の充実」である。授業内容を理解すれば、みなさんが今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくであろう。あくまでも基礎的な内容しか触れられないため、この授業をきっかけに教育に関する心理学に興味をもち、さらに発展した内容を勉強したいと感じ、実行する手助けになればと考える。		
成績評価の方法	試験70%、小テスト20%（小テスト4回、各5%）、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。小テストの日程と範囲は、第1回の授業において提示する。		
テキスト	第1回の授業において提示する。		
参考文献	主な参考文献は以下の通りである。 豊田弘司 編著（2009）「改訂版 教育心理学入門」（小林出版） 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2005）「改訂版 やさしい教育心理学」（有斐閣） 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房） 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房） 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房） また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、ポータル、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	教育社会学		
担当教員氏名	藤井 宣彰		
研究室の場所	庄原キャンパス 2409研究室		
オフィスアワー	木曜日3時限		
授業の形式・方式	対面の講義形式で行い、一部でグループワークや発表を取り入れる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	各学科、2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修、栄養一種免必修（平成28年度入学生より）		
キーワード	教育制度、教育法規、教育経営組織、教育改革		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目は、教育職員免許法等に基づき開設されている本学教職課程の科目である。特に教育の基礎理論に関する科目として開講されており、とりわけ教育に関する社会的・制度的・経営的事項を中心に学習する。</p> <p>学校制度と改革動向について基本的な知識を身につけること、学校教育の役割について理解すること、教員の職務について理解することを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>教育は社会とともに在る。今日の複雑な社会において、政治・経済・社会等と学校教育の制度の関係を知ることも大切であろう。また高度成長に象徴される経済的動向が、どのように教育を変えていったのかを知ることも無視できない視点である。そして少子高齢化の豊かな社会で、あふれるばかりの情報にさらされた子どもにとって、教育とはいったいどんな意味を持つのだろうか。進学率上昇の一方でおさまる気配の無い教育病理の進行という矛盾した姿を見るにつけ、現代教育の置かれた困難な課題を紐解く分析力が切に求められている。</p> <p>教員として勤務し、生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営に関する事項を学修する。</p>		
成績評価の方法	①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。		
テキスト	特になし（適宜資料を配付する。）		
参考文献	河野和清編著『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。〈9784571101441〉 『教育六法』（出版社は問わない）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>生徒の立場から教師の立場へ変わることを自覚して学ぶこと。</p> <p>学校ボランティア等に積極的に取り組むこと。</p> <p>中学校及び高等学校公民で学んだこと、特に日本国憲法、民主主義、地方自治について復習しておくこと。</p>		

授業科目名	教育課程論		
担当教員氏名	吉田 成章 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、各回で配付する授業資料をもとに講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修		
キーワード	教育課程, カリキュラム, 教育方法, 授業構成		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学校カリキュラムの開発に関する知見を教育課程の歴史・原理と具体的な教育実践から学ぶことによって, 教職能力の基盤となる教育課程論を構成する知識と技能を習得する。		
授業の内容	<p>教育課程とカリキュラムの概念上の違いを確認した上で, その編成原理と方法について歴史的展開や具体的な教育実践をもとに講述する。また, 今日の学力論議や諸外国のカリキュラム改革などにも触れながら, 教育課程を編成するための視点と課題を提示する。以下が具体的な内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学におけるカリキュラムの位置と役</li> <li>2. カリキュラムの概念と歴史的展開</li> <li>3. カリキュラムの類型と教育課程の構造</li> <li>4. 戦後学習指導要領の変遷</li> <li>5. 教育課程行政と今時学習指導要領改訂 (教育基本法第2条の「教育の目標」の批判的検討および「部活動」をはじめとした学校カリキュラムの構成の多角的検討を含む)</li> <li>6. 生活中心カリキュラムの理論と実践</li> <li>7. 学問中心カリキュラムの理論と実践</li> <li>8. 教育課程における目標-内容-方法-評価 (「育成すべき資質・能力」の学校カリキュラムにとっての意義と課題の検討および各教科における「見方・考え方」および「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学び」の批判的検討を含む)</li> <li>9. 工学的アプローチと羅生門的アプローチ</li> <li>10. 諸外国のカリキュラム改革</li> <li>11. 学力の構造と評価の論理 (学力論の知見を踏まえた学校教育法第30条第2項のいわゆる「学力の三要素」の批判的検討を含む)</li> <li>12. 教科書教材の研究とメディアの構成</li> <li>13. 学校づくりとしてのカリキュラム開発</li> <li>14. カリキュラム評価と学校改善</li> <li>15. 学校カリキュラムの編成と評</li> </ol>		
成績評価の方法	<p>授業への参加：20%，中間課題：10%，期末試験：70%の割合で評価する。          中間課題については、授業の中でテーマを提示する。          期末試験については、授業で配付した資料・プリントおよび授業ノートの持ち込みは可とし、指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。</p>		
テキスト	<p>授業プリント・資料を各回毎に配付する。          平成20年版中学校学習指導要領あるいは平成21年版高等学校学習指導要領を各自で入手しておくこと。</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	道徳教育論																		
担当教員氏名	宮里 智恵 (非常勤講師)																		
研究室の場所																			
オフィスアワー																			
授業の形式・方式	主に講義形式で行う。必要に応じてグループ学習や討論、学習指導案の作成、模擬授業を取り入れる。																		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択																
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象																		
免許等指定科目	中一種免 (全教科) 必須, 高一種免 (全教科) 選択, 栄養一種免必須																		
キーワード	道徳教育, 道徳授業, 学校教育																		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解を深める。特に「道徳の時間」を中心にして実際の道徳授業を検討しながら、発達段階に応じた道徳教育のあり方についての理解を深める。																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>9 プログラムタイプの道徳授業</td> </tr> <tr> <td>2 道徳教育と道徳の時間</td> <td>10 板書構成の仕方</td> </tr> <tr> <td>3 子どもの道徳性の発達的特徴</td> <td>11 学習指導案の作成① (主題観について)</td> </tr> <tr> <td>4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業 (て)</td> <td>12 学習指導案の作成② (授業展開について)</td> </tr> <tr> <td>5 道徳教材の読み方</td> <td>13 模擬授業</td> </tr> <tr> <td>6 心情ジレンマタイプの道徳授業</td> <td>14 道徳授業の評価</td> </tr> <tr> <td>7 発問構成の工夫</td> <td>15 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)</td> <td></td> </tr> </table>			1 オリエンテーション	9 プログラムタイプの道徳授業	2 道徳教育と道徳の時間	10 板書構成の仕方	3 子どもの道徳性の発達的特徴	11 学習指導案の作成① (主題観について)	4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業 (て)	12 学習指導案の作成② (授業展開について)	5 道徳教材の読み方	13 模擬授業	6 心情ジレンマタイプの道徳授業	14 道徳授業の評価	7 発問構成の工夫	15 まとめ	8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)	
1 オリエンテーション	9 プログラムタイプの道徳授業																		
2 道徳教育と道徳の時間	10 板書構成の仕方																		
3 子どもの道徳性の発達的特徴	11 学習指導案の作成① (主題観について)																		
4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業 (て)	12 学習指導案の作成② (授業展開について)																		
5 道徳教材の読み方	13 模擬授業																		
6 心情ジレンマタイプの道徳授業	14 道徳授業の評価																		
7 発問構成の工夫	15 まとめ																		
8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)																			
成績評価の方法	レポート (40%)、期末試験 (60%) で評価する。																		
テキスト	心をひらく道徳授業実践講座【1】「やさしい道徳授業のつくり方」鈴木由美子、宮里智恵 溪水社 2012																		
参考文献	「子どもが変わる道徳授業—小中学校タイプ別授業事例集—」(鈴木由美子・宮里智恵・森川敦子編著 溪水社)																		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)																			

授業科目名	特別活動論		
担当教員氏名	山田 浩之 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	特別活動、およびその前提となる教育問題などに関する講義と、学生による報告、実践によって授業を進める。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	特別活動 ホームルーム 生徒会 学校行事		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	特別活動は学校内における生徒の活動を支える重要な役割を持っているが、その理論や位置づけは曖昧である。本講義では、まず、特別活動の理論と歴史ばかりでなく、近年の教育問題や教育改革を背景として、その意義について検討する。それとともに、具体的な特別活動の事例を用いながら、学生自身によってその運営と実施について検討し、報告・実践を行う。これらの学習により、特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ、学生自身が実際に特別活動の企画、運営を行う基礎を養うことが本講義の目標である。		
授業の内容	<p>前半は講義を中心とし、特別活動の歴史、戦後の役割の変化と理論などについて学ぶ。後半は、グループワークを中心として授業を進める。グループワークでは、まず自身の中学生、高校生時代の特別活動を振り返る。その後、振り返りにもとづいてテーマを設定し、教材研究、学習指導案の作成を行い、その上で特別活動の実習を行う。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン - 特別活動とは何か  第2回 特別活動の歴史  第3回 学習指導要領の変遷と教育問題  第4回 学校と教員へのまなざしの変化  第5回 戦後における特別活動の制度化  第6回 現代における特別活動の意義  第7回 特別活動を支える理論とその社会的背景  第8回 グループワーク1 - 指導計画の作成  第9回 特別活動の内容と指導法1 - 学級活動・ホームルーム活動  第10回 特別活動の内容と指導法2 - 児童会・生徒会活動  第11回 学校行事の内容と指導法1 - 儀式的行事  第12回 学校行事の内容と指導法2 - 健康安全・体育的行事  第13回 学校行事の内容と指導法3 - 文化的行事  第14回 グループワーク2 - 指導計画の再作成  第15回 まとめ - これからの特別活動</p>		
成績評価の方法	授業中に行う小テスト (30%)、報告内容と質疑 (30%)、最終レポート (40%) により評価する。		
テキスト	山田浩之編『特別活動論』協同出版 2014年 文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』海文堂出版、2010年。		
参考文献	特になし (教科書以外に必要な資料などは適宜配布する。)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育方法学																		
担当教員氏名	深澤 悦子 (非常勤講師)																		
研究室の場所																			
オフィスアワー																			
授業の形式・方式	対面授業																		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択																
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象																		
免許等指定科目	中・高一種免 (全教科) 必修, 栄養一種免必修																		
キーワード	教育方法 学習指導 授業研究 指導技術 メディアの活用																		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育方法学に関する学術的動向と歴史をふまえ, 授業方法や指導技術に関する知見を深め, 教師に必要な, 実践的知識や技能を習得する。																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 教育方法学とは</td> <td>9. 授業のタクト</td> </tr> <tr> <td>2. 教育方法の歴史</td> <td>10. 授業構想と指導案</td> </tr> <tr> <td>3. 子ども理解と教えること</td> <td>11. 教材開発</td> </tr> <tr> <td>4. 学力問題と指導のあり方</td> <td>12. 実践的な指導力</td> </tr> <tr> <td>5. 確かな学力の形成</td> <td>13. 評価の方法</td> </tr> <tr> <td>6. メディアリテラシー</td> <td>14. 授業研究と教師の専門性</td> </tr> <tr> <td>7. コンピュータを活用した授業</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 学習指導と学習形態</td> <td></td> </tr> </table>			1. 教育方法学とは	9. 授業のタクト	2. 教育方法の歴史	10. 授業構想と指導案	3. 子ども理解と教えること	11. 教材開発	4. 学力問題と指導のあり方	12. 実践的な指導力	5. 確かな学力の形成	13. 評価の方法	6. メディアリテラシー	14. 授業研究と教師の専門性	7. コンピュータを活用した授業	15. 全体のまとめ	8. 学習指導と学習形態	
1. 教育方法学とは	9. 授業のタクト																		
2. 教育方法の歴史	10. 授業構想と指導案																		
3. 子ども理解と教えること	11. 教材開発																		
4. 学力問題と指導のあり方	12. 実践的な指導力																		
5. 確かな学力の形成	13. 評価の方法																		
6. メディアリテラシー	14. 授業研究と教師の専門性																		
7. コンピュータを活用した授業	15. 全体のまとめ																		
8. 学習指導と学習形態																			
成績評価の方法	出席と提出物およびテスト																		
テキスト																			
参考文献	日本教育方法学会編『確かな学力と指導法の探究』 図書文化 吉本 均『教室の人間学』 明治図書																		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	資料を配布しますので, 15回分ファイリングしてください。																		



授業科目名	生徒・進路指導論		
担当教員氏名	坪田 雄二		
研究室の場所	2407		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	対面授業授業日程に従い、講義形式で実施		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科、健康科学科、経営学科、経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修、栄養免一種必修		
キーワード	生徒指導、学校における問題行動、生徒理解、学級経営、進路指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>教職免許施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」のうち、「生徒指導・進路指導の理論及び方法」に相当する科目である。多くの学生にとって、これまで児童・生徒の立場から見てきた生徒指導と本来の意味での生徒指導には大きなギャップが存在すると思われる。まずはそのギャップを知ること、そして生徒指導が目指しているものを正しく理解できることが目標である。</p>		
授業の内容	<p>学校教育の大きな柱である生徒指導の意味と役割、不登校、いじめ、体罰などの学校における問題行動の実態やその対応時の留意点、教育活動の基礎となる生徒理解の方法とそれに伴う問題点、学級を望ましい教育集団にするための方法、単なる進路先の決定にとどまらない進路指導の理念などを解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席がある学生に対して、期末試験を実施し、その結果をもとに評価をおこなう。なお、公共交通機関の遅れなどの正当の理由のない遅刻は欠席扱いとする。</p>		
テキスト	生徒指導・進路指導論 森田（編） 協同出版		
参考文献	生徒指導提要 文部科学省		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育相談		
担当教員氏名	森田 裕司 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免 (全教科) 必修, 栄養一種免必修		
キーワード	カウンセリング, 相談, 応答訓練, トラウマ, 発達障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①学校現場の様々な心理的問題に対する正しい理解と適切な対応ができるようになること。 ②カウンセリングの基本的態度を身につけること。		
授業の内容	不登校, いじめ, 神経症, 精神病, 児童虐待, トラウマ, 発達障害など, 学校現場には様々な問題が山積しており, 教師には正しい理解と適切な対応が求められる。本講義では学校教育相談の課題を明らかにした上で, 相談室活動のしかた, カウンセリング的態度等を学ぶ。さらに不登校, 児童虐待, トラウマ, 発達障害などについては, 具体的な事例を取り上げ, 対応方法を検討していく。		
成績評価の方法	取り組みの姿勢, 小レポート, まとめレポート課題をもとに総合的に評価する。		
テキスト	『心理学ナビゲータVer.2』神田義浩ほか, 北大路書房, 2011年		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義では体験実習や話し合いを重視するので, 積極的な姿勢で臨んで欲しい。毎回小レポートカードに感想・意見・質問・体験などを記入する。頭で考えるより, 自分の心で実感し, 体験から学ぶことが大切である。		

授業科目名	教育実習指導		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で実施する。		
単位数（時間数）	1	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科、経営学科、経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	中学校・高等学校、教育実習、事前事後指導		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	教育実習Ⅰ・Ⅱの事前および事後の指導を行う。事前指導では、教育実習の内容・方法、心構え、事前の準備などについて理解することを目標とする。事後指導では、教育実習の内容・体験の反省、総括、評価などを行う。		
授業の内容	事前指導は5回分、事後指導は2回分を行うとともに、学生たちに模擬授業を行ってもらおう。事前指導では、教育実習に先立ち、教育実習の心得、教育実習の概要、学習指導案の作成、教科指導の方法、教育実習の評価など、教育実習に際しての基本事項についての指導を行う。また、中学校または高等学校の校長による講話により、教育実習の受け入れ側からの考えや要望について認識を深めてもらう。さらに、模擬授業を一人2回以上実施してもらうとともに、生徒役として6時間以上の参加を義務づけ、相互に批評や評価を行ってもらう。事後指導では、教育実習終了後に、実習体験について学生間で交流しながら、学生自ら実習の反省、総括、評価を行ってもらう。また、今後教師として勤務する場合に知っておくべきことなどについての指導も行う。		
成績評価の方法	授業参加レポート28%（4%×7回）、模擬授業実施・参加32%（4%×8コマ）、提出物15%、期末レポート25%の割合で評価する。提出課題等については第1回の授業において提示する。期末レポートを提出すること、授業の欠席が3回未満であること、授業の無断欠席がないこと、教育実習オリエンテーションに出席すること、模擬授業を所定の回数以上実施し、所定の時限数以上参加すること、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	宮崎猛・小泉博明（2015）「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」（小学館）		
参考文献	第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習Ⅰ・Ⅱと同時に受講すること。履修希望者は4月の第1回の授業に必ず出席すること。また、正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前指導、事後指導での欠席・遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加が義務づけられる。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、ポータル、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	教育実習 I		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	「教育実習指導」の第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	中学校又は高等学校での観察・参加・実習による実習形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科、経営学科、経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	中学校・高等学校、観察・参加・実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、さらに実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、教師としての基本的資質を養う。		
授業の内容	中学校または高等学校で2単位相当の実習を行う。実習課程は、実習期間中における観察・参加・実習を主たるものとする。具体的には、次の事項とする。1. 実習校の教育目標、校則、校内組織の理解 2. 授業参観と授業研究 3. 指導計画の作成・学習指導案の作成 4. 教材研究 5. 授業実習 6. 生徒会活動への参加 7. 学級経営への参加 8. クラブ活動への参加 9. 教師の職務の理解 10. 教育実習の自己評価と今後の課題の検討 11. 学校と社会の関係の理解。なお、実習期間は原則として6月または9月とする。		
成績評価の方法	実習校からの評価、「教育実習の記録」（教育実習ノート）等の教育実習に関わる提出物をもとに総合的に評価する。実習校からの評価が良好であること、教育実習期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、教育実習に関わる提出物を提出すること、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	宮崎猛・小泉博明（2015）「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」（小学館）		
参考文献	「教育実習指導」第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習 I・II、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習指導と同時に受講すること。教育実習 I および II の履修については学生便覧の関係箇所を参照すること。実習において必要となる費用（食費、交通費等）は、原則として学生の個人負担とする。		

授業科目名	教育実習Ⅱ		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	「教育実習指導」の第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	中学校又は高等学校での観察・参加・実習による実習形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科、経営学科、経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	中学校・高等学校、観察・参加・実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、さらに実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、教師としての基本的資質を養う。		
授業の内容	中学校または高等学校で2単位相当の実習を行う。実習課程は、実習期間中における観察・参加・実習を主たるものとする。具体的には、次の事項とする。1. 実習校の教育目標、校則、校内組織の理解 2. 授業参観と授業研究 3. 指導計画の作成・学習指導案の作成 4. 教材研究 5. 授業実習 6. 生徒会活動への参加 7. 学級経営への参加 8. クラブ活動への参加 9. 教師の職務の理解 10. 教育実習の自己評価と今後の課題の検討 11. 学校と社会の関係の理解。なお、実習期間は原則として6月または9月とする。		
成績評価の方法	実習校からの評価、「教育実習の記録」（教育実習ノート）等の教育実習に関わる提出物をもとに総合的に評価する。実習校からの評価が良好であること、教育実習期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、教育実習に関わる提出物を提出すること、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	宮崎猛・小泉博明（2015）「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」（小学館）		
参考文献	「教育実習指導」第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習指導と同時に受講すること。教育実習ⅠおよびⅡの履修については学生便覧の関係箇所を参照すること。実習において必要となる費用（食費、交通費等）は、原則として学生の個人負担とする。		

授業科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科、経営学科、経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	中学校・高等学校、教育実習、教員としての資質能力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	当演習を履修する者の教科に関する科目および教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力を習得することを目標とする。具体的には、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科等の指導力に関する事項をテーマとする。		
授業の内容	教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を習得させる。そのために、役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れる。また、現職の教員または教員勤務経験者を講師とした授業も行う。		
成績評価の方法	当日レポート42%（6%×7回）、提出物36%（6%×6回）、期末レポート22%の割合で評価する。実技指導、グループ討論、補完指導、試験の結果等を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、評価を行う。		
テキスト	第1回の授業において提示する。		
参考文献	第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、教職実践演習を除く1年次から4年次前期配当の科目での必要単位を4年次前期終了までにすべて修得しておくこと。教育実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得するのと同じ年度の後期に受講すること。履修希望者は9月の第1回の授業に必ず出席すること。また、正当な理由なく、履修の途中で放棄、欠席・遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加が義務づけられる。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、ポータル、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ		
担当教員氏名	胤森 裕暢（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	集中講義。対面授業。授業日程に従い、下記教科書を基に、講義だけでなく、学習指導案の改善や、それをもとにした模擬授業と協議も行う。学生は、授業に出席し、宿題となる改善学習指導案の提出をすること。また最終回の小テストを受けること。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科，経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）必修，高一種免（公民）必修		
キーワード	公民的資質，社会認識，公民教育，現代社会の諸問題，教材研究，学習指導案の作成・改善，模擬授業と協議，授業づくり		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業は、教科に関する指導法の授業です。講義内容を理解することで、中学校社会科（特に公民的分野）及び高等学校公民科の教員免許状を取得するために必要な専門的知識を身に付けます。また、その知識を用いた模擬授業と学習指導案の改善を通して社会科・公民科授業を構成する基本的な能力を養っていきます。		
授業の内容	社会科（特に公民的分野）と公民科の基準となっている学習指導要領の内容について学習します。また社会科（公民的分野）と公民科の目標、学力、評価について学習します。さらに今日の社会科・公民科授業に求められていることについて学習します。これらの学習をふまえて、社会科・公民科の授業づくりの基本的視点や方法の理解、学習指導案作成、模擬授業、学習指導案改善を行っていきます。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業は学習指導案に基づいて行っているかどうか、基本的な学習指導を行っているかどうかを評価します。（20%）</li> <li>・模擬授業を踏まえて改善した学習指導案は、基本的事項等を適切に記述しているかどうかを評価します。（30%）</li> <li>・最終回に行う小テストは、授業で学習してきた用語等を適切に用いて論述しているかどうかを評価します。（20%）</li> <li>・なお各回の授業では、積極的な参加（ワークシートや付箋などへの記入に基づいた発表内容や出席カードへの記述）であるかどうかを評価します。（30%）</li> </ul>		
テキスト	・棚橋健治編著『中等社会系教育』、協同出版、2014年。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編 平成20年9月』、日本文教出版、2008年。</li> <li>・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編 平成22年6月』、教育出版、2010年。</li> <li>・社会認識教育学会編『中学校社会科教育』、学術図書出版社、2010年。</li> <li>・社会認識教育学会編『公民科教育』、学術図書出版社、2010年。</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	参考文献で示した2つの学習指導要領解説は、いずれも文部科学省ホームページからダウンロードして持っておくとよいです。なお本講義は、社会科・公民科教員の免許を得るための講義です。教師としてのマナーに留意してください。		

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ		
担当教員氏名	高田 悟（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式。最初は講義形式を中心に行う。その後、学生の指導案作成、模擬授業では発表形式に切り替え、さらに互いの授業分析では討議形式にする。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科，経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択，高一種免（公民）選択		
キーワード	社会科教育，公民科教育，地歴教育，系統学習，問題解決学習，基本的人権，憲法，議院内閣制，大統領制，資本主義，社会主義市場経済，大きな政府，小さな政府，主権，国家の3要素，温暖化問題，京都議定書，COP21，持続可能な開発，テロ，徳，愛，正義，生命倫理，環境倫理，科学技術社会論，科学哲学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	中学校社会科や高等学校公民科の教職を目指す学生を対象にする。中等教育の現場で求められる学習内容やその授業展開のための方法についての基本的考え方や技能を学び身に付け、将来教職に就いた時の基礎となることを最終目標とし、さしあたっては教育実習現場で授業開発をする能力を育成することを目標とする。「社会科・公民科教育法Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
授業の内容	先ず、社会科・公民科の教科としての特徴、授業作りの特徴を、他教科と比較しつつ、具体的な事例を提示して理解させる。次に学習指導要領と授業理論がどう関連するかを確認させる。また社会科・公民科の授業作りの上でおおよそ知っておくべき社会科学や人文科学の理論を紹介する。そのうえで学習指導案の作成についての考え方を学ばせ、最後に学生自ら指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行うとともに学生相互で検証をする。		
成績評価の方法	模擬授業のための指導案作成ならびに模擬授業（70%）、他者の授業の分析・記録（30%）。		
テキスト	必要に応じて、資料その他のプリントを配布する。		
参考文献	社会科，公民科の教科書，出版社は問わない。 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	行動心理学		
担当教員氏名	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～2回の講義につき、教科書1章分の講義を想定した授業を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科 1年次対象、経営学科・経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択必修		
キーワード	知覚、記憶、思考、社会的認知、パーソナリティ、発達		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔りがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行う。そして、素朴心理学に基づいた、心理学に対する誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象にしている。		
授業の内容	授業では、人間の基本的な心の働きや行動を扱う。授業内容は、心理学の歴史に始まり、感覚・知覚、認知、社会、発達、教育、パーソナリティ、臨床など多岐にわたる心理学分野を少しずつ紹介するものとなっている。毎回の授業において、学生からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付ける。そして、それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介する。		
成績評価の方法	試験90%、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、90分間、主として論述式、座席指定、学生証呈示で実施する。試験における、教科書・ノート・資料等の持ち込みに関しては、後に決定する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著 「グラフィック心理学」 サイエンス社 1997		
参考文献	主な参考文献は以下の通りである。 中島義明 他編（2005）「新・心理学の基礎知識」（有斐閣） ノーレン・ホークセマ，S. 他（2012）「ヒルガードの心理学（第15版）」（金剛出版） 海保博之 他（1995）「クイズと体験でわかる心理学」（福村出版） 菊池聡 他（1995）「不思議現象なぜ信じるのか」（北大路書房） また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、ポータル、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	大学基礎セミナー（村上）		
担当教員氏名	粟島 浩二・小原 久美子・橋上 徹・村上 恵子		
研究室の場所	1648研究室（粟島），1721研究室（小原），1724研究室（橋上），1647研究室（村上）		
オフィスアワー	各担当教員より指示する		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがい，ゼミナール形式でおこなう。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	スタディ・スキル，リーディング，ライティング，プレゼンテーション，情報収集		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では，受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。		
授業の内容	大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得，県立広島大学についての理解等をもとにして，大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に，スタディ・スキル，リーディング，ライティング，プレゼンテーション，インターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については，少人数クラスで実践的な指導をおこなう。		
成績評価の方法	出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいておこなう。		
テキスト	各担当教員が初回授業で指示する。		
参考文献	各担当教員が授業の中で適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	15回のうち4回行う学科合同授業は，4クラス合同で授業を行います。クラス別授業の授業内容および授業計画は担当教員によって異なる場合があります。各クラスのクラス別授業については初回講義の際に詳細をお伝えします。		

授業科目名	大学基礎セミナー（橋上）		
担当教員氏名	栗島 浩二・小原 久美子・橋上 徹・村上 恵子		
研究室の場所	1648研究室（栗島），1721研究室（小原），1724研究室（橋上），1647研究室（村上）		
オフィスアワー	各担当教員より指示する		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがい，ゼミナール形式でおこなう。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	スタディ・スキル，リーディング，ライティング，プレゼンテーション，情報収集		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では，受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。		
授業の内容	大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得，県立広島大学についての理解等をもとにして，大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に，スタディ・スキル，リーディング，ライティング，プレゼンテーション，インターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については，少人数クラスで実践的な指導をおこなう。		
成績評価の方法	出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいておこなう。		
テキスト	各担当教員が初回授業で指示する。		
参考文献	各担当教員が授業の中で適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	15回のうち4回行う学科合同授業は，4クラス合同で授業を行います。クラス別授業の授業内容および授業計画は担当教員によって異なる場合があります。各クラスのクラス別授業については初回講義の際に詳細をお伝えします。		

授業科目名	英語 I a (経営)		
担当教員氏名	岩井 千秋 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行います。また協働学習を中心に、他の受講生とインタラクティブに学習する形式で授業を進めます。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	速読、音読、英語学習方略		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とします。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができるようにします。また大学の初年次に当たり、大学4年間を見据えた英語学習にどう取り組めばよいか、目標の設定を行い学習の方法について学びます。		
授業の内容	さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行います。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行います。授業では特に音読 (シャドーイング) を重視します。学期の終わりまでには一定の速さと正確さで、英文を読めるようになることを目指します。		
成績評価の方法	英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。		
テキスト	D. Peaty & K. Kobayashi. What's going on in the World? 成美堂		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。		

授業科目名	英語 I b (経営)		
担当教員氏名	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813		
オフィスアワー	随時受け付ける (事前に面談日時の予約をすることが望ましい)。		
授業の形式・方式	テキストを用いて演習形式で行う。 適宜、ペアやグループディスカッション、およびeラーニングを取り入れる		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パラグラフリーディング, リスニング, シャドーイング, eラーニング, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。本科目は、全学共通教育科目・基盤・外国語に位置付けられている。		
授業の内容	さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。学期中に英語によるグループプレゼンテーションを行う。また、課外自主学习として英語eラーニングの課題を行う。		
成績評価の方法	英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態 度、等により総合評価する。 学期末試験70%、プレゼンテーション20%、授業外自主学习課題10%で評価する。 授業評価は単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。		
テキスト	追って指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅱ a (経営)		
担当教員氏名	橋本 朝子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し, 多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して, 文化や社会問題等についての理解を深める。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力, 英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価する。		
テキスト	E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著安永義夫編注 "Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。		

授業科目名	英語Ⅱ b (経営)		
担当教員氏名	岩井 千秋 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行い、英語学習の習慣化を図ります。また協働学習を中心に、choral reading などの手法を使って、他の受講生と一緒に読んだ内容を発表することも行います。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	速読、音読、英語学習の習慣化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深めます。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには自分自身で学習目標を決め、学習に取り組める自律学習者となることを目指します。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読んで理解し、何度も音読します。こうした学習を通じて、英文理解へのスピード化、自動化を図ると共に、語彙力、表現力を高めます。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力、英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。		
テキスト	D. O'keeffe & T. Shibagaki. It's a wired world 成美堂		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。		

授業科目名	英語Ⅲ a (経営)		
担当教員氏名	橋本 朝子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	談話のコンプリヘンション、語彙のストラテジー、背景知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。		
授業の内容	リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。		
成績評価の方法	読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態度、等により総合評価する。		
テキスト	ジムカヌーセン, 永本一範著“A World of Ideas — Active Reading for Global Awareness” 『世界の視点を読む』 南雲堂, 2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を持って授業に臨んで下さい。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。		



授業科目名	英語Ⅲ b (経営)		
担当教員氏名	笠本 晃代 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。グループごとに文章を読み、発表するアクティブラーニングを行う。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	reading, presentation		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。		
授業の内容	リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。		
成績評価の方法	読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態度、等により総合評価する。		
テキスト	Paul Hullah・寺西雅之 著 『Britain Today』 センゲージラーニング, 2009。		
参考文献	適宜、指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を必ず持参すること。		

授業科目名	英語Ⅳ a (経営)		
担当教員氏名	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	随時 (授業時、またはメール等で、事前に面会許可を取ってください)		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語の読解力、語彙力、聴解力、発信力の養成とプレゼンテーションの訓練。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	文法構造や文脈を理解しながら英文をできるだけ英語の語順で理解できるようになるための訓練を行う。また、読んで理解するだけでなく、実際に英語で発表する練習を行う。グループでプレゼンテーションを行い、また他のグループの発表を聞いて、英語でディスカッションする。テキストには、様々な国をレポーターが解説するDVDがついているので、これを真似て同じように話せるまで練習することが重要。語彙力と読解力を養う事を重視しつつも、パフォーマンスを最も重視する。		
授業の内容	世界の様々な国についての英語の説明を、テキストの文章およびDVDの映像資料で視聴して理解してゆく。様々な国で使われる英語の発音やイントネーションにふれる。テキストの文章を理解し、暗唱してネイティブと同じように発音できるように練習する。必要な語彙力を身につけて、異文化について情報を収集し、それをまとめて皆の前で、英語で発表する。テキスト全部を十分に復習して、筆記試験にも備える。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度 (課題、アクティビティその他) 約40%、中間と期末の筆記テスト約60%授業の成績評価を行います。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	On Board for More World Adventure, Scott Berlin, Megumi Kobayashi 著、金星堂2300円		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語IV b (経営)		
担当教員氏名	川尻 武信		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。またグループワークなどを適宜行う。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーディング リスニング 時事英語		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学術的な英文を読んで理解できる力を習得できる。大学生として必要なアカデミックリーディングを中心とした言語能力を養うことができる。		
授業の内容	学部に応じた内容とレベルの教材を扱い、基本的な専門用語や表現を含めた読解演習を行う。		
成績評価の方法	活動における目標設定、書かれた文章の理解、およびそれに対する認識力、発信力等で総合的に評価する。		
テキスト	村上直久(2014)『Business Week: Eye on Japan and the World』南雲堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習を行い、授業には積極的に参加してください。		

授業科目名	英語表現 I b (経営)		
担当教員氏名	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice.		
授業の内容	The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.		
テキスト	Interchange, 4th edition by Jack C. Richards. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅱ a (経営)		
担当教員氏名	ケイヴォーン・ディビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.		
授業の内容	Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.		
テキスト	Topic Talk Issues (Second edition, EFL Press) by Kirsty McLean.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅱ b (経営)		
担当教員氏名	ケイヴォーン・ディビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.		
授業の内容	Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.		
テキスト	Topic Talk Issues (Second edition, EFL Press) by Kirsty McLean.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅲ a (経営)		
担当教員氏名	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Writing sentences and paragraphs: editing partners' writings, taking notes and writing from notes, organizing different forms of writings, writing descriptions and stories, writing opinions on various issues.		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営:必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in writing and expressing your own opinions.		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' active participation during each class, and the ability of writing English sentences. Regular attendance; short word tests; reports writing projects; ;the final test in a form of a free composition on a given topic.		
テキスト	"Reason To Write. Strategies for Success in Academic Writing" (Low Intermediate). Judy Miller, Robert Cohen. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-436771-4		
参考文献	English-English Dictionary (Oxford or Longman)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅲ b (経営)		
担当教員氏名	ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	This is a student active classroom where the student is required to an active speaker, listener and writing participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand, participate and contribute in an English language environment.		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.		
テキスト	Writers at Work: From Sentence to Paragraph; Laurie Blass/Deborah Gordon; Cambridge University Press; ISBN 978-0-521-12030-2		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.		



授業科目名	英語表現Ⅳ a (経営)		
担当教員氏名	マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others.		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English Expression - writing and speaking		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.		
授業の内容	Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.		
テキスト	No textbook. Materials provided by the instructor.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Come to class prepared to be ACTIVELY involved.		

授業科目名	英語表現Ⅳ b (経営)		
担当教員氏名	マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others.		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English Expression - writing and speaking		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.		
授業の内容	Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.		
テキスト	No textbook. Materials provided by the instructor.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Come to class prepared to be ACTIVELY involved.		

授業科目名	中国語 I (経営)		
担当教員氏名	袁 葉 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎、会話、オリジナル作文の発表		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、経営情報学部共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話が理解できる能力を養成する。		
授業の内容	発音の練習、単語の音と意味と漢字表記とが結びつく練習をする。簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。 授業の合間には、中国の社会事情や、日中文化の違いなどについても紹介する。		
成績評価の方法	中国語の基本的文法、簡単な文章の理解度、初歩的な会話力、等で総合的に判断する。		
テキスト	『400語で学ぶ楽しい中国語入門』(郭春貴・郭久美子著 白帝社)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	中国語Ⅱ（経営）		
担当教員氏名	袁 葉（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎，簡単な日常会話，オリジナル作文の発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、経営情報学部共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。中国語Ⅰで学んだことを基本に、初級・中級の読み物を通して中国の文化に触れるとともに、中国語での簡単な日常会話や手紙などが理解できる能力を養う。		
授業の内容	初歩的な日常会話の練習をし、文の基本的な構造を理解し、文法面での基礎を固める。日中文化の発想の相違に注意して日本語訳を試みる。 授業の合間には中国の社会事情や、日中文化の違いについても紹介する。		
成績評価の方法	中国語の文法、読解力、会話力、日中文化に対する理解度、等で総合的に判断する。		
テキスト	『400語で学ぶ楽しい中国語入門』（郭春貴・郭久美子著 白帝社）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「中国語Ⅰ」が単位未修得の場合は履修できない。		

授業科目名	ドイツ語 I (経営情報学部)		
担当教員氏名	小田 智敏 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>「ドイツ語」を選択する場合, もっとも基礎となる授業である。ドイツ語の基本的な表現様式の修得に重点を置く。ドイツ語の単語や文を発音することができる。冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断することができる。現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。</p>		
授業の内容	<p>ドイツ語のアルファベットを覚え, 発音, 人称変化, 格変化の基本を習得します。日常的なあいさつ表現や基本的な文法の修得を通じてドイツ語の全体像に触れ, 教養とすることを目指します。動詞の人称変化と名詞の格変化を中心に, 最も基本的な表現様式を反復練習しますので, 受講者の皆さんは実技課目のつもりで参加してください。言葉は, それを話す人々の基本的な世界理解の仕方でもありますから, ヨーロッパの言語の特徴を英語よりも濃厚に維持しているドイツ語を学ぶことによって, ヨーロッパ文化をより広い視野から理解することも, この授業の目標の一つです。</p>		
成績評価の方法	<p>基本的なドイツ語 (語彙, 文法, 音声等) に対する理解度, 平易な文章の理解度, 等で総合的に評価します。期末試験の成績 (9割) に, 普段の授業への参加度を加味して (1割) 評価します。</p>		
テキスト	『ベルリンに夢中』 (同学社)		
参考文献	同学社『新アポロン独和辞典』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ドイツ語Ⅱ（経営情報学部）		
担当教員氏名	小田 智敏（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。発音練習・文法問題練習への積極的な参加を期待します。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ドイツ語の単語や文を発音することができる。冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断することができる。現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。		
授業の内容	ドイツ語Ⅰに続いて、動詞の三基本形，現在完了形，受動文，関係文，接続法，比較表現，zu不定詞句などを習得します。また，再帰動詞，分離動詞，関係代名詞，受動態，接続法などを，練習を通じて理解し修得します。英文法との共通点，英語とドイツ語に共通ないし類似する語彙を発見することで，言語の系統を意識するとともに，ドイツ語の特徴を通して，ドイツ語圏の人々のものとのとらえ方・表現様式を理解し，広くヨーロッパ文化の理解を目指します。		
成績評価の方法	平易なドイツ語を用いた発信力，ドイツ語の文章の理解度，等で総合的に判断します。期末試験の成績（9割）に，普段の授業への参加度を加味して（1割）評価します。		
テキスト	『ベルリンに夢中』（同学社）		
参考文献	同学社『新アポロン独和辞典』		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）			

授業科目名	情報リテラシー a (経営)		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	【28年度入学生】経営学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		

授業科目名	情報リテラシー b (経営)		
担当教員氏名	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	【27年度以降の入学生】経営学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		



授業科目名	情報リテラシー演習 a (経営)		
担当教員氏名	岡部 正幸		
研究室の場所	広島キャンパス 1567研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習2時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	【27年度以降入学生】経営学科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		

授業科目名	情報リテラシー演習 b (経営)		
担当教員氏名	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習2時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	【27年度以降入学生】国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		

授業科目名	体育実技 I a (経営)		
担当教員氏名	辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業。体育館にて行う。 初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科Ⅱ年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。 ②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。 ③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。		
テキスト	教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>		

授業科目名	体育実技 I b (経営)		
担当教員氏名	辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業。体育館にて行う。 初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科Ⅱ年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。 ②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。 ③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。		
テキスト	教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>		

授業科目名	経営学概論		
担当教員氏名	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721研究室		
オフィスアワー	メールおよびTELで予約してもらって、その上で実施する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、教科書以外にプリント資料も活用し授業内容の補足および復習を行い必要によって質問・回答の時間も設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営学科：選択 経営情報学科：選択（平成24年度入学生） 必修（平成23年度以前入学生）
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）必修（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	現代経営学の体系 経営学研究方法 現代株式会社 所有と経営の分離 コーポレート・ガバナンス 企業の社会的責任と倫理 専門経営者の役割 経営のグローバル化 経営組織 経営管理（マネジメント）経営戦略 組織構造と組織文化 組織イノベーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	経営学概論は、経営情報学部共通専門科目であり、1年次の学生を中心として、これから初めて経営学を学ぼうとする学生の基礎・専門科目として位置づけられる。本授業の目標は以下の通りである。1. 企業経営とは何か。経営学全般の基礎的な専門知識を身につける。2. 現代組織におけるビジネスパーソンとして必要な基礎的・実践的スキルやマナーを身につける。3. 現実の経営者の生き方を学ぶことを通じて、学生個人が自らの人生の経営を考えることができるように幅の広い視野と器量を養う。		
授業の内容	経営学の対象領域は、今日ますます拡大傾向にあるが、その基盤を形成するものは、現代社会の中での企業の経営活動である。企業の活動は、どのように決められ、どのように実行されるのか。その活動はどのようなプロセスをへて社会に影響を及ぼすのか。また、企業の仕組みはどうなっており、その構成部分はどうな動きをなし相互作用するものであるのか。このような問題に直接的に取り組む学問が経営学である。本授業では、今日的でしかも広範な経営諸問題を理解し、経営学としての基礎を修得しうることを主たる目的とする。現代経営学の目的、経営学の対象とアプローチ方法、経営学の体系の理解を進めた後、企業論（現代企業の本質と活動）、企業の社会的責任論、経営組織論および経営管理論、経営戦略論、意思決定論、マーケティング、日本の経営、非営利組織の経営、グローバル企業の経営などの今日的課題を明らかにし、個別の専門科目へ進めるための基礎を修得していく。		
成績評価の方法	授業参画度（平常点）小テスト50％、期末試験50％の割合で総合的に評価する。試験は指定された教室内で、持ち込み可で実施する。期末試験は、指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。問題形式は、多肢選択問題および論述形式を採用する。		
テキスト	佐久間信夫・坪井順一編著、小原久美子他著『リーディングスリニューアル経営学- 第三版 現代の経営管理論』学文社、2016年。適宜、プリント教材も配布する。		
参考文献	参考文献：小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月発行。辞典：佐久間信夫編『経営用語の基礎知識』学文社、2010年		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	①現実の企業経営の動向に関心をもち、自分なりの問題意識をもって参加してほしい。②本授業は平常点・小テストも含めて総合的に評価する。③経営学概論は、大学で初めて学ぶ学問であるため、質問等がある場合には質問票の配布やメールおよび対面により積極的に応じていく。		

授業科目名	マーケティング論		
担当教員氏名	栗島浩二		
研究室の場所	広島キャンパス1648研究室		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
授業の形式・方式	対面講義形式です。ただし、講義は、コメントカードの意見や質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながらメーカーを中心としたマーケティングの理論と実際の企業活動を関連付けて解説いたします。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト，顧客価値と顧客満足，環境分析，マーケティング・マネジメント，消費者心理，STP，ブランド戦略，サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営戦略マーケティング系分野の初級編という位置づけです。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト，顧客価値と顧客満足，戦略計画，環境分析，消費者・購買者分析，競合分析，マーケティングのSTPとブランド戦略，コミュニケーション戦略，サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせ理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「コメントカード」を提出し、日常点30点とします。（合計100点満点）最終試験はレポート提出で実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。		
テキスト	・石井淳蔵、廣田章光[2009]『1からのマーケティング（第3版）』硯学舎。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講する学生とは、社会の一員あるいは成人として接するつもりです。したがって、社会通念上のマナーやルールを示した上で、それを守ることを履修の最低条件とします。講義中の飲食、携帯電話・スマートフォン等の使用、私語雑談は厳禁です。指示に従わない者は学生証を提示の上、直ちに退室してもらいますので履修登録前に予め承知しておいてください。		

授業科目名	経営戦略論		
担当教員氏名	朴 唯新		
研究室の場所	1827		
オフィスアワー	随時（電話、Eメールでのアポイントメントが必要）		
授業の形式・方式	対面授業を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年・3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	持続的な競争優位、ポジションニング戦略、資源に基づく優位性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業の目的は2つある。第一に、受講者が代表的な経営戦略論でポジションニング戦略と資源ベース論について理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することである。本授業は経営情報学部共通専門科目として、経営戦略論として位置づけられる。		
授業の内容	本授業ではGarth Salonerらの『戦略経営論』を参考文献として使う。経営戦略論分野ではM. E. Porterのポジションニング戦略とJ. B. Barneyの資源ベース論が有名であるが、両理論の共通点と相違点を理解することで、現実において企業の経営戦略を理解するのに役に立つ。		
成績評価の方法	評価方法および配分は、①中間、期末試験（80%）、②自学自習によるレポート(20%)とする。		
テキスト			
参考文献	Garth Saloner et al. 『戦略経営論』東洋経済新報社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	簿記入門		
担当教員氏名	五百竹 宏明		
研究室の場所	1726研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前予約を取ること）		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科・経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	複式簿記、貸借対照表（資産・負債・純資産）、損益計算書（収益・費用）、取引、勘定、仕訳		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	複式簿記の基本原則と背景にある会計の基礎的理論を理解する。その結果として、日本商工会議所主催簿記検定試験3級（商業簿記）の合格に必要な複式簿記の知識とスキルを身につけることができる。 簿記入門は、会計学、経営学、経済学など経営情報学部で開講されている科目を学ぶうえで最も基礎となる科目のひとつである。		
授業の内容	以下の項目について、テキストを参照しながら解説する。また、ワークブックへの記入を通じて、受講生に簿記のスキルを身につけてもらう。 「簿記の意味・目的・種類」「簿記の基礎概念」「取引」「勘定と仕訳」「帳簿の記入」「決算と財務諸表」「現金預金取引」「商品売買」「売掛金と買掛金」「その他の債券と債務」		
成績評価の方法	出席20% 学期末試験80%		
テキスト	『合格テキスト日商簿記3級』TAC出版 『合格トレーニング日商簿記3級』TAC出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	後期開講の「初級簿記」もあわせて受講することが望ましい。		



授業科目名	ファイナンス概論		
担当教員氏名	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、毎回配布するレジュメを用いた講義形式と学生による課題考察やグループディスカッション等の演習形式を併用して実施する。学生には、小テストの受験、グループディスカッションへの参加、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パーソナルファイナンス，コーポレートファイナンス，将来価値，現在価値，機会費用，NPV法，リスクとリターン，行動ファイナンス，資本コスト，資産管理，負債管理，リスク管理，債券価値，株式価値，ポートフォリオ理論，CAPM，MM理論，ペイアウト，M&A		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業は、これまでファイナンスについて学習したことのない学生が、ファイナンスに関する基礎的な専門知識を、家計管理と企業経営の両観点から学ぶことを目標としている。この科目は経営情報学部で学部共通専門科目に区分され、経営学科の会計ファイナンス系科目ファイナンス分野の基礎科目であり、高学年次配当のパーソナルファイナンス論，コーポレートファイナンス論，証券システム論などの基礎となる知識を学ぶ。		
授業の内容	現代社会において貨幣や金融の果たす役割は極めて大きく、現実の経済や経営の諸問題を理解する上で金融やファイナンスに関する知識は不可欠となっている。本授業では、ファイナンスを企業のファイナンス（コーポレートファイナンス）と家計のファイナンス（パーソナルファイナンス）に分けて、その基礎的な知識と考え方を講義する。具体的には、家計の資産・負債管理、企業の資本・負債管理と投資管理、ペイアウト政策、ファイナンス理論のコアである資産価値の評価（債券価値の評価、株式価値の評価について説明する。また、ファイナンスの基本的概念である「貨幣の時間価値」や「機会費用」の考え方についても講義する。そのほか、ファイナンスの新しい研究領域である「行動ファイナンス」についても簡単に触れる予定である。		
成績評価の方法	小テスト30%、グループディスカッション参画度20%、授業中に課す課題（3回程度を予定）50%の割合で評価する。		
テキスト	使用しない。随時レジュメを配布する。		
参考文献	榊原茂樹・岡田克彦編著(2012)「1からのファイナンス」中央経済社<+9784502697104+> その他、必要に応じて授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	金融に関するニュースに関心を持ち、この授業で学んだ内容との関わりについて考える習慣をつけましょう。		

授業科目名	公共社会論		
担当教員氏名	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス 1642研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。また、回によっては、受講者どうしが意見を交換しあうワークショップを行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	公共財，インターネット，地域		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本授業では、公共財としての「情報」に着目し、よりよい社会を形成していくための情報の提供・共有・活用のあり方について理解を深めていく。なお本授業は、経営情報学部の共通専門科目に位置づけられるもので、本授業を通じて「市民」としての基礎的教養を身につけ、その上で各分野（特に公共経営系科目）の専門的な学びを深めてほしい。</p> <p>【知識・理解】 公共社会（公共財）の概念を説明できる。  【思考・判断】 公共財としてのインターネットの意義・課題等を指摘できる。  【関心・意欲】 インターネット整備・活用のあり方を討議できる。  【技能・表現】 上記内容を取りまとめた文章を作成できる。  【態度】 ワークショップに参加できる。</p>		
授業の内容	<p>教科書『インターネットと地域』（ナカニシヤ出版）に基づく講義を行う。  主な内容は以下のとおり（詳細はシラバス参照のこと）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共財としての「情報」</li> <li>・地域情報化政策の今日的課題</li> <li>・地理的デジタルデバイド</li> <li>・地方自治体の情報発信</li> <li>・地場産業振興とインターネット</li> </ul>		
成績評価の方法	授業態度（30点）とレポート（70点（中間1回（2000字，35点）・期末1回（2000字，35点），計2回）により評価する。		
テキスト	荒井良雄・箸本健二・和田崇（2015）：『インターネットと地域』ナカニシヤ出版，2,700円＋税		
参考文献	齋藤純一（2000）：『公共性』岩波書店，1,400円＋税 植村邦彦（2010）：『市民社会とは何か』平凡社，940円＋税		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。 また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。		

授業科目名	理論経済学入門		
担当教員氏名	片桐 昭司		
研究室の場所	1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください		
授業の形式・方式	対面形式の授業です。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学部 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	需要、供給、消費者、効用最大化、企業、利潤最大化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義は経済・経営の基礎となる消費者と企業の行動を理論的に明らかにすることを目的にしています。したがって、本講義で修得した内容は経済・経営の様々な分野で応用できる内容となります。		
授業の内容	経済学・経営学の領域に関連するミクロ経済学を中心に講義を行います。ミクロ経済学は各経済主体（消費者・企業・政府）の経済行為を理論的に分析するもので、経済変数を集計的に扱うマクロ経済学と対をなす理論です。最初に、市場機構の概念を理解したうえで、消費者の行動を分析し、効用最大化問題とそれに付随する需要関数について講義を行います。ついで、企業家行動である利潤最大化問題とそれに付随する完全競争、独占、寡占について講義します。		
成績評価の方法	期末試験で成績を評価します。		
テキスト	西村和夫『ミクロ経済学』岩波書店		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	地方公務員および国家公務員試験（中級・上級）を希望する学生は必修の授業です。		

授業科目名	ビジネス数理入門		
担当教員氏名	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面，講義形式		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択（経営学科） 必修（経営情報学科）
履修要件	経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	代表的な関数の性質，導関数，不定積分，定積分，図形の面積		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	他の専門科目の基礎として微分，積分の計算がある程度できるようになってもらうことと，数 理的な考え方，理論の展開を理解してもらうことを目標とします。		
授業の内容	多くの専門分野で必要とされる数理的な考え方の基礎として，微分積分学を学びます。主な内 容は，三角関数，指定関数，対数関数など高等学校で学んだ関数の復習から始まり，まず微分 を定義し，基本的な関数の導関数が計算方法できるようにします。その後不定積分および定 積分を定義し，基本的な関数の積分方法を学習します。随時，演習や小テストを行い，理解を 深めていきます。		
成績評価の方法	中間試験またはレポート(30%)，期末試験(60%)，および授業中の課題演習(10%)で評価しま す。		
テキスト	やさしく学べる微分積分（石村園子 著，共立出版，〈9784320016330〉）		
参考文献	特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1回，1回の授業内容は難しくないが，各回の内容は密接に結びついています。前回までの内 容を土台として新しい話題が紹介されるので，理解を深めるための復習が大切です。テキスト は演習問題が豊富にあるので，各自の復習に活用してください。		

授業科目名	情報科学論（経営）		
担当教員氏名	重丸伸二		
研究室の場所	1640研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業ならびにパソコン実習。基本的に教室における1回の講義と情報処理演習室における1回の実習を交互に実施する。実習は用意したプリント資料に基づいて行い、各テーマごとに e-mail の添付ファイルの形でのレポートを提出させる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営科学, 統計学, シミュレーション, 表計算ソフト, データ処理, 数値データの可視化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	社会科学および自然科学のどの分野でもそうであるが、経営学においても数学は強力なツールであり、欠かせない実力のひとつである。ただ、経営学を学ぶ学生にとって、それは単なる机上の空論ではなく、実際に身についた、現場で使いこなせるスキルになっていなければならない。この科目では、経営科学における数学的手法の中からごく初歩的な事項を選び、その理論的な部分を講義で学んだあと、実際の数値例についてパソコンを用いた実習で確かめてみる。また、計算結果はできるだけ表やグラフの形で表現することにより、自分の身についたものにしようとする。したがって、ここではパソコンをある程度自由に使いこなせることが必要であり、その意味で、同時に開講されている「情報処理基礎」の授業とあわせて履修することが望ましい。		
授業の内容	この授業で取り上げるトピックスは、すべてこれからの専門課程で扱う分野から入門的な部分を選んだものである。「統計学」はアンケートや実態調査によって得られた大量のデータの中から、客観的な裏づけのもとに有用な結論を引き出そうとする学問である。ここでは、特に記述統計に重点を置き、データの整理や可視化の方法について学ぶ。「オペレーションズリサーチ, OR」は経営数学の中でも最も重要なツールのひとつである。ここでは、その中から代表的な手法をいくつか取り上げてみる。		
成績評価の方法	成績は期末試験とレポートおよび授業への参加度により総合的に評価する。		
テキスト	詳細なプリントを配布する予定である。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	情報処理基礎 (経営)		
担当教員氏名	重丸伸二		
研究室の場所	1640研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	主としてパソコン実習である。授業日程に従って、各回に出される課題に取り組み、その結果をE-Mailで提出させる。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	表計算, 文書作成, データ処理と可視化, プログラミング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>現代社会において、パソコンは文房具の一種とみなされるほどに普及し、その活用と使いこなしがあらゆる分野で要求されている。</p> <p>この科目ではパソコンを利用して行う基本的な情報処理について、いくつかの代表的ソフトウェアを用いて、その基本から簡単な応用までを系統的に学ぶことに目標を置く。</p> <p>今後、年次進行に伴い、レポートの提出や授業での発表にパソコンの使用を要求される機会が増えるだろう。専門課程の授業が本格化する前のこの段階で確実に身につけておいてほしい能力である。</p>		
授業の内容	<p>パソコンを用いた情報処理のためのアプリケーションソフトの中で最も基本的なものに、①ワードプロセッサ(ワープロ)、②表計算、③プレゼンテーションソフトがある。これらのうちワープロと表計算の活用方法について、経営学科の学生向けの課題を実習することを通して学んでいくことにする。また、これらのソフトウェアの成り立ちや仕組みについての理解を深めるため、オブジェクト指向プログラミングの実習も行う。</p>		
成績評価の方法	成績は演習の取り組み状況と課題レポートで評価する。		
テキスト	適宜プリントを配布する予定である。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	経営統計学入門		
担当教員氏名	韓 虎剛		
研究室の場所	広島キャンパス 1636研究室		
オフィスアワー	火曜日 13時から14時30分、場所は研究室		
授業の形式・方式	主に対面授業方式で授業を進める。基本的に毎回レポート課題を課し、次回の授業開始時に提出させる。時には、授業の後半に課題を課し、その場で一人ずつ課題の解答をチェックし、それを出席の確認とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営情報学科は必修 経営学科は選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	代表値、分散、確率、確率分布、離散確率変数とその分布、連続確率変数とその分布		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、経営情報学における最も基本的な学部共通専門科目の一つである。目標として、①経営統計学の基本概念、例えば、平均、分散、分布、とりわけ確率分布の理解と計算；②Excelを駆使して、基本計算が出来ること。		
授業の内容	情報化社会において、統計学の知識は以前にも増して重要である。本講義ではまず統計学の基礎的な概念、例えば、平均、分散、分布、とりわけ確率分布とその性質を説明した上、具体的な課題を通して統計理論における基本的な考え方の理解を徹底させてから、経営統計資料の整備、応用事例について平易に論じる。また、統計処理にはパソコンが不可欠であるので、レポートとしてMicrosoft Excelを用いた統計処理を課す。		
成績評価の方法	課題レポート、小テストなど20%、期末テスト80%で総合評価する。		
テキスト	テキスト：大屋 幸輔「コア・テキスト 統計学」（第2版）新世社（2011）		
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	「経営統計学入門」を合格しないと、「経営統計学」を履修することを認めない。		

授業科目名	ベンチャービジネス論		
担当教員氏名	朴 唯新		
研究室の場所	1827		
オフィスアワー	随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)		
授業の形式・方式	対面授業を行う。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学部 2年・3年次対象		
免許等指定科目	高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)		
キーワード	企業家精神、ベンチャービジネス、イノベーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業の目的は2つある。第一に、受講者が企業家精神とベンチャービジネスについて理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様なベンチャービジネスの現象について論理的に考える能力・スキルを修得することである。本授業は経営学科におけるマネジメント系の講義として、経営戦略論に続く講義として位置づけられる。		
授業の内容	本授業では金井一頼先生の『ベンチャー企業経営論』を参考文献として使う。ベンチャービジネス論において企業家精神とベンチャービジネスの仕組みを理解することで、現実においてベンチャービジネスの経営を理解するのに役に立つ。		
成績評価の方法	評価方法および配分は、①中間(40%)、期末試験・発表(40%)、②自学自習によるレポート(20%)とする。		
テキスト			
参考文献	金井一頼『ベンチャー企業経営論』有斐閣		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	リスクマネジメント論		
担当教員氏名	朴 唯新		
研究室の場所	1827		
オフィスアワー	随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)		
授業の形式・方式	対面授業を行う。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2年・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リスクマネジメント、企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility)、企業統治、企業の不祥事		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業の目的は2つある。第一に、受講者がリスクマネジメントの本質と企業の社会的責任について理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様な経営上のリスクマネジメントについて論理的に考える能力・スキルを修得することである。		
授業の内容	本授業では上田和勇の『事例で学ぶリスクマネジメント入門』を参考文献として使う。リスクマネジメントと企業倫理においてリスクの根本的な性質と企業の社会的責任を理解することで、現実においてリスクマネジメントと企業倫理の問題を理解するのに役に立つ。		
成績評価の方法	評価方法および配分は、①中間(40%)、②期末試験・発表(40%)、③自学自習によるレポート(20%)とする		
テキスト			
参考文献	上田和勇『事例で学ぶリスクマネジメント入門 - 復元力を生み出すリスクマネジメント』 Richard H. Girgenti et al., 『不正・不祥事のリスクマネジメント』日本経済新聞 谷本寛治『CSR企業と社会を考える』NTT出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	イノベーション論		
担当教員氏名	朴 唯新		
研究室の場所	1827		
オフィスアワー	随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)		
授業の形式・方式	対面授業を行う。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	イノベーション、MOT(Management of Technology)、技術経営		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業の目的は2つある。第一に、受講者がイノベーションとMOT(Management of Technology)について理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様なイノベーションの現象について論理的に考える能力・スキルを修得することである。		
授業の内容	本授業では一橋大学イノベーション研究センターの『イノベーション・マネジメント入門』を参考文献として使う。イノベーションと経済発展との関係を理解することで、現実において企業のイノベーション活動を理解するのに役に立つ。		
成績評価の方法	評価方法および配分は、①中間、期末試験(80%)、②自学自習によるレポート(20%)とする。		
テキスト			
参考文献	一橋大学イノベーション研究センター 『イノベーション・マネジメント入門』 日本経済新聞社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ビジネスモデル論		
担当教員氏名	矢澤 利弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1641研究室		
オフィスアワー	可能な限り随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントを取ってください。		
授業の形式・方式	対面授業。講義日程に従って、主に下記の教科書に従って講義形式で実施する。1回の講義に付き、20ページから30ページ程度のスピードで講義を進める。主として講義形式で進めていくが、後半期からは講義形式に加えて、学生による課題の発表形式を併用する。受講生は、予習をしたうえで授業に出席し、集中して講義を聴講し、課題に取り組む必要がある。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ビジネスモデル，イノベーション，オープン・イノベーション，プラットフォーム，新規事業，ロングテール，フリーミアム，ソーシャルネットワーク		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	知的経済が進行するなかで、社会は常に新しく優れたビジネスモデルを求めている。また、革新的なビジネスモデルを創出した起業家は、いつの時代でも変革を社会にもたらしてきた。本講義の目的は、受講生がビジネスモデルに対する知見を深め、新しいビジネスモデルを創出するための力を修得することである。具体的には、1) 基本的なビジネスモデルの類型について、自分の言葉で説明することができるようになること、2) ビジネス社会において、新しいビジネスモデルを生み出していくことができるようになること、3) 実際の具体的な企業のビジネスモデルを的確に分析できるようになること、が本講義の最終的な目標となる。		
授業の内容	本講義は、1) ビジネスモデルの理論と分析方法を知る、2) ビジネスモデルの個別事例を知る、3) ビジネスモデルを創出するための基礎力を付ける、の3段階で成り立っている。具体的には、第1回、第2回では、ビジネスモデルの定義から始まり、ビジネスモデルの構成要素について解説する。いかにして実際の企業のビジネスモデルを把握し、分析していくかという視点と方法論を講義する。第3回から第5回までは、ビジネスモデルの類型について見ていく。ビジネスモデルの代表的なパターンを理解してもらうことになる。第6回から第9回までは実際の企業を例に取り上げながら、ビジネスモデルの実際を詳細に検討していく。第10回以降は受講生が実際に新しいビジネスモデルを創出するためにはどうすればよいのかについて講義する。最終段階として、受講生自らが起業家として、新しいビジネスモデルを創出するための視点を提供する。第13回以降は本講義の総仕上げである。受講生はそれぞれ指定された課題に基づいてプレゼンテーション資料を作成し、授業時間内に発表を行う。		
成績評価の方法	授業内での期末プレゼンテーション60%、授業期間中に課す数度の課題レポート40%の割合で評価する。期末試験は実施しない。		
テキスト	池本正純監修・カデナクリエイト著『図解&事例で学ぶビジネスモデルの教科書』マイナビ、2014		
参考文献	エイドリアン・スライウォッキー『ザ・プロフィット』ダイヤモンド社、2002。寺本義也・近藤正浩・岩崎尚人『ビジネスモデル革命 第3版』生産性出版、2011。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	本講義は、極めて実践的な内容であるため、積極的に授業の準備を行い、プレゼンテーションなどに対する取り組みが必要となる。日頃から新聞やビジネスニュース番組などによって、世界の企業の最新動向について情報を得ることが望まれる。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	知識経営論		
担当教員氏名	矢澤 利弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1641研究室		
オフィスアワー	可能な限り随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントを取ってください。		
授業の形式・方式	<p>この授業では、アントレプレナーとして、新たな事業を立ち上げ、企業を運営することをシミュレーションする。会計やマーケティングなどの知識を総動員しながら、有価証券報告書を始めとするあらゆる公表資料から情報を読み取り、情報から推論した企業特性や課題を抽出し、さらに、企業に対する経営改善提案あるいは制度改革を提言するために、次のような方法で授業を進める。</p> <p>①テーマ設定解説：企業情報の活用のためのテーマを設定し、これを概説する。  ②グループワーク：5人1組でグループを形成し、テーマに対してワークを行う。  ③グループ発表：グループワークの成果をパワーポイント10枚以内で、講義3回に1回の割合でグループ発表し、発表内容に対して討議する。パワーポイントには、グループ名、グループメンバー、発表予定者を明示して提出する。  ④個人レポート作成：グループワークと同時に、各個人は設定されたテーマに関してレポートを作成し、提出する。</p>		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	アントレプレナーシップ、ベンチャー企業、起業家、動態的経営モデル、バリューチェーン、先行投資、営業活動、財務活動、政策提言、財務分析、ビジネスモデル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本講義は、広島県内の実際のベンチャー企業を題材として取り上げ、それらの企業の現状と課題を把握し、自分が当該企業の経営者だったとすれば、どのような意思決定をすべきなのだろうかという訓練を行っていくことを目的としている。グループワークによる戦略立案を通じて、自ら考え行動するというアントレプレナーシップを醸成する。</p>		
授業の内容	<p>本講義は、科目名が示すとおり、極めて実践的な授業である。広島県内の実際のベンチャー企業を題材として取り上げ、それらの企業の現状と課題を把握し、自分が当該企業の経営者だったとすれば、どのような意思決定をすべきなのだろうかという訓練を行っていく。グループワークによる戦略立案を通じて、自ら考え行動するというアントレプレナーシップを醸成する。授業内容は授業計画に示した通りである。授業3回分を1セットとし、1セットは講義、グループワーク、発表という順番で進んでいく。</p> <p>対象企業の有価証券報告書などの公表情報をベースに、次の順序のテーマに従いながら、多様な情報を収集し、パワーポイント資料を作成・発表すると同時にレポート作成を行い、提出する。講義3回を1セットとしてテーマ設定の概説を行い、グループワークを行うが、各グループは授業時間外に随時集まり、グループ発表の準備を行う。</p>		
成績評価の方法	<p>成績の対象は、①授業参加度、②グループ作成パワーポイント、③グループ発表、④提出レポート、⑤学期末試験による。評価のポイントとウエイトは次の通りである。</p> <p>①授業参加度：発言の頻度により評価する。（ウエイト：発言ごとに別枠加算）  ②作成パワーポイント：グループメンバーは同一評価とする。（ウエイト：30%）  ③グループ発表：発表方法、第三者に対して説得的かを中心に評価する。（ウエイト10%）  ④提出レポート：テーマに対していかに自己の独創的意見を入れ、論理的にレポートが作成されているかを基準に評価する。（ウエイト40%）  ⑤学期末試験：すべての資料の持ち込み可で論述試験を行う。（ウエイト20%）</p>		
テキスト	スティーブン G ブランク「アントレプレナーの教科書[新装版]」 翔泳社		
参考文献	<p>「有価証券報告書：アスカネット平成27年4月期」  「有価証券報告書：データホライズン平成27年3月期」  「有価証券報告書：アドテックプラズマテクノロジー平成27年8月期」  その他、インターネット上の情報、日経テレコン新聞検索、雑誌情報など</p>		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>本講義はグループワークによる演習と発表が中心となるため、授業は欠席しないこと。欠席した場合、グループ全体に迷惑がかかることになる。また、本講義は、グループによるプレゼンテーションとそれに伴うレポート提出が複数回予定されている。したがって、相応の授業時間外学習のほか、他のグループ内メンバーとの共同作業及び情報共有が必要である。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	<b>経営組織論</b>		
担当教員氏名	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721研究室		
オフィスアワー	メールにより予約してもらって、その上で実施する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容を講義形式および課題実習方式で実施する。1回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、教科書以外にプリント資料も活用し授業内容の補足および復習を行い、必要によって質問・回答の時間も設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	経営学関連の各種資格取得内容を含む		
キーワード	組織とは何か，組織における合理性と人間性，経営戦略と組織，組織の基本形態と展開，組織構造とプロセス，組織能力，組織文化のマネジメント，組織変革，グローバル企業組織，M&A，ネットワーク組織，ポスト・モダンの組織論，組織倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	実際の企業経営は「組織」を通じて遂行されることから，経営組織論は，現代経営学において必要不可欠な専門科目として確固たる位置を占めている。組織なくして，その管理はありえないのであり，経営組織の理解は経営学を学ぶ学生にとって必須である。1. 経営組織論の本質を究明し、現代組織における人間の生き方について考える。2. 本格的に現代の経営組織理論の専門的知識を身につける。3. 組織変革技術や組織人としてのスキルとマナーを身につける。		
授業の内容	現実の企業の経営活動は，生身の生きた（有機的）人間による組織体を通じてその活動がなされている。そのため，経営組織論の中心的テーマは，組織における人間の問題であり，必然的に企業組織の合理性と人間性の尊重という2つの中心問題をかかえ，これをどう調和させていくかという経営管理課題と密接に関わりながら展開されている。また今日では，経営組織の社会性や革新性も極めて重要課題となってきた。本授業では，経営管理の母体である経営組織の本質を究明するとともに，組織形態と組織構造，組織文化，組織の権限・責任，組織リーダーシップ，組織における人間の動機づけなどの問題を考察し，組織を管理する現代経営者の機能に意味のある示唆を与えようとするものである。また今日の経営組織論は新たな理論が続出しているため，今日の経営環境の変化に対応した，新しい経営組織理論についても考察する。		
成績評価の方法	授業参画度（平常点）20%，宿題および小テスト30%，期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は，指定された教室内で持込可で実施する。問題形式は，多肢選択および論述形式を採用する。		
テキスト	A. 教科書：佐久間信夫・小原久美子編著『現代経営組織要論』創成社、2017年4月発行予定。その他、授業中に紹介する。		
参考文献	参考書：小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月。その他、授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	①現実の企業組織に関心を持ち，自分なりの問題意識をもって参加してほしい。②本授業は，平常点も含めて総合的に評価するので出席等も評価点となる。③経営組織論は，大学で初めて学ぶ学問であるため，質問等がある場合には積極的に応じていく。質問表の配布や質問の回答の時間を設ける。また，メールや対面による質問にも応じていく。		

授業科目名	組織文化論		
担当教員氏名	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721研究室		
オフィスアワー	メールにて予約をしてもらい、その上で実施する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の研究書各章に関する内容を講義形式および実習形式（課題を与え、各学生が自ら考える、また、グループ討議により考える）で行う。1回の授業につき、1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、研究書以外にプリント資料も活用し授業内容の補足および復習を行い、必要によって質問・回答の時間も設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 専門科目選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	経営学関連の各種資格取得内容を含む		
キーワード	経営理念，組織規範，企業文化・経営文化・組織文化，組織文化のマネジメント，解釈主義，機能主義，環境対応と組織文化，経営戦略と経営資源，組織構造と組織文化，経営成果と組織文化，リーダーシップ，組織行動プロセスと組織文化，サブカルチャー，創発，組織変革のリーダーシップ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	2年次で講義した「経営組織論」の新たな展開方向として位置づけられるのが「組織文化論」である。本授業の目標は、以下の通り。1. これまでの組織文化の理論を体系的に理解する。2. 各々の組織独自の価値観である組織文化を築き上げ、組織および組織における個々人自らがより主体的に環境に挑戦することの意義を理解し、これからの新しい経営を考える。3. 組織における合理性と人間性の調和を図るマネジメント思考とその実践的スキルを身につける。		
授業の内容	企業における組織文化研究は、1980年代以降に盛んに論じられるようになったが、企業・経営組織を文化の視点から論ずる研究はそれ以前に遡ることができる。 本講義では、組織文化論の経営学史的意義や経営組織論の中での位置づけをなした上で、現代組織文化論を、アメリカにおける主要な組織文化論研究者の論理を取り上げ体系立てて検討し展開する。また、組織文化と組織および組織構造、経営戦略、組織文化のマネジメントとの相互関係を明らかにし、現代組織文化論の経営学的考察を試み、さらなる今後の研究課題と方向性を探究する。		
成績評価の方法	授業参画度（平常点）20％，宿題および小テスト30％，期末試験50％の割合で総合的に評価する。試験は、指定された教室内でテキスト持ち込み可で実施する。問題形式は、多肢選択および論述形式を採用する。		
テキスト	教科書：小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月。その他、適宜、プリント教材を配布する。		
参考文献	参考文献は、授業中に随時、多数紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	①現実の企業組織の経営理念や組織文化に関心を持ち、自分なりの問題意識をもって参加してほしい。また、事前にテキストを読み予習をして授業に望んでもらいたい。②組織文化論も大学で初めて学ぶ学問であるので、メールや対面による質問等に積極的に応じていく。		

授業科目名	グローバル経営論		
担当教員氏名	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721研究室		
オフィスアワー	メールにて予約をしてもらい、その上で実施する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容から課題を設定し、各自がレポート形式でまとめた上で、ケース研究によるグループ・ディスカッションを実施する。1回の授業につき約1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、教科書以外にプリント資料も活用し、授業内容の補足および復習を行い質問・回答の時間も設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	グローバル経営、グローバル・マネジメント、グローバル組織の進化論、グローバルな組織文化と変革、グローバル・マインドセット、グローバル・マネジャーの能力開発、複雑性のマネジメント、組織能力（コア・コンピタンス）、競争優位性		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業では、グローバル企業の経営戦略および経営組織と管理に着目し、グローバル経営論として展開する。国際経営やグローバル経営に関する理論のみならず、グローバル企業の経営ケース研究により、マネジメントの実践的スキルを身につける。1. グローバル企業の経営諸理論を理解する。2. グローバル経営者の役割と使命について考える。3. グローバル化とローカル化を同時に達成するためのマネジメント技法を経営ケースを通じて習得する。		
授業の内容	企業の多国籍化過程においては、グローバル化と同時にローカル化を達成していかなければならない課題を負っている。この課題に取り組もうとするのが、今日のグローバル経営であると捉えることができる。この課題の解決のためには、グローバル企業における戦略や組織構造に合わせて、文化的な価値観による調整と統合を行っていけるメカニズムの確立やプロセスの解明が重要であると考えられる。本講義ではこのような視点から、グローバル企業の組織と経営管理の探究を通じて、グローバル経営論へと展開していく。		
成績評価の方法	授業参画度(平常点)20%、宿題および小テスト30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は、指定された教室内でテキスト持ち込み可で実施する。問題形式は、多肢選択および論述形式を採用する。		
テキスト	A.教科書：吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・他著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣ブックス、2013年。		
参考文献	①岩谷昌樹『ケースで学ぶ国際経営—進化する企業の戦略と組織—』中央経済社、2005年。②根本孝編著『グローバル経営—国際経営の進化と深化—』同文館出版、2004年。③吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣ブックス、2006年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	①本授業「グローバル経営論」を受講する前に、「組織文化論」を受講することが望ましい。多様な文化を備えた組織間関係のマネジメントの問題は、グローバル経営を考える上で重要である。 ②テキストは読み易いものとなっているので予習をしておくこと。 ③メールや対面による質問等にも積極的に応じていく。		

授業科目名	経営管理論		
担当教員氏名	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	授業では、教科書を中心に、経営管理論の主要な概念および枠組みを解説する。受講者の積極的な発言および授業への参加を期待する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	経営管理，科学的管理，人間関係論，知識経営論，グローバル化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の目的は2つある。第1に，受講者が，経営管理論の基礎的な概念と枠組みを理解することである。第2に，受講者が，これらの概念および枠組みを活用し，多様な経営現象に関して論理的に考える能力・スキルを修得することである。		
授業の内容	経営管理論の歴史的な系譜を，科学的管理法，人間関係論，知識経営論などの概要を順に学習し，その現代的な意義を考察する。今日の企業環境の変化に注意しながら，授業を通して次の問題意識を深めてほしい。(1)生産性の概念の発達と変化(2)創業者や専門経営者の登場，および，起業家の社会的役割(3)生活の質的变化やグローバル化がもたらす外部環境の変化(4)組織の競争優位構築における知識創造の役割		
成績評価の方法	出席，授業態度，授業への参加度および課題発表50%，期末試験50%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	a.教科書 平野実『国際合弁企業と知識創造』晃洋書房，2007 b.参考書 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男『経営管理』有斐閣，1999。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また，講義中の飲食，携帯電話・スマートフォンの使用（携帯電話，スマートフォンは，かばん等にしまっておくこと），私語雑談，居眠り，内職，帽子の着用，途中退室は厳禁する。		



授業科目名	人的資源管理論		
担当教員氏名	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約をすること）		
授業の形式・方式	授業では、教科書を中心に、人的資源管理論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	キャリア形成，雇用管理，目標管理制度，専門職制度		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の主要な目標は，受講者が企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって，人的資源管理論に関する理解を深めることである。		
授業の内容	サービスの経済化・高齢化が進行するわが国の企業経営において，終身雇用制が大きく変貌するとともに，さまざまな雇用形態が登場し多様化している。講義では，このような経営組織の環境変化の中で，社員のキャリア形成と，経営組織の求める人材の確保のあり方について考察する。特に，社員のキャリア形成を達成すると同時に，新製品や新サービスの開発に必要な戦略的な人材を確保する，という視点から，社内公募制，目標管理制度，専門職制度，教育研修制度，および，給与・賞与などの報酬制度を中心とする総合的な人事制度について，日本企業や外国企業の優れた事例を取り上げながら学習する。		
成績評価の方法	出席，授業態度，授業への参加度および課題発表50%，期末試験50%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	a. 教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社，2003。		
参考文献	b. 参考書 平野実『国際合弁企業と知識創造』晃洋書房，2007。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また，講義中の飲食，携帯電話・スマートフォンの使用（携帯電話，スマートフォンは，かばん等にしまっておくこと），私語雑談，居眠り，内職，帽子の着用，途中退室は厳禁する。		

授業科目名	組織行動論		
担当教員氏名	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室		
オフィスアワー	随時 (メールで事前に予約をすること)		
授業の形式・方式	授業では、教科書を中心に、組織行動論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーダーシップ, モティベーション, グローバル化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の主要な目標は、組織内で示される人々の多様な行動や態度について学習することによって、組織行動論に関する理解を深めることである。		
授業の内容	組織は、計画された連絡調整のための公式の構造であり、二人以上の人間が関わって共通の目標を達成する目的を持つ。組織行動論は、このような組織の中で起こる人の行動と態度についての体系的な学問である。講義では、従業員のリーダーシップ能力の向上やモチベーション、職務満足感を高める「人のマネジメント」を考察する。		
成績評価の方法	出席、授業態度、授業への参加度および課題発表50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社、2003。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また、講義中の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用(携帯電話、スマートフォンは、かばん等にしまっておくこと)、私語雑談、居眠り、内職、帽子の着用、途中退室は厳禁する。		

授業科目名	流通システム論		
担当教員氏名	栗島 浩二		
研究室の場所	広島キャンパス 1648研究室		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
授業の形式・方式	対面講義形式です。ただし、講義は、マーケティング論と同様、出席カードのコメントや質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながら流通の現場に迫りたいと思います。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経済の暗黒大陸「流通」，卸売業の存立根拠，総合商社，小売業態，百貨店，スーパー，チェーンストア理論，マーチャンダイジング，コンビニエンス・ストア，専門量販店、流通革命		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「流通」と聞くと、「製造メーカーと消費者の間に挟まった無駄なもの」と思う人が多いかもしれませんが。「できれば無いほうが、価格が下がっていい」と思う人もいでしょう。しかし、本講義では、流通が果たしている役割の本質を理論的体系から理解し、事例を取り上げながら実際の流通企業が顧客に提供している価値に迫ります。カリキュラム上では、1年次開講のマーケティング論の下位理論（細分）となります。		
授業の内容	「流通革命論」や「問屋無用論」を踏まえて、まず流通が果たしている役割、機能を中心に基礎理論を学ばす。次に現代の流通業の概要について触れ、イノベーションとバリュー・チェーンをキーワードに、小売業と卸売業の諸形態を具体的に上げて理解を深めていきます。事例としては百貨店、スーパー、コンビニエンス・ストア、専門店、総合商社などを取り上げます。また経営環境の変化、特にIT革命やグローバル化によって流通システムがどのように変化しつつあるのかを製造業・卸売業・小売業の相互関連から考察していきます。後半小売業に関する講義では、マーチャンダイジングと呼ばれる「小売の科学」を、日常私達が目にしているお店などを事例に解説いたします。販売士（リーテールマーケティング）3級程度の内容を扱います。		
成績評価の方法	中間レポート10点×3回、最終試験40点、毎時限「コメントカード」の提出を求め、日常点30点とします。（合計100点満点）試験は持ち込み不可で実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。特に最終講義では、総括とともに出題に関する十分な解説を行いますので必ず出席してください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。		
テキスト	石原 武政，竹村 正明 [2008] 『1からの流通』 碩学舎。		
参考文献	・伊藤元重[2003]『流通戦略の新発想』PHP新書。・田島義博[2004]『歴史に学ぶ 流通の進化』日経事業出版センター。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学部共通専門科目の「マーケティング論」を履修済みであることが望ましい。 販売士検定（リーテールマーケティング）3級の出題内容を含んでいるので、資格取得のアドバイスも適時行う予定である。		

授業科目名	営業マーケティング論		
担当教員氏名	栗島 浩二		
研究室の場所	広島キャンパス1648研究室		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
授業の形式・方式	対面講義形式です。ただし、部分的にグループワークショップやプレゼンテーションを行っていただきます。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを見ると同時に、営業活動に関するグループ討議を行う予定です。また、ゲストスピーカーにも来ていただく予定です。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	顧客創造，営業改革，プロセス管理，アウトプット管理，環境分析，販売管理論，組織営業，顧客心理，営業戦略，予算，営業の倫理，営業管理様式，提案営業，データベース営業，IT		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>「営業はキツイ」「会社に入っても営業職だけはやりたくない」そんなことを思っている学生諸君は少なくないと思います。それは、日本企業の営業と呼ばれる部門がどのような仕組みになっているのかについて正しい知識が不足していたからです。</p> <p>この講義では、近年やっと進んできた営業研究の理論的枠組みとそれに関する事例を紹介しながら、「営業の本質」を理解してもらいたいと考えています。カリキュラム上は、1年次開講のマーケティング論、2年次開講の流通システム論の下位理論（細分）となります。</p>		
授業の内容	<p>主な内容は以下の通りです。1，人的販売論，販売管理論から営業研究までの理論的展開 2，マーケティングと営業の関係 3，日本企業の営業部門が抱えている課題 4，顧客関係マネジメント（顧客管理とは） 5，顧客の心理 6，営業改革とはなにか 7，組織間関係と営業革新 8，競争と環境分析 9，多様な営業プロセス 10，営業の業績評価 11，営業の倫理と社会的責任 このほかに、イントロダクション（1回目）とグループ・ワークショップ，プレゼンが入り合計15回となります。</p>		
成績評価の方法	最終レポート60点、日常点40点（合計100点満点） 試験期間の筆記試験はありません。尚、評価の基準については講義の開始時に説明いたします。グループでの討議や発表に積極的に参加したと評価される方には、日常点の加算があります。積極的な参加を望みます。		
テキスト	石井淳蔵[2012]『営業をマネジメントする』岩波書店。<+4006032498+>		
参考文献	・高嶋克義[2002]『営業プロセス・イノベーション』有斐閣。・石井，嶋口編[1995]『営業の本質』有斐閣。・小林，南編[2004]『流通・営業戦略』有斐閣アルマ。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	「マーケティング論」「流通システム論」を履修済みであることが望ましい。また、指定のテキストは適時使用しますが、授業で配布されるレジュメやノートの整理が重要となります。		

授業科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員氏名	川原 直毅 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。シラバスに沿ってレクチャーを行う。授業は一方通行の授業にならないように、学生と対話をしながら、理解度を深めていく。また、必要に応じて、プリント資料の配布をし、解説を行う。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)		
キーワード	マーケティング, マーケティング・リサーチ, ニーズ・ウォンツ, 4P, ブランド, 定性調査, 定量調査, STP, 消費者購買行動, AIDMA, 消費者調査, 需要調査, 商圏調査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	わが国経済はバブル崩壊後、景気の長期低迷、完全失業率の上昇など、先行き不透明な厳しい状況下にある。このような環境変化のなか、企業のマーケティング活動は、より多様化、個性化する消費者ニーズに対応するため、とりわけCSを重視し、顧客との関係性を構築しようとしている。講義では、まず企業活動としてのマーケティング活動、及びマーケティング・リサーチの基礎を学び、マーケティング・リサーチが果たす様々な役割について身近な事例から、特に消費者購買行動、ライフスタイルの変化について理解を深める。特に、データ分析では、質疑応答しながら授業を進めていく。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業活動としてのマーケティング</li> <li>2. マーケティングの諸見解</li> <li>3. マーケティング・リサーチとは何か</li> <li>4. マーケティング・リサーチの諸類型</li> <li>5. マーケティング・リサーチの機能</li> <li>6. マーケティング・リサーチの進め方</li> <li>7. 消費者の捉え方</li> <li>8. 消費者分類と価値観</li> <li>9. 消費者とブランドの関連</li> <li>10. データ解析</li> <li>11. 広島市商圏実態調査のデータ分析I~III</li> </ol>		
成績評価の方法	平常点と学期末試験の合計点によって評価する。1/3以上の欠席は評価の対象としない。		
テキスト	プリント、資料を適宜配布する。		
参考文献	田代義範編著『現代日本企業の経営学』ミネルヴァ書房 2004 広島修道大学商学部起業家精神研究チーム編『起業家精神教育の試論的アプローチ』フタバ図書 2007		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	毎回出席をとります。授業中の携帯電話、メール交換は他の学生の迷惑になりますので電源を切ってください。		

授業科目名	初級簿記		
担当教員氏名	五百竹 宏明		
研究室の場所	1726研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前予約を取る）		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科、経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	手形、減価償却、税金、決算、試算表、精算表、財務諸表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	簿記入門で習得した知識をもとに、各種取引の会計処理方法とその背景にある会計の基礎的理論を理解する。 簿記入門と合わせて履修することにより、日商簿記検定3級に対応した知識を習得できる。 会計学、経営学、経済学など経営情報学部で開講されている科目を学ぶうえで基礎となる科目である。		
授業の内容	以下の項目について、テキストを参照しながら解説する。また、ワークブックへの記入を通じて、受講生に簿記のスキルを身につけてもらう。 「手形」「有価証券」「固定資産」「資本金と引出金」「収益と費用」「税金」「帳簿と伝票」「決算と財務諸表」		
成績評価の方法	出席20% 学期末試験80%		
テキスト	『合格テキスト日商簿記3級』TAC出版 『合格トレーニング日商簿記3級』TAC出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	前期開講の「簿記入門」とあわせて受講することが望ましい。		

授業科目名	中級簿記		
担当教員氏名	橋上 徹		
研究室の場所	1724号研究室（広島キャンパス）		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより随時		
授業の形式・方式	対面授業ですが、参加学生の方々の理解度を確保するために、発表をしていただくことも想定しています。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 経営情報学科 2年次・3年次・4年次対象（なお、「開放科目」につき、経営情報学部以外の学生の方々も受講可能）		
免許等指定科目			
キーワード	<p>（「中級簿記」において、初級簿記に新しく追加される主要キーワードです。）銀行勘定調整表、売買目的有価証券（時価法）、債券の端数利息の処理、クレジット売掛金、営業外支払（受取）手形、手形の更改（書換え）、手形の不渡、電子記録債権・電子記録債務、貸倒引当金（個別評価と一括評価、営業債権および営業外債権に対する貸倒引当金繰入額の損益計算書における区分）、商品（製品）保証引当金、売上割戻引当金、退職給付引当金、修繕引当金、その他の引当金（賞与引当金、返品調整引当金など）、債務の保証、3分（割）法による売買取引の処理、販売のつど売上原価勘定に振り替える方法による売買取引の処理、仕入／売上割戻、仕入および売上の割引、総平均法、棚卸減耗、評価替、有形固定資産の割賦購入（利息部分を区分する場合は定額法に限る）、圧縮記帳（国庫補助金・工事負担金の直接控除方式）、有形固定資産の除却・廃棄、建設仮勘定、減価償却（定率法、生産高比例法）、無形固定資産（のれん、自社利用のソフトウェア、その他の無形固定資産）、投資その他の資産（満期保有目的債券＜償却原価法－定額法＞）、子会社株式・関連会社株式・その他の有価証券、長期前払費用、リース取引、ファイナンス・リース取引の借手側の処理（利子込法、利子抜法〔定額法〕）、外貨建取引、外貨建の営業取引（為替予約の振当処理を含むが、為替予約差額は期間配分をしない）、収益・費用の認識基準（引渡基準、出荷基準など）、役員収益・役員費用、研究開発費・創立費・開業費など、法人税・住民税・事業税（課税所得の算定方法を含む）、未決算、決算整理（棚卸減耗、商品の評価替、引当金の処理、無形固定資産の償却、売買目的有価証券・満期保有目的有価証券およびその他の有価証券の評価替え〔全部純資産直入法〕、月次決算による場合の処理、外貨建売上債権・仕入債務など）、繰越利益剰余金勘定への振替、その他の有価証券評価差額金（全部純資産直入法）、報告式による損益計算書と貸借対照表の作成、財務諸表の区分表示、株主資本等変動計算書（株主資本及びその他の有価証券評価差額金に係る増減事由に限定）、資本金（設立、増資）、資本剰余金（資本準備金、その他の資本剰余金）、剰余金の配当など（剰余金の配当、剰余金の処分、株主資本の計数の変動）、会社の合併、本支店会計の意義・目的、本支店間取引の処理、本支店会計における決算手続（財務諸表の合併など）、連結会計、資本連結、非支配株主持分、のれん、連結会社間取引の処理、未実現損益の消去（棚卸資産及び土地に係るものに限る：ダウンストロームの場合）、連結精算表・連結財務諸表の作成</p>		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日商簿記検定2級（商業簿記）に合格できるレベルの知識を身に付けることを目標とします。日商簿記検定2級は、高校程度の商業簿記および工業簿記（初歩的な原価計算を含む）を修得し、財務諸表を読む力をつけ、企業の経営状況を把握することによって、取引先等の経営状況も分かるようになり、株式会社の経営管理に役立つ知識を修得することが目標です。日商簿記検定2級レベルの知識は、大学の学生の方々にとって、将来、経営関係業務に従事するかどうかにかかわらず、ビジネスパーソンとして、最低限身に付けておきたい知識です。		
授業の内容	「簿記入門」「初級簿記」で学んだ、簿記の基礎知識を踏まえ、日商簿記検定2級レベルの簿記スキルが身に付くような講義内容とします。「出席管理票」などで、参加学生の方々の理解度を見ながら、進行の内容を検討することも想定しています。		
成績評価の方法	概ね、期末試験70%、受講態度30%で評価する予定です。なお、試験は、自筆のノート、電卓、筆記用具のみ持ち込み可とします。		
テキスト	『検定簿記講義（商業簿記）2級（平成29年版）』（中央経済社）『検定簿記ワークブック（商業簿記）2級』（中央経済社）		
参考文献	上野清貴著『企業簿記の基礎（第2版）』（中央経済社）、渡部裕他『テキスト 上級簿記（第5版）』（中央経済社）		
備考（履修上のアドバイス・禁止行為等）	MUSTではありませんが、「簿記入門」「初級簿記」を履修済み、又は並行して履修すると、理解が楽になると思われます。簿記は、知識の積み上げにより、次のステップに行けるとい特徴があり、予習・復習を、毎回必ずするように習慣付けをお願いします。		

授業科目名	会計学概論		
担当教員氏名	橋上 徹		
研究室の場所	1724号研究室（広島キャンパス）		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより随時		
授業の形式・方式	基本的には、対面授業ですが、可能な限り、受講学生の方々の意見を求め、授業への学生の皆さんの参加を促し、それにより理解が深まるような、形式にしていきたいと考えています（授業の進め方は、受講学生の皆さんのご意見を聞きながら、考えていければと思います。）。平成26年度は、「黒字倒産」や「（損失の）飛ばし」といった、具体的な問題会計処理事例（ケーススタディ）に興味のある学生の方々のご意見を踏まえて進行了しました。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科・経営情報学科 2年次・3年次・4年次対象（なお、「開放科目」につき、経営情報学部以外の学生の方々も受講可能）		
免許等指定科目			
キーワード	利益計算構造、企業会計原則、実現主義、発生主義、費用配分の原則、認識、測定、キャッシュフロー、棚卸資産の評価、金融商品会計、引当金		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	会計の知識は、公的機関を含むあらゆるビジネスシーンにおける対応を図る際に避けて通れない知識です。「会計学概論」の目標は、「財務会計論」「原価計算論」等の会計学の基本根幹科目の理解をスムーズにできるための基礎を培い、①会計学の基本的な意義を理解し、②基本的な財務諸表の作成、③基本的な財務諸表の分析等が行えるようになることを目標として授業を進めます。なお、「会計学概論」は、会計研究者、実務において経理や会計税務専門家を目指す学生のみならず、実務において経営管理・営業・購買・人事・総務・財務（資金運用・資金調達）・広報・SE（システムエンジニア）・プログラミング職等を目指す方々、金融機関勤務を目指す方々、公的機関勤務を目指す方々等にとっても、身に着けていただきたい基本科目の1つと考えています。		
授業の内容	最初に、利益計算の仕組みを学修します。次に、重要な基本的財務諸表である「損益計算書」「貸借対照表」に計上される諸項目やその諸要素を構成する具体的な諸項目の定義及び認識・測定の基準や方法を学修します。さらに、黒字倒産の原因分析等のために注目をされている重要な基本的財務諸表である「キャッシュ・フロー計算書」を学び、利益とキャッシュの関連性について理解をしていただきます。また、在庫（商品・製品等）のコスト計算の仕組み（原価会計）に関しても、基本的な理解ができることを目標にします。		
成績評価の方法	概ね、期末試験70%、受講態度30%で、総合的に評価する予定です。なお、試験は、自筆のノート、電卓、筆記用具のみ持ち込み可とします。		
テキスト	加藤盛弘他著『会計学の基本 基礎から現代の会計-（第2版）』（森山書店）		
参考文献	中央経済社編『新版 会計法規集<第9版>』（中央経済社）、桜井久勝著『財務会計講義（第18版）』（中央経済社）、高橋賢著『テキスト原価会計（第2版）』（中央経済社）、日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『平成29年版 会計監査六法』（日本公認会計士協会出版局）		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	会計系科目は、知識の積み上げにより、次のステップに行けるという特徴があり、特に、復習を、毎回必ずするように習慣付けをお願いします。		



授業科目名	財務会計論		
担当教員氏名	橋上 徹		
研究室の場所	1724号研究室（広島キャンパス）		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより随時		
授業の形式・方式	基本的には、対面授業ですが、可能な限り、受講学生の方々の意見を求め、授業への学生の皆さんの参加を促し、それにより理解が深まるような、形式にしていきたいと考えています（授業の進め方は、受講学生の皆さんのご意見を聞きながら、考えていければと思います。）。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科・経営情報学科 2年次・3年次・4年次対象（なお、「開放科目」につき、経営情報学部以外の学生の方々も受講可能）		
免許等指定科目			
キーワード	金融商品取引法会計、会社法会計、税務会計、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準、有価証券報告書、国際財務報告基準、コンバージェンス・アドプション、連結財務諸表、企業結合会計、税効果会計、リース会計、研究開発費・ソフトウェア会計、減損会計、ヘッジ会計、退職給付会計、純資産の部の会計、IR(Investor Relations)、財務諸表分析、企業価値分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	財務会計の主要な目的は、投資家（株主、潜在的株主）への情報開示による資金調達、債権者と株主の利害関係の調整、法人課税のベースとなる所得の基礎となる利益算定等が挙げられます。まず、財務会計の目的を、法令にそって理解をすることを目標にします。近年の投資家（株主、潜在的株主）への情報開示による資金調達のための財務諸表は、財務情報開示を行う企業単体の財務情報ではなく、その企業が形成する企業集団の財務情報である「連結財務諸表」です。そのため、連結財務諸表の理解を目標にします。また、近時、企業の買収や、事業部門の分離などが頻繁に行われるようになり、いわゆるM&A(Merger & Acquisition: 企業合併および買収) 会計や事業分離会計を身に着けることが望まれます。その他、「会計学概論」で、説明を予定していない、税効果会計、外貨換算会計、企業価値分析、財務諸表分析、国際財務報告基準(IFRS:International Financial Reporting Standards)、IR(Investor Relations)の開示・分析 等に関し、理解をすることを目標にします。		
授業の内容	受講学生の方々の状況を見ながら検討しますが、概ね次のような内容を予定しています。①財務報告制度、②連結会計、③企業結合会計、④税効果会計、⑤外貨換算会計、⑥ヘッジ会計、⑦リース会計、⑧研究開発費・ソフトウェア会計、⑧減損会計、⑨退職給付会計、⑩財務諸表分析、⑪企業価値分析、等。		
成績評価の方法	概ね、受講態度30%、期末レポート70%で、総合的に勘案し、評価する予定です。		
テキスト	田中健二著『財務会計入門（第4版）』（中央経済社）		
参考文献	内藤文雄著『会計学エッセンス（第2版）』（中央経済社）、中央経済社編『新版 会計法規集<第9版>』（中央経済社）、桜井久勝著『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、八田進二＝橋本尚『財務会計の基本を学ぶ（第11版）』（同文館出版）、日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『平成29年版 会計監査六法』（日本公認会計士協会出版局）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「会計学概論」の履修はMUSTではありませんが、履修をしておくこと、理解が楽になると考えます（「会計学概論」を受講されていない学生の方々に関しても、財務会計が確実に理解できるようフォローさせていただく予定です。）。会計系科目は、知識の積み上げにより、次のステップに行けるといいう特徴があり、特に、復習を、毎回必ずするように習慣付けをお願いします。		

授業科目名	会計実務		
担当教員氏名	橋上 徹		
研究室の場所	1724号研究室（広島キャンパス）		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより随時		
授業の形式・方式	基本的には、対面授業ですが、可能な限り、参加学生の方々の意見を求め、授業への学生の皆さんの参加を促し、それにより理解が深まるような、形式にしていきたいと考えています（授業の進め方は、参加学生の皆さんのご意見を聞きながら、考えていければと思います。）。したがって、シラバスの講義順番や内容は、随時、みなさんの興味などを勘案し変更して進めることにする予定です。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科・経営情報学科 3年・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経理・決算実務、金融規制と会計実務、金融商品取引法会計実務、会社法会計実務、税務会計実務、国際税務実務、国際財務報告基準(IFRS: International Financial Standards)対応実務、銀行業会計実務、証券業会計実務、保険業会計実務、投資信託会計実務、デリバティブ関連会計実務、コーポレート・ガバナンスと内部統制報告書、会計監査、統合報告書、中小企業金融と中小企業会計・監査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の1つ目の目的は、学生の方々が、実際に組織に入って直面する会計の課題を実務的に把握し、その解答を把握・理解することにあります。2つ目は、会計が資金融通（金融）の基本にある点を理解し、資金調達においてどのように会計を活用するのか、また、資金拠出者である金融機関は、どのように会計を見ているのかという点を実務的に把握し、その解答を把握・理解することにあります。3つ目は、会計学の応用分野であるコーポレート・ガバナンス、内部統制報告書制度、統合報告の潮流、会計監査等の内容を実務的に把握し、その解答を把握・理解することにあります。		
授業の内容	概ね、次のような順序で講義をする予定ですが、受講学生の方々の意見も取り入れて進行を検討したいと思います。①金融規制における会計実務の位置づけ、②経理・決算実務の基礎、③法人課税税務実務、④国際税務の理論と実務、⑤国際財務報告基準(IFRS)対応実務、⑥中小企業金融と中小企業会計・監査、⑦銀行業会計実務、⑧証券業会計実務、⑨保険業会計実務、⑩投資信託会計実務、⑪会計監査、⑫コーポレート・ガバナンス及び内部統制報告書制度と会計、⑬統合報告制度という新潮流		
成績評価の方法	概ね、受講態度30%、期末レポート70%で、総合的に勘案し、評価する予定です。		
テキスト	薄井彰編著『MBAアカウンティング - 金融サービスと会計 - 』（中央経済社） 清水孝=川村義則編著『MBAアカウンティング-アカウンティングの基礎』（中央経済社）		
参考文献	中央経済社編『新版 会計法規集<第9版>』（中央経済社）、日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『平成29年版 会計監査六法』（日本公認会計士協会出版局）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	会計実務は、経理担当希望者のみならず、経営管理・企画・財務・営業・広報・購買等の組織部署においても関連性のある重要な実務の知識です。また、金融機関においては、実務上、会計実務の位置づけは非常に重要なため、金融機関のことを理解したいという学生の方々が受講を奨励します。		

授業科目名	工業簿記		
担当教員氏名	足立 洋		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。後述のテキストに沿った内容を、レジュメを配布して解説します。そのうえで、理解の深化のため、適宜テキストの例題を用いた演習も行います。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	材料費，労務費，経費，製造直接費，製造間接費，仕掛品，製品，売上原価，原価計算		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 日商簿記2級程度の工業簿記の知識を身につけ、財務諸表作成や原価管理への工業簿記の役立ちを理解すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 1年次科目「簿記入門」「初級簿記」の発展編として、製造業の製造活動に特化した工業簿記の手続きを学びます。</p>		
授業の内容	この講義では、製造業を念頭に置きながら、財務諸表の作成や原価の管理を目的とした、ものづくりの活動を記録するための基本的な手法を学びます。具体的には、1年次科目の「簿記入門」「初級簿記」で学習した内容を振り返りながら、日商簿記2級レベルの工業簿記を学びます。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末試験：40%</li> <li>・ 小試験：各15%×2回＝30%</li> <li>・ 平常点（宿題提出・受講態度等）：30%</li> </ul>		
テキスト	TAC株式会社（簿記検定講座）編著『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver. 8.0』TAC出版，2015年。		
参考文献	必要に応じて適宜指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参してください。</li> <li>・ 講義は日商簿記検定2級の受験を視野に入れながら進めます。ただし、授業時間数の関係で、テキストの内容のうち一部については取り扱いません。したがって、検定の受験を希望する学生については、必要に応じて個別に相談に応じます。</li> </ul>		

授業科目名	原価計算論		
担当教員氏名	足立 洋		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。後述のテキストに沿った内容を、レジュメを配布して解説します。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	原価，利益，販売価格，経営戦略，マーケティング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 原価についての情報が企業経営においてどのような役割を果たすのかについて理解すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 一見マーケティングや経営戦略の立案とは別世界に見える原価計算が、いかに強く結びついたものであり、企業のどのような活動に貢献しているのかについて、理解をはかる。</p>		
授業の内容	<p>この講義では、ものづくり企業を念頭に置きながら、生産・販売されるモノの原価を計算する方法の基礎を学んだうえで、それが企業の経営活動にどのように役立てられているかという点を中心として解説します。</p> <p>簿記や会計学は、計算の難解さから敬遠される場合がありますが、実は経営戦略を練り上げ、いかにして顧客に売れる製品を開発し、いかに工場の生産方法を工夫するかといったことと非常に密接にかかわっています。</p> <p>この講義では、原価計算の方法については超基礎的な内容のみを扱います。そのうえで、その計算があるがために企業の活動がどのように工夫されるのか、また原価ではわからないが経営活動において重要なことはどのようなことであるのか、といった点を重点的に解説します。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験：50%</li> <li>・小試験：10%</li> <li>・平常点（受講態度，グループ発表等）：40%</li> </ul>		
テキスト	指定なし		
参考文献	高橋賢『テキスト原価会計 第2版』中央経済社，2015年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来，地域金融機関への就職などを志望される方もおられると思います。そこでは、融資先企業の経営者との間で数字を通じた議論が日常的に繰り広げられます。また，数字からビジネスモデルを読み解く力をつけておくと，就職活動の際に有用なこともあります。数字の計算に終始するのではなく，数字のとらえ方を身につけて経営を見られるようになりたい方には，ぜひ履修をおすすめしておきたいと思います。</li> <li>・簿記は苦手でも結構ですので，まずは企業経営に関心を持って講義に臨んでもらえるとよいと思います。</li> </ul>		

授業科目名	管理会計論		
担当教員氏名	足立 洋		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。後述のテキストの内容を配布レジュメを用いながら解説します。理解の深化のため、必要に応じて適宜DVD教材やケーススタディ、グループ発表なども行います。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	経営戦略，マーケティング，生産，購買，利益計画，予算		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 経営活動の管理が会計情報を用いながらどのように行われているのかについて，基本的な理解をはかること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 特に経営学科目の内容を土台として，会計の役立ちも視野に入れたうえで企業の経営活動の管理のあり方について検討を行います。</p>		
授業の内容	<p>この授業では，財務諸表をはじめとした会計情報の経営活動への役立ちを中心に解説します。一見マーケティングや経営戦略の立案とは無縁に思われる会計ですが，実はこれは「どの事業に力を入れるか」「モノをどう売るか」「人をどうやる気にさせるか」といった企業活動の根幹を突き動かすうえで非常に重要な役割を果たしています。そこで，企業の経営において財務諸表をはじめとした会計情報がどのように役立てられるかという点について，事例なども交えながら解説します。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験：50%</li> <li>・グループ発表：20%</li> <li>・その他平常点（小レポートの提出状況，受講態度など）：30%</li> </ul>		
テキスト	上総康行『ケースブック 管理会計』新世社，2014年。		
参考文献	必要に応じて適宜指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記が苦手でも結構ですので，まずは経営学やマーケティングに興味を持って授業に臨むことをお勧めします。</li> <li>・将来，地域金融機関への就職などを志望される方もおられると思います。そこでは，融資先企業の経営者との間で数字を通じた議論が日常的に繰り広げられます。また，数字をビジネスモデルと結びつけてとらえられるようになっておくと，就職活動に有用なこともあります。数字の計算に終始するのではなく，数字のとらえ方を身につけて経営を見られるようになりたい方には，ぜひ履修をおすすめしておきたいと思います。</li> </ul>		

授業科目名	NPO会計論		
担当教員氏名	五百竹 宏明		
研究室の場所	1726研究室		
オフィスアワー	随時（メールでアポイントメントを取る）		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	NPOセクター、or 市民セクター or サードセクター、ソーシャルアカウンティング、ソーシャルビジネス、ソーシャルキャピタル、ファンドレイジング、寄付、非営利組織		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>○特定非営利活動法人（NPO法人）、一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、社会福祉法人、医療法人など、わが国の非営利法人制度について理解できるようになる。</p> <p>○NPO法人会計基準、公益法人会計基準、社会福祉法人会計基準など主要な会計基準の特徴を理解できるようになる。</p>		
授業の内容	<p>従来の企業と行政を中心とする二元的社会（20世紀型社会）では解決できない社会的課題が山積している。そのような状況のなか、NPOセクター（市民セクター）の役割が社会的にも経済的にも重要になってきている。</p> <p>授業では、まずNPOセクターについてさまざまな視点から考察する。そして、NPOセクターの主要な非営利法人の会計制度について概観する。</p>		
成績評価の方法	出席20% 学期末試験80%		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献	授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	コーポレートファイナンス論		
担当教員氏名	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、必要に応じて配布するレジュメを用いた講義形式と学生による課題考察やグループディスカッション等の演習形式を併用して実施する。学生には、試験、小テストの受験、課題の提出、グループディスカッションへの参加が義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	資本コスト，リスクとリターン，CAPM，現在価値，キャッシュフロー，NPV，IRR，リアル・オプション，MMの無関連命題，デフォルト・コスト，配当政策，自社株買い		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業は、ファイナンスの基礎概念を修得済みの学生が、企業活動における資金の流れについて、より専門的に理解することを目指す。ここで、企業活動における資金の流れとは、(1)資金調達、(2)企業価値を高めるための実物投資行動、(3)企業活動の成果のペイアウト（株主への利益還元）というサイクルを指し、本授業はこのコーポレートファイナンスの三大テーマの理解を目標とする。</p> <p>本科目は経営学科の学科専門科目・会計ファイナンス系科目および経営情報学科の自由選択科目に区分されている。</p>		
授業の内容	<p>コーポレートファイナンス論の学問分野では、数値分析を通じて、企業の経営戦略を客観的に評価し、企業が企業価値の持続的な向上という目的に合致した戦略的な意思決定を行えるようになることを目指す。従来より欧米企業はこのコーポレートファイナンスの理論を実務に活用していたが、近年、日本企業も、資本コストを意識した経営指標を取り入れたり、資本コストを基準にした実物投資決定を行ったりするなど、コーポレートファイナンスの理論を実務に活かすようになってきている。また、資本構成や配当のあり方などの財務戦略を議論する際も、コーポレートファイナンスの理論が活用されている。</p> <p>本授業では、はじめに、資本コスト、企業価値評価、投資決定理論など、コーポレートファイナンスの基礎概念について講義する。その後、資本構成やペイアウト政策など、実際の企業の財務戦略を紹介し、各種事例について分析、考察する。</p>		
成績評価の方法	小テスト25%，グループディスカッション参画度15%，課題60%の割合で評価する。		
テキスト	使用しない。随時レジュメを配布する。		
参考文献	砂川伸幸他(2008)『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 <+9784532133450+> その他、必要に応じて授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1)金融に関するニュースに関心を持ち、この授業で学んだ内容との関わりについて考える習慣をつけましょう。 (2)ファイナンス概論と簿記入門を履修済みであることが望ましい。		

授業科目名	戦略会計論		
担当教員氏名	足立 洋		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。後述のテキストに沿って、配布レジュメを用いて解説します。理解の深化のため、実際の企業のケース・スタディを通じた経営分析や、グループ発表等を実施します。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科・経営情報学科3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	戦略, ビジネスモデル, 安定性, 収益性, キャッシュ・フロー, 企業価値		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 財務諸表から企業のビジネスモデルや経営状態を読み解く基本的な手法を習得すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 経営学科の1・2年次学部・学科専門科目の内容、中でも会計科目の内容を土台として、会計情報とビジネスモデルの統合的な理解を目指す内容になります。</p>		
授業の内容	<p>皆さんが1・2年次の会計科目で学んだように、商品の仕入れ・販売から家賃の支払いに至るまで、企業の様々な活動は、勘定科目と数字によって財務諸表という形にまとめられます。戦略会計論では、逆にこの財務諸表からその企業の活動の核となる戦略やビジネスモデルを読み解き、あるいはその企業の経営状態を分析する方法について、現実に存在する企業の財務諸表などを用いながら解説します。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末試験：40%</li> <li>・ 小試験：10%（1回）</li> <li>・ 平常点（ミニレポート提出状況，グループ発表，受講態度等）：50%</li> </ul>		
テキスト	松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版 財務諸表分析入門-Excelでわかる企業力-』株式会社ビーケーシー，2015年。		
参考文献	必要に応じて適宜指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務諸表を用いて企業活動の状況を分析するには、財務諸表から分析指標の計算を行うことと、その企業の事業のあり方を知っていることの両方が必要となります。財務諸表を使った分析指標の計算とあわせて、ニュース・新聞・雑誌などで見られる企業の事業活動に関する情報にも関心を持って学んでもらうと理解が深まると思います。</li> <li>・ 計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参してください。</li> </ul>		



授業科目名	<b>地域金融論</b>		
担当教員氏名	塚原 一郎		
研究室の場所	1723		
オフィスアワー	研究室在室時は原則可。メール等での予約も可。		
授業の形式・方式	対面、講義形式ですが、演習や発表も随時取り入れます。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域経済、中小企業金融、銀行、信用金庫、協同組織金融機関、証券会社、リレーションシップ・バンキング、金融庁、公的金融、地域通貨		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、地域経済の状況の見方とそれに対する金融の果たす役割、政府の地域経済活性化政策を理解したうえで、説明できるようになることです。さらに、地域金融に関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。		
授業の内容	政府が地方創生を重要政策にあげるなど、地域経済についての関心は高まっています。この授業では、地域経済の現状をどのように把握するのかを学んだうえで、地域経済に対する地方銀行、協同組織金融機関、公的機関の役割と政府の政策について詳しく学習します。また、金融機関の分類や地域通貨も取り上げます。国内外の経済・金融に関する最新の話題も適宜紹介します。		
成績評価の方法	期末試験50%、レポート(授業内演習や宿題を含む)50%		
テキスト	第1回目の授業で説明します。		
参考文献	授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度前期『金融論』の続きとなるので、『金融論』履修済が望ましいですが、復習は随時行うので未履修でも大丈夫です。</li> <li>・授業中は、授業に関係ない行為は禁止とします。詳しくは第1回目の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>		

授業科目名	金融論		
担当教員氏名	塚原 一郎		
研究室の場所	1723		
オフィスアワー	研究室在室時は原則可。メール等での予約も可。		
授業の形式・方式	対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	需要と供給、価格、金融システム、家計、企業、政府、銀行、景気、日本銀行、株式、金融システム安定化政策		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、金融の基礎概念及び家計、企業、政府、銀行それぞれの金融取引の基本を理解して、自分で説明できるようになることです。さらに、国内外の金融に関連するニュースに興味を持つようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。		
授業の内容	金融（お金のやりとり）は日常生活を送る上では欠かせない現象です。この授業では初めて金融を学ぶ学生を対象に、家計、企業、政府、銀行それぞれの視点から、金融取引の基礎的事項を説明します。国内外の経済・金融に関する最新の話も適宜紹介します。		
成績評価の方法	期末試験50%、レポート(授業内演習や宿題を含む)50%		
テキスト	家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社		
参考文献	授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に前提とする授業や知識はありません。この授業の続きが2017年度後期『地域金融論』となるので、『地域金融論』もあわせて履修することが望ましいです。</li> <li>・授業中は、授業に関係ない行為は禁止とします。詳しくは第1回目の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>		

授業科目名	金融機関論		
担当教員氏名	塚原 一郎		
研究室の場所	1723		
オフィスアワー	研究室在室時は原則可。メール等での予約も可。		
授業の形式・方式	対面、講義形式ですが、演習や発表も多く取り入れます。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	資金循環、中央銀行、保険、年金、先物、オプション、スワップ、イスラム金融、ソーシャルファイナンス、フィンテック		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、金融機関に関連して、最近注目されているトピックを理解して説明できるようになることです。また、個人あるいはグループで1つのテーマを設定して、調べて発表できるようになることです。さらに、関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。		
授業の内容	金融機関での就職を考えている人に関係するのはもちろん、実際に金融機関で働かなくても、家計も一般企業も金融機関との関わりは非常に大きく、金融機関は経済活動の中心的存在にあるともいえます。金融機関は、金融技術の高度化に伴い、扱う業務も日々変化しています。この授業では、最近の国内外の中央銀行をめぐる話題、保険や年金、デリバティブ取引、イスラム金融、ソーシャルファイナンス、フィンテックなどのトピックについて学びます。さらに、個人あるいはグループで1つのテーマを設定して調査を行い、発表をします。国内外の経済・金融に関する最新の話題も適宜紹介します。		
成績評価の方法	期末課題50%、レポート(授業内演習や宿題を含む)50% ※演習や発表が多いので、原則として全出席が必要です。無断欠席は大幅減点となります。		
テキスト	第1回目の授業で説明します。		
参考文献	授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度前期の『金融システム論』の内容を前提とします。</li> <li>・授業中は、授業に関係ない行為は禁止とします。詳しくは第1回目の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>		

授業科目名	金融システム論		
担当教員氏名	塚原 一郎		
研究室の場所	1723		
オフィスアワー	研究室在室時は原則可。メール等での予約も可。		
授業の形式・方式	対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	金融システム、資金循環、間接金融、直接金融、市場型間接金融、公的金融機関、財政投融資、プルーデンス政策、自己資本比率規制、預金保険制度、公的資金注入、貸金業法改正、金融庁、NISA、株式、国債、為替、ポートフォリオ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、日本の金融システムの特徴、政府の金融システム安定化政策や金融行政の現状、金融商品や金融市場の特徴を理解し、説明できるようになることです。さらに、関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。		
授業の内容	金融システムは経済活動の中で大きな役割を果たし、不安定になると多方面に影響を及ぼします。この授業は、日本の金融システムの特徴及び金融システム安定化政策について取り上げます。さらに、様々な金融商品及びそれが取引されている市場の特徴を学習します。国内外の経済・金融に関する最新の話も適宜紹介します。		
成績評価の方法	期末試験50%、レポート(授業内演習や宿題を含む)50%		
テキスト	家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社		
参考文献	授業の中で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度前期『金融論』、後期『地域金融論』の続きとなります。</li> <li>・授業中は、授業に関係ない行為は禁止とします。詳しくは第1回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>		

授業科目名	パーソナルファイナンス論		
担当教員氏名	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、日本の金融を代表する各業態の専門家によるオムニバス形式で行う。具体的には、金融庁、日本FP協会、金融広報中央委員会、全国銀行協会、日本証券業協会、投資信託協会、生命保険文化センター、日本損害保険協会から講師をお招きする。学生には、小テストの受験、レポート提出、演習への参加（ライフプランの策定、グループワークへの参加等）が義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	金融リテラシー，機会費用，年金，お金の機能と役割，ライフプラン，収支管理，安全性，収益性，流動性，リスクとリターン，分散投資，長期投資，景気，金利，インフレーション，為替相場，自己破産，保証・連帯保証，保険，消費者トラブル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業は、これまで金融や経済をほとんど学習したことのない学生が、金融リテラシー（金融に関する知識と判断力）の向上を目的に金融の実態と基礎知識を学ぶとともに、在学中そして卒業後に自立的で安心かつ豊かな生活を実現するための実践的スキルを身に付けることを目指す。</p> <p>本科目は経営学科の学科専門科目・会計ファイナンス系科目および経営情報学科の自由選択科目に区分されている。</p>		
授業の内容	<p>金融の自由化とグローバル化が進み、お金にかかわる様々な意思決定において自己責任が求められる現在、金融の基礎知識を習得する必要性・重要性はますます高まっている。このような中、金融庁は有識者、関係省庁、関係団体をメンバーとする「金融経済教育研究会」を設置し、2013年に「生活スキルとして最低限身に付金融リテラシーを発表した。本授業では、この「生活スキルとして最低限身に付けるべき金融リテラシー」の中で挙げられている4分野（家計管理、生活設計、金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、外部の知見の適切な活用）について、(1)お金を稼ぐ、(2)お金を管理する、(3)お金を借りる、(4)お金をふやす、(5)リスクに備える、(6)トラブルに強くなる、という6つの観点から講義する。また、受講生には、専門家のアドバイスを受けながら実際に自らのライフプランを描くなど、学んだ知識を活用する機会も与えられる。</p>		
成績評価の方法	レポート60%、小テスト30%、演習への参加（ライフプランの策定やグループワーク等）10%の割合で評価する。		
テキスト	使用しない。授業の都度レジュメを配布する。		
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>(1)各回の授業を受ける前までに、事前に指示した資料に目を通しておくこと。</p> <p>(2)授業を欠席した時は、各自の責任でフォローすること。</p> <p>(3)日々報道される経済・金融に関するニュースに関心を持ち、講義内容や自分自身の生活とのかかわりについて考える習慣をつけること。</p>		

授業科目名	証券システム論		
担当教員氏名	鈴木 喜久 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主として下記の教科書に基づいて講義形式で実施する。必要に応じて配付する講義ノート・補助資料を用いた講義を行う。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象。「マイクロファイナンス論」, 「マクロファイナンス論」を履修していることが望ましい。		
免許等指定科目	高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)		
キーワード	株式市場, 証券取引所, 店頭市場, 金融の証券化, 信用取引, コーポレート・ガバナンス, 債券市場, 先物市場, オプション, リスクヘッジ, スワップ, デリバティブ, 投資戦略		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業の目的は, ①企業などの経済主体にとって主要な資金調達の間である証券市場・資本市場の仕組みと機能を学習することにより, 経済社会で起こっている様々な事象に対する理解を深めること, ②証券市場を通じてあるいは先物やオプションなどのデリバティブを活用して企業が行うリスク管理手法を学習することにより, 経営の立場に立った時に必要となる考え方を理解することである。 「金融システム論」, 「金融市場論」などと併せて, 企業が行う短期の運転資金調達, 長期の設備投資資金調達, 投資家が行う資産運用などについての基本的な知識の習得を目指す。 また, 「投資分析論」の履修に必要な前提知識となる。		
授業の内容	本講義では, 日本の証券市場および証券システムについて理論と実際の両面から講義する。証券市場については, まず日本の証券市場について具体的に説明し, 証券市場の基礎的知識を学び, その上で証券市場の機能を理論的に説明していく。また証券取引システムについては, 証券業務の内容, 証券会社の機能・役割からはじめ, 証券取引所の諸制度・ルールを説明し, さらに最近の証券市場の動向や証券システム改革の現状について取り上げる。		
成績評価の方法	出席25%, 数回の宿題と中間レポート25%, 期末試験50%の合計。		
テキスト	特に指定しない。 講義ノートを配付する。		
参考文献	釜江・北岡・大塚・鈴木 著 『証券論』 有斐閣ブックス 2004年 その他, 必要に応じて授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	①日々報道される経済・金融・企業行動に関するニュースを表面的に聞き流さずに, その背景や周辺に及ぼす影響などを自分で考える習慣を身に付けましょう。 ②万が一欠席した場合には必ず翌週までに各自の責任でフォローすること。		

授業科目名	投資分析論		
担当教員氏名	鈴木 喜久 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主として下記の教科書に基づいて講義形式で実施する。必要に応じて配布する講義ノート・補助資料を用いた講義を行う。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象。「マイクロファイナンス論」, 「証券システム論」を履修していることが望ましい。		
免許等指定科目	高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)		
キーワード	DCF分析, 投資理論, 分散化原理, マーコビッツモデル, CAPM, APT, アセット・アロケーション, パッシブ運用, アクティブ運用, ファンドのパフォーマンス評価, 投資戦略		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本講義の目的は、基礎的な証券投資理論や資産価格モデルを用いて金融資産の価値に対する基本的理解を図り、実践的な証券投資分析の考え方と手法を理解することである。</p> <p>証券アナリストの資格試験科目にある「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」と本講義の内容はかなり部分が重複するが、資格試験に必要なすべての範囲をカバーすることは意図していない。</p> <p>「マイクロファイナンス論」, 「証券システム論」などと併せて、投資家が行う資産運用, ファンドによる投資戦略, 企業が行う長期の設備投資計画, およびそれらの評価方法などについての記事やレポートを理解するのに必要な知識の習得を目標とする。</p>		
授業の内容	<p>本講義では、基礎的な証券投資理論や投資モデルを使って証券投資分析について講義する。講義の内容としては、まずリスクやリターンなどの投資理論の基礎概念を説明し、続いて分散投資によるリスク削減効果をもたらすポートフォリオ理論, CAPM, APTモデルなどによる証券価格の決定および債券投資分析, 割引配当モデルなどによる株価の決定および株式投資分析について易しく説明し、さらに企業のファンダメンタル分析などの実践的方法を取り上げて解説する。</p>		
成績評価の方法	出席30%, 数回の宿題 20%, 期末試験 50%の合計。		
テキスト	特に指定しない。 講義ノートを配付する。		
参考文献	釜江・北岡・大塚・鈴木 著 『証券論』 有斐閣ブックス 2004年 その他, 必要に応じて授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>①日々報道される経済・金融・企業行動に関するニュースを表面的に聞き流さずに、その背景や周辺に及ぼす影響などを自分で考える習慣を身に付けましょう。</p> <p>②万が一欠席した場合には必ず翌週までに各自の責任でフォローすること。</p>		

授業科目名	地域政策論		
担当教員氏名	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス 1642研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	自治体，地方分権，政策形成，市民参加，首長，公務員，議会，投票		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本講座では、自治とは何か？という問いから出発し、自治体の歴史や政策、経営、主体、課題等を概観する。なお本科目は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域マネジメント論」「地域コミュニティ論」も併せて履修することが望ましい。</p> <p>【知識・技能】 地方自治の本旨，歴史，制度等について説明できる。</p> <p>【思考・判断】 地方自治の現状を理解し，問題点を指摘できる。</p> <p>【関心・意欲】 地方自治のあり方について討議できる。</p> <p>【技能・表現】 上記をとりまとめた文章を作成できる。</p> <p>【態度】 授業内容に対する質問を毎回提出できる。</p> <p>【その他】 公務員試験の受験の参考になると考えている。</p>		
授業の内容	<p>教科書に基づく講義をおこなう。その際、講師自身による自治体政策形成への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が自治体等に就職した時に役立つ実践的な情報も提供する。</p> <p>主な内容は以下のとおり（詳細はシラバス参照のこと）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の制度</li> <li>・地方自治の歴史</li> <li>・政策の課題と手段</li> <li>・自治体経営</li> <li>・住民参加と協働</li> <li>・地方自治の国際比較</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>授業態度（30点）と期末試験（70点）により評価する。</p> <p>期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室（試験室）内で、持ち込み可で実施する。</p>		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	<p>山田光矢・代田剛彦（2012）：『地方自治論』弘文堂，2,000円＋税</p> <p>西尾勝（2000）：『行政の活動』有斐閣，1,600円＋税</p>		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	<p>卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。</p>		



授業科目名	地域マネジメント論		
担当教員氏名	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス 1642研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	まちづくり，地方分権，市民活動，参加・協働，ガバナンス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業では，地域社会が持つ潜在力と内発的な力を組み立てることにより，身近な居住環境を改善し，まちの活力と魅力を高めようとする「まちづくり」の考え方や実践方法を教授する。なお本授業は，経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり，「地域政策論」「地域コミュニティ論」も併せて履修することを勧める。</p> <p>【知識・理解】まちづくりの定義，歴史，特徴等を説明できる。  【思考・判断】まちづくりの現状を理解し，問題点を指摘できる。  【関心・意欲】自らまちづくりに関わろうという意欲を持つようになる。  【技能・表現】上記をとりまとめた文章を作成できる。  【態度】授業内容に対する質問を毎回提出する。</p>		
授業の内容	<p>教科書『コンテンツと地域—映画・テレビ・アニメー』に基づく講義をおこなう。その際，講師自身によるまちづくり経験を踏まえ，卒業後に学生が実際にまちづくりに関わろうとする時に役立つ実践的な情報も提供する。</p> <p>主な内容は以下のとおり（詳細はシラバス参照のこと）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの定義，基本目標，方法</li> <li>・まちづくりの歴史</li> <li>・まちづくりの体制</li> <li>・まちづくりの合意形成のための支援技術</li> <li>・まちづくりの学び方</li> <li>・事例研究</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>授業態度（30点）と期末試験（70点）により評価する。</p> <p>期末試験は，指定された試験日の授業時間内に，指定された教室（試験室）内で，持ち込み可で実施する。</p>		
テキスト	原真志・山本健太・和田 崇編（2015）：『コンテンツと地域—映画・テレビ・アニメー』ナカニシヤ出版，2,600円＋税		
参考文献	<p>田村 明（1999）『まちづくりの実践』岩波書店，660円＋税  和田 崇編著（2005）：『創発まちづくり—動く・つながる・生まれる—』学芸出版社，2,100円＋税</p>		
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	<p>卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また，企業においても地域貢献の重要性が高まっており，本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回，自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また，受講上のルールについては，第1回授業にて詳細に指示します。</p>		

授業科目名	地域コミュニティ論		
担当教員氏名	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス 1642研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	村落，都市，コミュニケーション，町内会，文化，メディア		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業では、変化の中にある地域コミュニティの現実がいかなるものであるのか、それが抱えている問題はどのようなものであるのかを具体的に考察し、これからの地域コミュニティのあり方を展望する。なお本授業は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域マネジメント論」「地域政策論」も履修しておくことが望ましい。</p> <p>【知識・理解】 コミュニティの概念，歴史，特徴等を説明できる。  【思考・判断】 地域コミュニティの現状を理解し，問題点を指摘できる。  【関心・意欲】 地域コミュニティの一員であることを認識し，それへの参加意欲が高まる。  【技能・表現】 上記をとりまとめた文章を作成できる。  【態度】 授業内容に対する質問を毎回提出する。</p>		
授業の内容	<p>教科書とプリント（毎回配布）に基づく講義をおこなう。その際、講師自身によるコミュニティ振興への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が地域社会で暮らす時に役立つ実践的な情報も提供する。</p> <p>主な内容は以下のとおり（詳細はシラバス参照のこと）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティとは？</li> <li>・コミュニティの歴史</li> <li>・コミュニティ文化</li> <li>・コミュニティ再生</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>授業態度（30点）と期末試験（70点）により評価する。  期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室（試験室）内で、持ち込み可で実施する。</p>		
テキスト	<p>神谷浩夫・山本健太・和田 崇（2017）：『ライブパフォーマンスと地域一伝統・芸術・大衆文化一』ナカニシヤ出版，2600円＋税</p>		
参考文献	<p>山崎 亮（2011）：『コミュニティデザイン-人がつながるしくみをつくる』学芸出版社，1,800円＋税</p>		
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	<p>卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。</p>		

授業科目名	NPO論		
担当教員氏名	名波 彰子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	集中講義		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (公民) 選択		
キーワード	非営利, 非政府, グローバリゼーション, ガバナンス, New Public Management, 「小さな政府」, 市民社会, 組織論, 政策決定過程, 政治・社会環境, 政策提言 (アドボカシー)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業では, NPO・NGOについて, 歴史的考察, 理論研究や事例研究などを用いて, さまざまな角度から分析を行う。そして日本のみならず, 海外のNPO・NGOというテーマに取り組むことによって, 日本社会が現在の国際関係の中でどのような位置を占めているのか, どのようにこれから関係を構築していくべきなのかを考える契機となることを目指す。		
授業の内容	近年世界的に注目を集めている非営利・非政府組織 (NPO・NGO)。しかしその実態については意外なほど理解されていない。この授業では, 国際社会において活躍しているNPO・NGOについて考察しながら, 以下の問題について受講生とともに考えていく。 ①NPO・NGOとは何か。 ②なぜNPO・NGOに注目が集まるようになったのか。 ③理論的背景 ④政治システムとの関係 ⑤NPO・NGOは現代の国際社会においてどのような役割を果たし, どのような意義を有すると考えられるのか。 ⑥課題と展望		
成績評価の方法	リアクション・ペーパー 10% ディスカッションやグループワークへの貢献 40% 総括レポート 50%		
テキスト	授業の際にレジюмеを配布するので, テキストは使用しない。		
参考文献	受講の前に, 次にあげる文献のうち少なくとも一冊は読了しておくことが望ましい。 田尾雅夫・吉田忠彦著『非営利組織論』, 有斐閣, 2009年 西川潤・佐藤幸男編著『NPO/NGOと国際協力』, ミネルヴァ書房, 2002年 後房雄著『NPOは公共サービスを担えるか 次の10年への課題と戦略』, 法律文化社, 2009年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1) 他の受講生の迷惑になるため, 授業開始より10分後の入室は「欠席」とします。 2) 他の受講生の迷惑となる行為 (私語など) に対しては, 退室を含む措置をとる。 3) 総括レポートを提出しなかった場合には, 自動的にDか※となる。		

授業科目名	経済・社会データ分析		
担当教員氏名	柴田 浩喜（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業日程に従い、主に毎回配布する資料に基づき講義形式により授業を行うとともに、パソコンと統計解析ソフトを利用したデータ分析の実習を実施する。学生は授業に出席し、レポートを提出すること。試験は実施しない。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	統計的解析、差の検定、相関分析、回帰分析、パネルデータ分析、因子分析、クラスター分析、分割表		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>社会・経済が複雑化し、目まぐるしく変化する時代にあつて、ICT（情報通信技術）の急速な進歩はパソコン等のデータ処理能力や各種データの利用可能性を高め、経済、経営、地域社会等、社会科学が対象とする分野においても、コンピュータを利用した科学的なデータの処理・分析が一層重視されるようになってきている。</p> <p>本講義は、基礎的なデータ処理及び分析方法を理解し、コンピュータを用いた実践的な演習を行う。これらによって得られる知識は、企業の経営戦略、行政の地域計画等、あらゆるセクターにおける戦略・計画の策定・実施といった企画を担う人材に不可欠であるとともに、卒業論文の作成に当たって専門書の読解、仮説の検証等において必要とされる。</p>		
授業の内容	<p>社会の問題解決である行政政策は様々な事象の因果関係を明らかにし、政策が効果を発揮するメカニズムを明らかにすることが重要である。企業が取り組むマーケティングでは、消費者の多様性を理解し、効果的な販売戦略を実施することが求められる。また、企業や行政に関わらず、戦略や計画の策定のためには、シミュレーションを実施し、将来の姿を想定することが有効である。</p> <p>本講義では、理論的な説明に加え、上記の問題意識を基に、できるだけ多くの具体的な事例分析を取り上げる。例えば、プロサッカーチームの立地は地域の人々のつながりを強めるか、マーケティング的な手法を用いて大都市圏から地方への移住者を増やすにはどうすればよいか、消費拡大が期待される高齢者市場をどう捉えるか、大規模震災が発生したときの地域への経済被害はどれくらいと想定されるのか、少子・高齢化が進展する中で地方財政は持続的かなどである。これらの事例を利用しながら、統計分析の経験がない者でも理解を深められるよう、実際のデータと統計解析ソフトを利用した実習を行う。</p>		
成績評価の方法	レポート70%、出席点30%の割合で評価する。レポートは、試験前の授業で課題を説明し、期末試験内の指定された期日までに提出を行う。 遅刻者や授業態度の芳しくない者については減点を行う。		
テキスト	教科書の指定はない		
参考文献	参考書は講義の中で必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	レポート提出において、不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（県立広島大学履修規程）に基づいて対応する。		

授業科目名	現代社会学		
担当教員氏名	中島 満大		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	ジェンダー，コミュニケーション能力，差別，エスニシティ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では，社会学の方法と考え方の習得を目指す。そして受講者が社会学の方法を用い，事例の考察ができるようになることを目標とする。社会学や地域課題研究と合わせて履修することで理解が含まると思う。		
授業の内容	本講義は，社会学の方法や考え方について，学校，就職活動，仕事，差別，エスニシティ，逸脱などの具体的なトピックを通して学んでいく。自分たちにとって身近な問題から社会を考えると同時に，自分とは遠いところにあると感じていた問題と自分たちとの関係について考えていく。		
成績評価の方法	コメントカードと講義への参加度に基づく平常点（30%），課題（30%），レポート（40%）によって成績評価を行う。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	講義中に適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	社会学に関心がある者はぜひ受講してほしい。他の学問との考え方の違いや共通性を見出してほしい。		

授業科目名	社会調査論		
担当教員氏名	中島 満大		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	社会調査，リサーチ・デザイン，アンケート調査，インタビュー調査，フィールドワーク		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では，社会調査の基本を学んでいく。したがって，学生が自ら社会調査の第一歩を踏み出すことを最終的な目標とする。経営学，社会学，経済学などの領域で行われている調査やデータと結びつけながら，本講義を受講してほしい。		
授業の内容	卒業論文などの研究計画の立て方や社会調査の方法について講義する。まずリサーチ・デザインについて，問いや仮説といった要素から説明していく。次にアンケート調査における質問票の作成，配布，データ入力，分析などの一連の過程を作業を行いながら，身につけていく。続いては質的な方法，たとえば，インタビュー，参与観察，ドキュメント分析などについて，事例を交えながら，また実際に体験しながら，それぞれの調査法の特徴をつかんでいく。		
成績評価の方法	講義への参加やコメントカードによる平常点（30%），小さな課題（30%），研究計画書（40%）の合計によって評価する。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣（2004年），玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社（2008年），佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]・[下]』東京大学出版会（2015年）など		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	「卒業論文の準備をどのように始めればいいのか分からない」「論文ってどうやって書けばよいか分からない」という人はぜひ受講してほしい。		

授業科目名	地域社会学		
担当教員氏名	中島 満大		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	地域社会，少子高齢化，人口減少社会，地方都市		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では，地域社会における現状を捉えるための基本的なフレームワークを提供する。講義で紹介したフレームワークを使って，地域の課題を明確にすることを目標とする。社会学や社会調査論と合わせて履修することで，理解が深まる側面がある。		
授業の内容	本講義では，第一に少子高齢化社会と人口減少社会に関する人口学的アプローチを紹介する。それをもとに現代日本の人口学的前提を抑えていく。その後，極点社会や地方消滅論を検討していく。第二に貧困や地域における居場所の問題を取り上げる。その際には子ども食堂を例として考えていく。最後に現在の地域社会をめぐる議論の中から，若者の「地元」志向とモータリ化する地域社会という題材を取り上げ，今後の地域社会を展望していく。		
成績評価の方法	コメントカードと講義への参加度に基づく平常点（50%），レポート（50%）によって成績評価を行う。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	鳥越皓之『家と村の社会学 増補版』世界思想社（1993年），森岡清志編『地域の社会学』有斐閣（2008年）など		
備考 （履修上のアドバイス・禁止行為等）	受講者が住んでいる（あるいは住んでいた）「地域」や「地元」を念頭に置きながら，それぞれの場所でどのような課題があるのかを考えながら，講義を受けてほしい。レポートの課題も受講者の「地域」に関するものになる予定である。		

授業科目名	産業組織論		
担当教員氏名	前田 純一 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。2回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択		
キーワード	消費行動の分析, 生産行動の分析, 完全競争市場, 余剰分析, 独占市場, 寡占市場, 規制緩和, 競争政策		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	産業組織論は、ミクロ経済学を企業間の相互依存関係の分析、および、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析に応用する学問分野である。そのため、本講義の目標は、第1は基本的なミクロ経済学の知識を理解・修得することであり、第2は、それらの知識を用いて、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析を行うことである。		
授業の内容	ミクロ経済学の基礎的な知識、および、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析について講義を行う。講義では、まず基本的なミクロ経済学の知識について解説・学修を行っていく。そして、それらの知識を基にして、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析を行っていく。		
成績評価の方法	期末試験100%で評価する。試験は指定された教室内で持ち込みすべて可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	前田純一著『経済分析入門Ⅰ』晃洋書房, 2011。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。また、試験においては、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。</li> <li>・テキストは第1回目に間に合うように入手しておくこと。</li> </ul>		



授業科目名	地域経済論		
担当教員氏名	柴田 浩喜 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業日程に従い、主に毎回配布する資料に基づき、講義形式により授業を行う。学生は授業に出席し、試験を受けること。宿題・レポートの提出はない。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (公民) 選択		
キーワード	産業構造, 経済成長, 経済構造分析, 経済的持続性, 経済的自立性, 経済格差, 産業連関表, 経済循環, 内生的成長, 産業振興, 地域活性化, 産業集積, 都市集積, 地方財政		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地球環境問題の深刻化, 経済のグローバル化の進展, 人口減少・高齢化など, 世界そしてわが国が現在直面する問題に対しては, 国による画一的政策の有効性が低下し, 地域による主体的な取組が不可欠になっている。地域の産業振興策や活性化策は, 地域活力の向上に加えて, 国レベルの問題解決に重要な役割を持つようになっているが, 地域は各々特性を持つため, 産業政策にも分権化が強く求められるようになるであろう。本講義は, 地域の経済構造や経済成長等を説明する理論及び地域経済を対象とした実証分析の手法を理解することを目標とする。これらの地域経済に関わる理論・分析手法の習得は, 地域活性化の意志を持ち, これからの地域経営を担おうとする人材に必要な要件である。		
授業の内容	地方ブロック, 都道府県, 市町村や都市圏等を対象に, 地域の生産構造, 需要構造を分析することによって, 人々の暮らしを支える基幹産業は何か, 産業の獲得所得で地域の必要支出を賄っているかといった地域経済の基本構造を把握する理論・分析手法を学ぶ。また, 地域産業連関表を利用して, 地域の経済的な循環構造を分析する手法を理解する。一方, 地域経済の成長と地域間格差の発生に対しては, 産業構造の変化, 需要構造の変化, そして供給要因の変化という3つのアプローチから理解を行う。授業では, 机上の理論だけではなく具体的な地域を対象に実証分析を行い, 地域経済の特性把握, 問題の構造化や的確な課題設定に必要なデータ利用について学ぶとともに, 産業振興や地域活性化の方策の具体的事例を取り上げ, その狙いや有効性等について検討を加える。		
成績評価の方法	期末試験70%, 出席点30%の割合で評価する。試験は指定された教室 (試験室) 内で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。試験前の授業で, 試験問題のポイントを説明する。試験のポイントに対して, 毎回の講義と配布された資料, 参考書により準備を行い, 試験時間内に持ち込み不可で回答する形式とする。遅刻者や授業態度の芳しくない者については減点を行う。		
テキスト	教科書の指定はない		
参考文献	黒田達郎・田淵隆俊・中村良平「都市と地域の経済学 (新版)」有斐閣ブックス, 2008年。 フィリップ・マッカン「都市・地域の経済学」日本評論社, 2008年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。		

授業科目名	公共経済学		
担当教員氏名	片桐 昭司		
研究室の場所	広島キャンパス 1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください		
授業の形式・方式	対面形式の授業です。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	政府、公共財、消費者余剰、生産者余剰、独占・寡占、市場の失敗、費用便益		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義はミクロ経済学（理論経済学入門）が基礎となっています。この講義では、政府が市場経済に介入する必然性やその限界を理論的に解明し、経済政策がどのような方法で導入されるのかを修得することを目的にします。この講義を通じて経営戦略を立てる際の政府行動に関する基礎知識を提供します。		
授業の内容	基本的には、公共部門の行動が経済に及ぼす影響を学び、制度的な要素が重要な役割を果たしていることを体系的に修得します。具体的には、政府のような公共部門の定義およびその存在意義を確認し、政府が提供する財（公共財）と私的財の区別を、取引費用などの観点から分析し、政府が公共財をどの程度供給すればよいのか等を講義します。また、環境問題に関連する外部経済・不経済に対する公共部門の関わり合い（規制・補助など）や、政府支出政策の評価方法の一つである費用・便益分析を通して、公共投資の是非、消費税（課税）についても講義します。		
成績評価の方法	期末試験で評価します。		
テキスト	奥野信宏『公共経済学』岩波書店		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修を希望する学生は「理論経済学入門」を履修していることが望ましいです。		

授業科目名	経済政策		
担当教員氏名	片桐 昭司		
研究室の場所	広島キャンパス 1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください		
授業の形式・方式	対面形式の授業です。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	政府、財政政策、公共投資、金融政策、景気、失業、GDP		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義は、経済政策を理論的・実証的に修得し、経済政策を通じて、経済政策と経営（企業）との関係を理解することを目的とします。授業の前半では経済政策の目的や国内総生産（GDP）・国際収支の概念を、中盤では、マクロ経済学の理論的基礎のIS曲線（財市場の均衡）とLM曲線（貨幣市場の均衡）を講義し、これらの理論の基にした財政政策と金融政策を理解します。終盤では、財市場、金融市場および労働市場を取り組んだシステムの基、財政・金融政策および雇用対策の仕方などを理解します。		
授業の内容	基本的には、政府が経済政策を行う際の理論的なベースを中心に講義をしますが、適宜、新聞・雑誌などを引用し、本講義をもとにして、現実の経済政策を具体的に解説します。なお、講義の内容は以下の通りです。1)国民所得とその概念、2)国際収支、3)均衡国民所得、4)乗数理論、5)IS曲線の導出(1)、6)IS曲線の導出(2)、7)貨幣と貨幣乗数、8)LM曲線の導出(1)、9)LM曲線の導出(2)、10)IS-LM分析による経済分析（財政・金融政策）、11)AD曲線の導出、12)AS曲線の導出、13)AS曲線の導出、14)AD-AS分析による経済政策（財政・金融政策）、15)AD-AS分析による経済政策（失業対策）		
成績評価の方法	期末試験で成績を評価します。		
テキスト	駄田井正・大住圭介他編『現代マクロ経済学』勁草書房		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	地方公務員および国家公務員を希望する学生は必修の教科です。		

授業科目名	経済発展論		
担当教員氏名	片桐 昭司		
研究室の場所	広島キャンパス 1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください		
授業の形式・方式	対面形式の授業で、パワーポイントを用いて講義します。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択		
キーワード	経済成長、経済発展、地球環境問題、企業の社会的役割、途上国、不平等、工業化、農業、工業、サービス、ODA（政府開発援助）		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では、経済がどのようなプロセスを経て発展するのかを、歴史的な過程（実証面）と理論から理解することを目標にしています。さらに、経済発展が低い状況にある発展途上国の現状を理解することによって、それら諸国に対する先進国の役割を明確にし、さらに、地球的規模の問題を考えると、なぜ発展途上国の経済発展が重要であるのかを、理論的・実証的に修得することになります。このことは、地球的規模で展開する日本の企業も、いまや発展途上国のことを理解することなく事業を展開することが困難になっていることを学び取ることに繋がります。		
授業の内容	まず講義の前半では、経済発展と何か、そして経済発展を測定する指標について講義します。次に、経済発展の歴史的・経済的・形成過程を認識し先進国の発展過程をもとに、農業および工業部門を分析し、その相互の関わり合い（二重経済）を考察します。さらに、経済発展の理論的ベースである代表的な経済成長論をわかりやすく講義し、経済発展と関連する最近のトピックとして、アジア経済、発展途上国とODA（政府開発援助）、および環境問題を取り上げます。最後の講義では、経済発展に関するスライドを上映して、本講義をまとめることにします。なお、講義の内容は以下の通りです。□経済発展とは何か、2) 1人当たりの国民所得と経済発展（その1）、3) 1人当たりの国民所得と経済発展（その2）、4) 発展途上国の歴史的・経済的・形成過程、5) 二重経済論、6) 成長率と成長要因、7) 経済成長論（基礎編）、8) 経済成長論（ソローモデル）、9) 経済成長論（ハロッド＝ドーマーモデル）、10) 経済成長論（内生的成長モデル）、11) 経済発展の現状（90年代のアジア経済）、12) 工業化、13) 経済発展するためには（ODAの意味）、14) 経済発展と環境問題、15) 日本と発展途上国（スライド上映）		
成績評価の方法	期末試験で評価します。		
テキスト	大住圭介他編『経済成長と動学』勁草書房。また必要な資料は随時講義中に配布します。		
参考文献			
備考（履修上のアドバイス・禁止行為等）	地方公務員及び国家公務員を希望する学生は履修していることが望ましい授業（特に経済成長論）です。新聞、雑誌、テレビなどで発展途上国が報道される際には、日本の企業と途上国がどのような関係にあるのかを考えながら、読み・見てください。また、海外旅行に行くときも、このような観点で現地を見れば、また違った見方ができるとおもいます。		

授業科目名	民法 I		
担当教員氏名	岩元 裕介 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講師作成のレジュメを配布し、講義形式で実施する。講義中は、初歩的・基本的事項を中心に、適宜、質疑応答を行うが、発言を強制的に求めるような指名は行わない(発言は任意)。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択		
キーワード	民法総則, 物権法, 担保物権法。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	民法は、市民生活と最も密接な関わりを有する一般法である。本講義では、この民法のうち、財産法と呼ばれる分野の前半部に当たる総則、物権法及び担保物権法を扱う。本講義を通じて、民法についての基本的知識・理解を身に付け、法を解釈・適用することにより具体的場面において適切に問題解決することができる能力(リーガルマインド)を涵養することを目標とする。		
授業の内容	本講義は、大きく4つのパートに分けて進行する。第1パートは、法学初心者を念頭においた法学入門である。法学に対する入門的理解を得るとともに、法体系における民法の位置付け及び民法の体系についても学ぶ。第2パートは、民法総則である。民法における基本概念について、それらが実際に問題となる具体的場面を意識できるよう適宜判例を交えながら、解説する。第3パートは、物権法である。所有権や占有権等の物権についての基本的理解を身に付けるとともに、具体的紛争場面における解決法を学ぶ。第4パートは、担保物権法である。抵当権や質権等の担保物権についての基本的理解を身に付けるとともに、典型的紛争場面を念頭に、具体的解釈・適用を学ぶ。日々の弁護士業務を通じて頻繁に接する典型事例やその解決法を適宜紹介し、民法が実生活と直結していることを実感してもらうとともに、自己及び近親者の権利を最低限防衛するスキルを身に付けてもらいたい。		
成績評価の方法	期末試験による評価を基本に、講義中の質疑・応答における発言点を加味して最終評価とする。あくまで期末試験による評価が基本であるため、評価対象としての期末試験への配点は100点とする。発言点は、期末試験での得点(素点)に加点する形で最終的な評価点に組み入れられるが、その加点割合は小さく、期末試験での得点をメインとする。		
テキスト	毎回講師作成のレジュメを配布するため、格別、テキスト等を購入する必要はない。但し、ポケット六法(有斐閣)等で構わないので、最低限民法の掲載されている六法は必携とする。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回の講義には、六法を持参されたい。		

授業科目名	経営法務		
担当教員氏名	松原 正至 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業で行う。各講義に際してレジュメを配布し、授業時間2時間と学生の復習4時間を想定した授業を行う。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象。「民法」を履修していることが望ましい。		
免許等指定科目	高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)		
キーワード	商法, 会社法, 金融商品取引法, 株式, 社債, ファイナンス, ビジネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ビジネスをとりまく法, とりわけ商法と会社法について, 一通りの理解ができるように講義を進める。また, 理解の到達度を確認する作業として, 日本経済新聞を毎回の講義にて用いる。		
授業の内容	商法総則・商行為法および会社法の分野について, それぞれ1回毎にテーマを設定して解説する。商法総則・商行為法の分野については, 商法という法律そのものの紹介から, 企業のブランド, 人的価値, 営業組織, 取引法, (特に国内売買)について述べる。また, 会社法分野については, 会社の意義と種類, 株式・機関・資金調達等について解説する。		
成績評価の方法	出席点とレポートにて評価する。		
テキスト	レジュメを配布する。また, 携帯用の六法を購入しておくことが望ましい。		
参考文献	『日経 業界地図 2017年版』日本経済新聞社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ビジネス英語		
担当教員氏名	スティーブン・ルイス・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー	to be announced		
授業の形式・方式	Mainly listening and speaking with presentations		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Business English		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	To provide students with basic English communication skills to help communicate in the global market place		
授業の内容	The course will use a wide variety of materials which emphasize building the vocabulary and English expressions needed for today's business world.		
成績評価の方法	Business presentations (using Powerpoint)- 25%, attendance- 30%, short report- 20%, final exam- 25%		
テキスト	Materials will be provided by the teacher in class or from the website for free		
参考文献	to be announced in class		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Students will need internet access and need to be able to do research about companies on the internet in English. The teacher will recommend various internet resources for business research in English.		

授業科目名	経営学特別講義 I		
担当教員氏名	足立, 塚原, 中島, 片桐, 村上, 橋上		
研究室の場所	1724		
オフィスアワー	面談はメールにて要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって配付資料, パワーポイント等を使用して講義形式で行う。本授業は広島所在の金融機関による『特別講義』として実施する。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生)		
キーワード	地域金融, CSR (企業の社会的責任), コンプライアンス, 金融商品販売法, 消費者保護, 投資銀行業務, 証券仲介業務, リスク管理, 資産運用, 年金, 投資信託		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業の目標は, 金融ビッグバン後の新しい金融システムの下での金融機関の機能と役割, ならびに金融分野における最新の知識を習得することにより, 金融・ファイナンスへの関心を高め, その必要性を理解することにある。</p> <p>本授業の特徴は, 広島所在の様々な金融機関から金融の最前線で活躍する方々を講師としてお招きして授業を行うことにある。</p>		
授業の内容	「金融新時代における地域金融機関の役割」をテーマとし, 広島所在の様々な金融機関から金融の最前線で活躍する方々を講師として迎えてオムニバス方式で授業を進める。具体的な金融機関名, 講師名, 各回のテーマについては, 決定し次第連絡する。		
成績評価の方法	成績は授業参加度とレポートで評価する。 レポート提出の要領については, 講義期間中に指示する。		
テキスト	使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修予定者はこのコースカタログをよく読んで履修選択し, 授業に望むこと。</li> <li>・授業の具体的な進め方については, 開講時に案内する。</li> <li>・授業中の飲食, 携帯電話の使用, 雑談, 居眠りは厳禁する。</li> </ul>		



授業科目名	経営学特別講義Ⅱ		
担当教員氏名	五百竹宏明, 平野実, 小原久美子, 朴唯新, 和田崇, 栗島浩二		
研究室の場所	1642		
オフィスアワー	随時 (メール, 電話などで事前に予約をすること)		
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に従い, 講義形式で実施する。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)		
キーワード	広島, 企業, NPO, 経営者・管理者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>産学連携の一環として, 広島を地盤に事業展開を行う企業, NPO等の経営者をお招きして授業を行う。経営の第一線で活躍する方々の講義により企業経営の現場を理解する。</p> <p>【知識・理解】 広島企業等の経営戦略, 特に地域との関わりを説明できる。</p> <p>【思考・判断】 広島企業等の経営実態を理解し, 課題等を指摘できる。</p> <p>【関心・意欲】 広島企業等に対する関心を深め, 地方企業の経営戦略について討議できる。</p> <p>【技能・表現】 上記についての的確にとりまとめた文章 (レポート) を作成できる。</p> <p>【態度】 授業内容に対する質問・感想を積極的に発表できる。</p>		
授業の内容	<p>広島を地盤にして, さまざまな分野で事業活動を展開する企業経営者・NPO等の管理者を講師として迎え, オムニバス形式で授業を進める。具体的な企業名, 講師名は決定次第連絡する。</p>		
成績評価の方法	出席 (60%) および期末レポート (40%) で総合的に評価する。		
テキスト	なし		
参考文献	<p>渡辺昌彦 (2009) : 『広島のものづくり企業一次世代へのメッセージ』 溪水社, 1800円+税</p> <p>渡辺昌彦・村山秀次郎 (2014) : 『広島のものづくり先進企業2』 溪水社, 800円+税</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>講義中の飲食, 携帯電話の使用, 私語雑談, 居眠りは厳禁する (詳細は第1回に指示)。</p> <p>講義の最終回に期末レポートを提出してもらう。</p>		

授業科目名	経営情報学特別講義 I		
担当教員氏名	志多木 義浩 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、個別製作のテキストによる講義形式で実施する。毎週学習テーマに関する問題提起を行い討議を重視した授業をおこなう。同時に、学生個人の授業参加態度を評価する。		
単位数 (時間数)	1	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	I T, インターネット, ネットワーク, ERP, SCM, CRM, 情報セキュリティ, データベース, コンサルティング, プロジェクトマネジメント, 内部統制, 戦略的情報化, I T経営, クラウド, 個人情報保護		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に企業や組織の第一線活動に接触する機会を拡大する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や組織の中で実際に活動している専門家を活用した実践的なマインドを要請する。</li> </ul> </li> <li>2. 最新の I T ノウハウの習得に当たっては、実習及び演習を中心とし、実践力と行動力を身に付けることをねらう。</li> <li>3. 学生に向学動機づけを図る。産業界が実践的人材を求めていることに鑑み、各種資格の取得を奨励・支援し、地域産業界への就業対応力の強化を図る。</li> </ol>		
授業の内容	<p>企業の戦略的情報化や業務知識, 開発事例や最新のシステム化動向について論ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報システム開発に関する現実の話題を提供する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発手法, プロジェクトマネジメントなど</li> </ul> </li> <li>2. 戦略的情報化 (I T Cプロセス) に関する実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略立案実習, 業務プロセス分析の実習など</li> </ul> </li> </ol>		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席及び授業態度 (配点: 40%)</li> <li>2. 小論文 (配点: 60%)</li> </ol>		
テキスト	テキストは、個別に製作し授業の都度配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示及び学生に対する授業内での連絡によって行う。さらに、メーリングリストによる学生への連絡も随時行う。		

授業科目名 **経営情報学実践実習**  
担当教員氏名 栗島 浩二, 重丸 伸二  
研究室の場所 広島キャンパス 1649研究室  
オフィスアワー

授業の形式・方式

単位数 (時間数) 2 学科または専攻毎の必修・選択の別 選択

履修要件

免許等指定科目

キーワード

授業の目標と  
カリキュラム上の位置付け

授業の内容

成績評価の方法 事前学習および事後学習における課題, 授業

テキスト

参考文献

備 考  
(履修上のアドバイス・  
禁止行為等)

授業科目名	プロジェクト研究		
担当教員氏名	栗島 浩二		
研究室の場所	広島キャンパス1648研究室		
オフィスアワー	メールでのアポイントにより適時		
授業の形式・方式	この授業は、少人数対面講義・グループ研究・プレゼンテーションによって行われます。参加する受講生が自主的にテーマを決めて、1年間研究と報告を重ねていきます。最終的には1月に研究報告書を作成します。課題に応じて、取材等の課外活動や講義時間外の研究調査が必要となります。アクティブラーニングの対象科目です。		
単位数（時間数）	2	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営学, マーケティング, 経営戦略, 組織, 株式市場, ベンチャービジネス, 業界研究, 企業研究, スポーツマネジメント, 広告宣伝 等		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「プロジェクト研究」は、学生が自主的に取り組む研究に対して「場」を提供する講義です。研究とは、一つのテーマに対して自分で調べて自分で仮説を立て、自分で方法を探し、自分で検証し、自分で解を探求する活動です。したがって、本講義の履修を希望する学生はあらかじめ何らかの問題意識や研究領域に対する強い関心をもっていることが前提となります。講義で学んだ理論を実際の企業活動のなかで検証してみることや、自らが進んで一つの領域を探求してみingことを目指しています。本講義を通じて、ゼミが始まる3年次より早い段階で研究というものに理解を深め、自分で調べ、考え、探求する楽しみをみつけてもらいたいと思います。		
授業の内容	1、自由にテーマを設定する 2、近いテーマごとに3名～5名程度のグループに分かれて研究を行う 3、調べる方法や詳細テーマに応じて、個人別の担当、役割分担を決める 4、研究計画書の作成（スケジューリング、調査方法、仮説）5、月に一度報告会を行う6、夏休み明け中間報告会（プレゼンテーション）7、12月～1月 最終報告の準備 8、最終研究報告書作成※これまでに受講生が取り上げた研究テーマ・株価や為替の変動に関する研究、・ジャニーズによるエンターテインメント・マーケティング、・広島駅前再開発、・ネットビジネスに関する研究、・化粧品のブランドコンセプト、・広告キャッチコピー、・ゆるキャラに関する研究、・スポーツマーケティングに関する研究、週刊ジャンプのマーケティング戦略、広島県の観光資源魅力再提案、等。		
成績評価の方法	出席（全講義数1年間で15回）および中間報告：毎月行う研究報告会を評価します（配点50点） 最終研究報告書の評価（配点50点）		
テキスト	研究に必要な文献や資料はできるだけ大学で用意できるものを使いますが、必要に応じて書籍等を各人で購入してもらうことがあります。		
参考文献	特になし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	グループ研究や中間報告をまとめる必要があり、講義時間以外にも自主的な研究時間が必要です。希望者は必ず初回講義ガイダンスに出席してください。また、どのようなテーマで研究を行いたいのか、簡単に説明できる状態で参加してください。友達同士と一緒に参加しても結構です。1つのテーマをいろいろな角度から検証し、研究する楽しみを味わってください。最終報告書は簡易製本して受け取ることができます。通年科目ですが、15回で完了します。キャップ制では後期の科目として2単位がカウントされます。		

授業科目名	情報学入門		
担当教員氏名	岡部 正幸		
研究室の場所	広島キャンパス 1567研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。配布資料に沿って講義を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択。 ただし、平成26年度以前に 入学した経営情報学科の学生は必修
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	ビット，ハードウェア，ソフトウェア，アルゴリズム，インターネット		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	情報学は，コンピュータを活用して社会を科学的に分析する，または社会に役立つ便利なものを作り出すための学問といえ，関係する分野は多岐にわたる。この科目では，情報学を学んでいく上で最低限必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識の習得を目標とする。 この科目は，経営情報学部における学部共通科目に位置付けられている。		
授業の内容	情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて，ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また，情報システムの開発プロセス，ネットワークとセキュリティ，情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。		
成績評価の方法	期末試験50%，課題レポート50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著 『情報科学の基礎 改訂版』実教出版，2010 その他，必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営史		
担当教員氏名	山内 昌斗（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、テキストの内容を中心に、講義形式で授業を実施する。1回の講義につき1つのテーマに関する講義を想定し、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前の入学生対象）		
キーワード	経営学概論、経営戦略論、経営管理論、人的資源管理論、ビジネスモデル論、組織文化論、グローバル経営論、イノベーション論、組織行動論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、経営史の初学者を対象にして、企業の生成・発展、衰退あるいは再生の歴史を当時の各国の政治、経済、社会などと関連づけて説明する。本科目の目標は、企業経営に関する歴史と分析概念、基礎的内容を理解させることである。これによって、経営学の専門歴内容を理解するための素地を身につけることができる。本科目は、経営学科の専門科目・経営戦略マーケティング分野に区分されている。一方、経営情報学科カリキュラムには、自由選択科目に区分されている。		
授業の内容	イギリス、アメリカ、日本を中心に、企業経営の生成・発展、衰退、再生の歴史を、事例研究の成果を活用しながら説明していく。具体的には、産業革命期における近代企業の成立にはじまり、大衆消費社会の出現と大量生産体制の確立、ビッグビジネスの発展、事業部制の確立と分権的体制への移行といった一連の経営的事象を概観する。さらには、個々の企業の事例のなかから、経営者が何を考えどのように行動したのかという、意思決定の領域に関する説明を加えていく。歴史的な視点から、企業経営の内容と主要な論点についての理解を深めさせる。		
成績評価の方法	期末試験70%，平常点（授業への参加度）30%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。期末試験では、主に授業内容の中から問題を作成し試問する。		
テキスト	鈴木良隆，武田晴人，大東英祐(2004)『ビジネスの歴史』有斐閣		
参考文献	F・アマトリー，A・コリー(2014)『ビジネス・ヒストリー：グローバル企業誕生への道程』ミネルヴァ書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、シラバスに記載されている「準備学習」の内容に従い、次回の授業までに予習すること。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	ビジネスプラン作成		
担当教員氏名	矢澤 利弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1641研究室		
オフィスアワー	可能な限り随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントを取ってください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書をベースに講義を行う。また、この授業では、講義だけではなく、受講生同士によるグループワークあるいは個人ベースによるビジネスプランの作成演習とプレゼンテーションを実施する。受講生は、授業時間内でプレゼンテーションを行うとともに、期末には各学生が個別に作成する事業計画書を提出することが求められる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	アントレプレナーシップ，事業計画書，事業構想，イノベーション，ベンチャー企業，ビジネスモデル，市場調査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の目的は各自が作成したビジネスアイデアをブラッシュアップし、実際に市場競争に耐えうるような事業として成立する事業計画に練り上げることである。具体的には、①各学生が持っているビジネスアイデアについて、その事業化が可能かを調査し、事業立案から会社設立、成長軌道に乗るまでの5年間の事業計画を策定することによって、各自の夢をカタチにするための道すじを描くことが本講義の目的となる。		
授業の内容	本講義は講義のみならず、グループワークを中心とする演習を重視する。本講義の中心はアイデアを実現させるためのビジネスプランの策定であり、ワークショップ形式を中心に授業を進める。具体的には、ビジネスアイデアをどのように事業化するのにかについて、受講生各自（あるいはグループ）が実現可能な収益モデルを策定し、発表、評価を受けるという実践的な内容となる。受講生はそれぞれ自分が起業すると仮定したうえで、段階を踏んで自らの①事業コンセプトの決定、②ビジネスモデルの策定、③5年間の成長計画の作成を行う。受講生は講義時間内にそれをプレゼンテーションし、講評を受ける。最終的には受講生各々が自分のアイデアを実現させるために必要な事業計画書を完成させることになる。		
成績評価の方法	ビジネスプランレポート：40% プレゼンテーション：40% 授業への取り組み状況：20% この科目で単位を取得するためには、提出するレポートと授業時間内でのプレゼンテーションの両方で合格することが必要です。どちらかが欠けた場合は単位を付与しません。 なお、学期末試験は実施しません。		
テキスト	グロービス経営大学院『新版グロービスMBAビジネスプラン』ダイヤモンド社		
参考文献	日本公認会計士協会東京会編『起業家・ベンチャー企業支援の実務』ぎょうせい、2011年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義はグループワークを多用するため、授業は欠席をしないこと。欠席すると、他のメンバーに迷惑がかかることを念頭において受講する。 日頃から新聞記事やビジネス雑誌、インターネット上のビジネス情報などに触れることによって、ビジネスの最新動向に関する情報収集を行うように心がけること。ビジネスプランの作成やプレゼンテーションの準備は各自、授業時間外に行う必要があるため、相応の自習時間を要する。		

授業科目名	外国書講読 (平野)		
担当教員氏名	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646研究室		
オフィスアワー	随時 (メールで事前に予約をすること)		
授業の形式・方式	授業では、英文テキストの輪読、プレゼンテーションを行う。受講者の課題発表や発表に対する積極的な発言および授業への参加を期待する。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Management, Marketing, Finance, Organizational Behavior, Strategy, Business Ethics, Globalization		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の目標は、英文テキストの輪読やプレゼンテーションを行うことにより、経営学の基礎的な概念や知識を英語で理解し、これらの概念や知識を活用し、多様な経営現象に関して論理的に考え、発表する能力・スキルを修得することである。		
授業の内容	英文テキスト『Introduction to MBA English (英語で学ぶ経営学の基礎)』の各自の担当箇所を、輪読しプレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法	出席、授業態度、授業への参加度および課題発表を総合的に評価する。		
テキスト	塩川春彦『Introduction to MBA English (英語で学ぶ経営学の基礎)』マクミラン ランゲージハウス、2006		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者は、テキストを購入し事前に精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また、講義中の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用(携帯電話、スマートフォンは、かばん等にしまっておくこと)、私語雑談、居眠り、内職、帽子の着用、途中退室は厳禁する。		



授業科目名	外国書講読 (矢澤)		
担当教員氏名	矢澤 利弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1641研究室		
オフィスアワー	可能な限り随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントを取ってください。		
授業の形式・方式	対面授業。講義日程に従い、配布したレジュメを読み進めていく。レジュメは事前に配布するので、受講生は各自予習のうえ、授業に臨むことになる。講義では、教員が学生をランダムに指名するので、学生は指定した箇所を日本語に訳したうえで説明する。本講義は語学力の向上だけを目的としたものではなく、英語で経営学を学ぶことを目的としているので、英語の文献に書かれている内容面の理解も重視した講義を展開する予定である。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語、外国語、経営学、エンターテインメント産業、プロジェクトマネジメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業は外国語(英語)の文献を読むことを通じて、外国語の読解能力を向上させると同時に、海外文献を使用した研究能力を習得することを目的としている。具体的には、英語で書かれた文献から必要な情報を読み取り、それを論文などに活用できるようになることが本授業の目的である。		
授業の内容	本講義では英文で書かれた新聞記事やエンターテインメント産業を中心とする経営学関連の文献を読解していく。教材は事前に配布するので、受講生は各自、配布資料に目を通し、十分な予習を行って授業に臨むことになる。読み進める文献は近時のニューストピックスを中心にショービジネスや映画、音楽業界についての経営学の専門書から抜粋した資料で構成する。		
成績評価の方法	授業内での質疑応答40%、期末試験60%の割合で評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義は外国語の文献を用いて、その内容を理解することが主要な目的であるため、受け身の姿勢ではなく、積極的に授業の準備を行い、授業時間中に発言するための取り組みが必要となる。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	外国書講読 (五百竹)		
担当教員氏名	五百竹宏明		
研究室の場所	1726研究室		
オフィスアワー	随時 (メールでアポイントをとること)		
授業の形式・方式	受講生で輪読するかたちで行う。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	Financial Statements, Accounting Information Analysis,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	米国の大学の会計学入門コースで最も多く利用されているテキストを講読する。 1,2年次に勉強した簿記・会計を「英語」で学び直すことにより、知識が整理されるとともに、 経営に関する専門用語 (英語) の意味を正確に身につけることができる。 この授業を履修することにより、英語で書かれた企業のAnnual Reportを親しみをもって読める ようになる。		
授業の内容	米国の大学の会計学入門コースで最も多く利用されているテキストであるCore Concepts of Accountingを受講生で輪読する。		
成績評価の方法	出席40% 学期末試験60%		
テキスト	Breitner L.K. and R.N.Anthony, Core Concepts of Accounting, Pearson(2013)		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	外国書講読 (村上)		
担当教員氏名	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業はテキストと事前に配布する英文資料の輪読ならびにその内容の討議形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。学生は授業での発表と討議への参加、授業中に課すレポートの提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語文献, 英文読解, Management, Marketing, Accounting, Economics, Corporate Finance, Strategy		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業の目標は、経済や金融、経営、会計・財務に関する内容を取り扱った英文テキストや英文論文、英字新聞・英文雑誌等の輪読を通じて、(1)ビジネス用語やファイナンス用語を含む英文の読解能力の向上を図ること、(2)ビジネス・リーダーとして活躍する上で必要となる「経済・金融」、「経営」、「会計・財務」に関する知識を深めること、の2点である。英語「を」学ぶことではなく、英語「で」学ぶことが主たる目的である。</p> <p>本科目は経営学科の経営学外国語に区分されている。経営学科の学科専門科目を幅広く履修しておくことで、本授業の理解が深まると考えられる。</p>		
授業の内容	<p>経営学に関する以下のテーマについて英語で学習する。  (1)Management, (2)Operations, (3)Marketing Mix and Advertising, (4)Marketing Research and Marketing Analysis, (5)Accounting, (6)Economics, (7)Corporate Finance, (8)Organizational Behavior and Psychology, (9)Strategy, (10)Business Ethics, (11)Communication in Business, (12)Globalization.  また、経済問題や企業経営に関する記事や論文を読み、経済界等で話題になっているトピックスについて学ぶ。</p>		
成績評価の方法	授業での発表と討議への参加度70%、期末に課すレポート30%の割合で評価する。		
テキスト	HARUHIKO SHIOKAWA(2006), "Introduction to MBA English", MACMILLAN LANGUAGEHOUSE		
参考文献	授業中に適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者はテキストや事前に配布する資料を精読した上で授業に臨むこと。</li> <li>・2年次までに履修した経営学科専門科目を復習しておくこと。</li> </ul>		

授業科目名	経済学概論		
担当教員氏名	式部 信		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業・講義形式		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	高一種免（公民）選択必修		
キーワード	社会科学・実在性・経済構造・資本主義		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は経済や社会の仕組みに関する基本的な知識を学ぶための科目である。		
授業の内容	この科目では現代の経済がどのような仕組みで動いているかを知るために必要な基礎的知識を学ぶ。最初に、経済全体の仕組みをつかまえるための基本的な概念を理解する。その上で、経済の動きを把握するためにつくられた簡単な理論やモデルを用いて現代経済の基本的な特徴と構造を理解する。それとともに、経済や社会を学問として学ぶためにどのような点に注意しなければならないかを考え、経済や社会について高校時代よりも一段深い知識をめざす。		
成績評価の方法	期間中に課す宿題と期末の試験期間中に実施する最終試験の得点結果に基づいて評価する。最終試験では論述形式の問題を出題する。		
テキスト	ロイ・バスカー『自然主義の可能性』晃洋書房（「経済の学び方」のテキスト）。		
参考文献	トニー・ローソン『経済学と実在』日本評論社 バース・ダナーマークほか『社会を説明する』ナカニシヤ書店		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者には各回の授業内容を要約したレジュメを用意するので、授業に持参すること。宿題には上記の文献（これは必読の文献である）を読んで5000～6000字程度の論文を書く課題が含まれるので、留意すること。論文のテーマと提出期限は授業の際に伝える。		

授業科目名	経営学専門演習Ⅰ（村上）		
担当教員氏名	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメール等でアポイントメントを取ってください）		
授業の形式・方式	対面授業。授業はゼミナール形式で実施する。すなわち、テキストや授業中に配布する資料に関する学生の報告と、その報告に基づく討議が授業の中心になる。学生は、授業での報告と討議への参加が義務付けられる。		
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	卒業論文, ファイナンス, 金融		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本演習は経営学科の必修科目となっている。本演習の目標は、金融・ファイナンスの基礎知識の習得と卒業論文のテーマの決定の2点である。		
授業の内容	受講生の興味・関心に応じて決定したテキストを用いて金融・ファイナンスの基礎・応用知識を習得するとともに、卒業論文のテーマを決定する。具体的には、前期は主にファイナンスに関する基礎的なテキストやDVDの輪読・視聴を通じて、金融・ファイナンスの基礎知識の習得を目指し、後期は主に金融・ファイナンスに関する文献や資料、新聞記事の読み込み・報告・ゼミメンバーとのディスカッションを通じて、卒業論文のテーマの決定を目指す。また、魅力発信グランプリ等の学外グランプリへの参加や日経TESTの受験も目指す。		
成績評価の方法	出席状況および討議や発表に対する積極性や発表内容等の分かりやすさなどに基づいて評価する。		
テキスト	ファイナンスで扱うテーマは多岐に渡るため、テキストはゼミメンバーの関心に基づいて決定する。		
参考文献	演習の中で適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営学専門演習 I (和田)		
担当教員氏名	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス 1642研究室		
オフィスアワー	メール連絡により随時		
授業の形式・方式	(前期) まちづくり事例の調査・報告・討議 (後期) 既存研究レビューと卒業研究計画の作成		
単位数 (時間数)	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域マネジメント, 地域政策, まちづくり, 自治体, コミュニティ, 観光, 文化・スポーツ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外の事例研究をもとに, まちづくりの実態への理解を深める。</li> <li>・ まちづくりに関する既存研究のレビューを通じて, 研究の視点や方法を理解する。</li> </ul>		
授業の内容	(前期) まちづくり事例の調査・報告・討議 (後期) 既存研究レビューと卒業研究計画の作成 ※ 全回出席が基本+毎回1回以上質問 ※ 発表は年6回程度 (前期3回・後期3回)		
成績評価の方法	調査・発表の出来と討議への参加状況		
テキスト	なし		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 梶田真・仁平尊明・加藤政洋編 (2007) : 『地域調査こと はじめ』ナカニシヤ出版.</li> <li>・ 小林浩二 (2012) : 『地域研究とは何かーフィールドワークからの発想』古今書院.</li> <li>・ 木下是雄 (1981) : 『理科系の作文技術』中央公論社.</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎週のゼミに加え, フィールドワークやコンテストへの参加を行います。		

授業科目名	経営学専門演習 I (片桐)		
担当教員氏名	片桐昭司		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	開講しない。		
単位数 (時間数)	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営学専門演習 I (橋上)		
担当教員氏名			
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数 (時間数)	4	60	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	ゼミの皆様と話し合っって進行を決めていきます。		
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	春休み中に指定した参考書 桜井久勝『会計学入門 (第4版)』(日経文庫)を読んでおいてください。		



授業科目名	経営学専門演習Ⅰ（中島）		
担当教員氏名			
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営学専門演習Ⅱ（橋上）		
担当教員氏名			
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営学専門演習Ⅱ（村上）		
担当教員氏名	村上 恵子		
研究室の場所	広島キャンパス 1647研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメール等でアポイントメントを取ってください）		
授業の形式・方式	対面授業。授業はゼミナール形式で実施する。すなわち、テキストや授業中に配布する資料に関する学生の報告と、その報告に基づく討議が授業の中心になる。学生は、授業での報告と討議への参加が義務付けられる。		
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	卒業論文, ファイナンス, 金融		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本演習は経営学科の必修科目となっている。本演習の目標は、自らが設定した研究テーマに基づいて、文献や資料、データ等を収集・整理・分析し、卒業論文を完成させることである。		
授業の内容	卒業論文を作成する。		
成績評価の方法	卒業論文の完成度で評価する。		
テキスト	各自が定めた卒業論文のテーマに従って決定する。		
参考文献	演習の中で適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営学専門演習Ⅱ（和田）		
担当教員氏名	和田 崇		
研究室の場所	広島キャンパス 1642研究室		
オフィスアワー	メール連絡により随時		
授業の形式・方式	（前期）まちづくり事例の調査・報告・討議 （後期）既存研究レビューと卒業研究計画の作成		
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域マネジメント, 地域政策, まちづくり, 自治体, コミュニティ, 観光, 文化・スポーツ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	まちづくりをテーマとした卒業論文を完成させる。		
授業の内容	卒業論文の作成 ※ 随時個別指導 ※ 中間発表：2回（前期1回・後期1回） ※ 卒業論文発表会は学内外に公開		
成績評価の方法	卒業論文の出来		
テキスト	なし		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 梶田真・仁平尊明・加藤政洋編（2007）：『地域調査こと はじめ』ナカニシヤ出版.</li> <li>・ 小林浩二（2012）：『地域研究とは何か―フィールドワークからの発想』古今書院.</li> <li>・ 木下是雄（1981）：『理科系の作文技術』中央公論社.</li> </ul>		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	<p>《卒業論文題目例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島市土砂災害における被災地住民の対応と外部支援 の受入体制</li> <li>・ 高野りんごの6次産業化をめぐる協働体制</li> <li>・ 創造的ランナウェイに対する地域の支援・活用体制 ―広島ロケ映画2作品の事例―</li> <li>・ 地域に根ざしたJリーグクラブ ―サンフレッチェ広島とファジアーノ岡山を事例に―</li> <li>・ イベントを機に形成された広域ネットワークはまちづくりの 経営資源になりうるか―「瀬戸内しまのわ2014」を事例に―</li> <li>・ 広島市における演劇活動の特徴―担い手と観客に着目して―</li> <li>・ 「涼宮ハルヒ」と兵庫県西宮市の微妙な関係 ―聖地化をめぐる―</li> <li>・ 外国人のみた阿波踊り</li> <li>・ 景観は誰のものか―観光都市・尾道のケーススタディー</li> <li>・ 「おいしい！広島県」キャンペーンの成果と課題</li> </ul>		

授業科目名	経営学専門演習Ⅱ（片桐）		
担当教員氏名	片桐昭司		
研究室の場所	1728研究室		
オフィスアワー	メールで予約してください。		
授業の形式・方式	報告および討論形式		
単位数（時間数）	4	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	特になし		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	卒業論文を作成することを目的とします。これまでのカリキュラムを通じて習得した専門知識を活用して卒業論文を作成します。		
授業の内容	前半では、卒業論文の準備（方法論、資料収集）を行い、後半では、卒業論文の途中経過報告をしてもらい、論文の方向性や内容をチェックし、卒業論文を仕上げます。		
成績評価の方法	出席状況、方法内容および卒業論文で評価します。		
テキスト	特になし。		
参考文献	特になし。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営学専門演習Ⅱ（中島）		
担当教員氏名			
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	大学基礎セミナー（小川）		
担当教員氏名	小川仁士，韓虎剛，宇野健，岡部正幸		
研究室の場所	小川：1548研究室，韓：1636研究室，宇野：1550研究室，岡部：1567研究室		
オフィスアワー	当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。		
授業の形式・方式	経営情報学科の学生を4グループに分割し，4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	図書館およびインターネットによる情報収集，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング（レポート作成，論文作法，など），プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は，全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け，学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また，充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。		
授業の内容	大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得，大学教育についての理解等をもとにして，大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング，プレゼンテーション，図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については，具体的な教材をもとにして，少人数クラスでの実践的な指導を行う。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度，レポート，小テスト，プレゼンテーション等を総合して評価する。		
テキスト	「知へのステップ」 「第4版」，学習技術研究会，くろしお出版		
参考文献	特に指定しない。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して，授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため，本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。		

授業科目名	大学基礎セミナー（韓）		
担当教員氏名	小川仁士，韓虎剛，宇野健，岡部正幸		
研究室の場所	小川：1548研究室，韓：1636研究室，宇野：1550研究室，岡部：1567研究室		
オフィスアワー	当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。		
授業の形式・方式	経営情報学科の学生を4グループに分割し，4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	図書館およびインターネットによる情報収集，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング（レポート作成，論文作法，など），プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は，全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け，学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また，充実した大学生生活を送るうえでの基礎知識を身につける。		
授業の内容	大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得，大学教育についての理解等をもとにして，大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング，プレゼンテーション，図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については，具体的な教材をもとにして，少人数クラスでの実践的な指導を行う。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度，レポート，小テスト，プレゼンテーション等を総合して評価する。		
テキスト	「知へのステップ」「第4版」，学習技術研究会，くろしお出版		
参考文献	特に指定しない。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して，授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため，本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。		



授業科目名	大学基礎セミナー（宇野）		
担当教員氏名	小川仁士，韓虎剛，宇野健，岡部正幸		
研究室の場所	小川：1548研究室，韓：1636研究室，宇野：1550研究室，岡部：1567研究室		
オフィスアワー	当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。		
授業の形式・方式	経営情報学科の学生を4グループに分割し，4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	図書館およびインターネットによる情報収集，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング（レポート作成，論文作法，など），プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は，全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け，学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また，充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。		
授業の内容	大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得，大学教育についての理解等をもとにして，大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング，プレゼンテーション，図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については，具体的な教材をもとにして，少人数クラスでの実践的な指導を行う。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度，レポート，小テスト，プレゼンテーション等を総合して評価する。		
テキスト	「知へのステップ」 「第4版」，学習技術研究会，くろしお出版		
参考文献	特に指定しない。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して，授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため，本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。		

授業科目名	大学基礎セミナー（岡部）		
担当教員氏名	小川仁士，韓虎剛，宇野健，岡部正幸		
研究室の場所	小川：1548研究室，韓：1636研究室，宇野：1550研究室，岡部：1567研究室		
オフィスアワー	当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。		
授業の形式・方式	経営情報学科の学生を4グループに分割し，4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	図書館およびインターネットによる情報収集，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング（レポート作成，論文作法，など），プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は，全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け，学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また，充実した大学生生活を送るうえでの基礎知識を身につける。		
授業の内容	大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得，大学教育についての理解等をもとにして，大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に，ノートテイキング，リーディング，アカデミック・ライティング，プレゼンテーション，図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については，具体的な教材をもとにして，少人数クラスでの実践的な指導を行う。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度，レポート，小テスト，プレゼンテーション等を総合して評価する。		
テキスト	「知へのステップ」「第4版」，学習技術研究会，くろしお出版		
参考文献	特に指定しない。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して，授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため，本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。		

授業科目名	英語 I (経情学科)		
担当教員氏名	黒住 奏 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	テキストを用いて、演習形式と講義形式を組み合わせる授業を行います。また、グループワークやディスカッションなどを、適宜取り入れます。		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎的英語力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。		
授業の内容	さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。		
成績評価の方法	英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的姿勢、等により総合評価する。		
テキスト	Science Frontiers: Developing Your English with National Geographic by Keiko Hattori, Toshio Hidaka, Yayoi Yamashita, Kana Matsuda, Judy Noguchi. CENGAGE Learning.		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	英和辞書を必ず持参してください。		

授業科目名	英語Ⅱ（経情学科）		
担当教員氏名	岩井 千秋（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行い、英語学習の習慣化を図ります。また協働学習を中心に、choral reading などの手法を使って、他の受講生と一緒に読んだ内容を発表することも行います。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	速読、音読、英語学習の習慣化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深めます。授業では特に音読（シャドーイング）を重視します。学期の終わりまでには自分自身で学習目標を決め、学習に取り組める自律学習者となることを目指します。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読んで理解し、何度も音読します。こうした学習を通じて、英文理解へのスピード化、自動化を図ると共に、語彙力、表現力を高めます。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力、英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。		
テキスト	D. O'keeffe & T. Shibagaki. It's a wired world 成美堂		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。		

授業科目名	英語Ⅲ（経情学科）		
担当教員氏名	黒住 奏（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	テキストを用いて、演習形式と講義形式を組み合わせる授業を行います。また、グループワークやディスカッションなどを、適宜取り入れます。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎的英語力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。		
授業の内容	リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。		
成績評価の方法	読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価する。		
テキスト	Portraits of Japan: Voicing Opinions on a Changing Society by Paul Stapleton, Atsuko Uemura. CENGAGE Learning		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	英和辞書を必ず持参してください。		

授業科目名	英語Ⅳ（経情学科）		
担当教員氏名	栗原 武士		
研究室の場所	1823		
オフィスアワー	研究室のドアに表示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習と講義形式を併用する。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営：必修 経営情報：必修
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語読解、時事英語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目では、「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」「Extensive Reading」で獲得した技能をさらに発展させ、各分野の基礎的な専門用語を含む英文を読んで正確に理解できる力の習得を目標とする。文章のジャンル（記事、ビジネス文書、論文など）に応じた構成を理解できる。専門用語の基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>本科目は、全共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要な基礎的リーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>予習－演習－復習というサイクルを毎週行いながら、基礎的なリーディング能力を涵養します。また、学習者同士でのグループワークを取り入れ、テキストの内容を相互に理解するアクティビティを行います。</p>		
成績評価の方法	クラス内小テスト及び考査をもとに、授業参加度など、総合的に評価する。		
テキスト	Justin Charlebois and Atsushi Sakuma. Cultural Portraits: Japan and the US. 金星堂.		
参考文献	適宜クラス内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語表現 I (経情学科)		
担当教員氏名	ケイヴォーン・ディビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice.		
授業の内容	The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.		
テキスト	Interchange 1 (Fourth edition, Cambridge University Press) by Jack C. Richards.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅱ（経情学科）		
担当教員氏名	ジェフリー・ノーリン（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	This is a student active classroom where the student is required to be an active listener, speaker and participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand and contribute in an English language environment.		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.		
授業の内容	Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics. The final grade for the class will be based on 5 unit tests (75%) and a final exam (25%).		
テキスト	Breakthrough 2 PLUS: Success with English; Miles Craven; Macmillan. ISBN 978-0-230-43820-0		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.		



授業科目名	英語表現Ⅲ（経情学科）		
担当教員氏名	マシュー・マーティン・レーガン（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others.		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営情報：必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English Expression - writing and speaking		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.		
テキスト	No textbook. Materials provided by the instructor.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Come to class prepared to be ACTIVELY involved.		

授業科目名	英語表現Ⅳ（経情学科）		
担当教員氏名	ジェフリー・ノーリン（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	This is a student active classroom where the student is required to an active speaker, listener and writing participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand, participate and contribute in an English language environment.		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.		
授業の内容	Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.		
テキスト	Writers at Work: From Sentence to Paragraph; Laurie Blass/Deborah Gordon; Cambridge University Press; ISBN 978-0-521-12030-2		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.		

授業科目名	中国語 I (経情学科)		
担当教員氏名	津坂 貢政 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	<p>対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるよう進める。受講生は、授業に積極的かつ主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。</p>		
単位数 (時間数)	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎初歩、ローマ字による発音表記 (?音 [ピンイン]) と漢字 (簡体字) 表記、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この科目は、経営情報学科共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話が理解できる能力を養成する。</p>		
授業の内容	<p>発音の練習、単語の音と意味と漢字表記とが結びつく練習をする。簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。</p>		
成績評価の方法	中国語の基本的文法、簡単な文章の理解度、初歩的な会話力、等で総合的に判断する。		
テキスト	郭春貴・郭久美子『やさしく楽しい 400語で学ぶ中国語入門-発音中心-』白帝社、2011年。		
参考文献	基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	中国語Ⅱ（経情学科）		
担当教員氏名	津坂 貢政（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるよう進める。受講学生は、授業に主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、経営情報学科共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。中国語Ⅰで学んだことを基本に、初級・中級の読み物を通して中国の文化に触れるとともに、中国語での簡単な日常会話や手紙などが理解できる能力を養う。		
授業の内容	初歩的な日常会話の練習をし、文の基本的な構造を理解し、文法面での基礎を固める。日中文化の発想の相違に注意して日本語訳を試みる。		
成績評価の方法	中国語の文法、読解力、会話力、日中文化に対する理解度、等で総合的に判断する。		
テキスト	郭春貴・郭久美子『やさしく楽しい 400語で学ぶ中国語入門-発音中心-』白帝社、2011年。		
参考文献	基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	「中国語Ⅰ」に続けて、履修することが望ましい。「中国語Ⅰ」が単位未習得の場合は履修できない。		

授業科目名	情報リテラシー（経情学科）		
担当教員氏名	佐々木 宣介		
研究室の場所	広島キャンパス 1545研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	【27年度以降入学生】経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	情報活用力、情報収集、ファイル・データ管理、文書表現、ビジュアル表現、プレゼンテーション、情報倫理、セキュリティ、電子メール、タッチタイピング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		

授業科目名	情報リテラシー演習（経情学科）		
担当教員氏名	佐々木 宣介		
研究室の場所	広島キャンパス 1545研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	【27年度以降入学生】経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、 情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、 適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		

授業科目名	体育実技 I (経情学科)		
担当教員氏名	辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業。体育館にて行う。 初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経情学科Ⅱ年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。 ②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。 ③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。		
テキスト	教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>		

授業科目名	情報科学論 (経情学科)		
担当教員氏名	錦織 昭峰		
研究室の場所	広島キャンパス 1643研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときにはいつでも可		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。試験を受けることが義務付けられる。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (情報) 選択		
キーワード	情報化社会・情報システムと情報ネットワークの基礎		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	現代の情報化社会における、情報科学に関する一般的・基礎的な知識・技術を修得できる。最近の話題を理解できる。情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進のための基礎が理解できる。情報処理システムを開発するための基礎能力ができる。情報に関する資格試験については、ハードウェアに関して理解できる。		
授業の内容	(少人数の学生ならば)学生との講義中の対話を通じて、アクティブ・ラーニングを行う。授業でふれる項目は主に以下のとおりである。最近の話題。コンピュータの歴史と情報化社会、その問題点。コンピュータの基本構成とハードウェア。データの表現、アルゴリズムとデータ構造。論理回路。コンピュータのソフトウェア、スプレッドシート等の表計算ソフトウェア。ファイル。データベース。データ通信とネットワーク、ローカルエリアネットワーク (LAN)。人工知能とエキスパートシステム、CAD/CAM システム、コンピュータによる画像処理、ソフトウェアセンター、バイ・ポラー・システムとデュアル・システム。授業中に3コマ程度は、コンピュータ実習室で下記の演習を行う。フリーソフトによる暗号化。Word による Web ページの作成。Web ページのソースの表示。Wikipedia. pdf ファイルへの変換。Excel の有効数字。広島キャンパスのデジタル図面。コンピュータについての補講。得票数の最大を求めるプログラムとその malware プログラム。		
成績評価の方法	中間試験 (40%) 及び期末試験 (60%) で評価する。これが原則であるが、授業への積極的な参加なども含めて総合的に判断する。試験は指定された教室 (試験室) 内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	特になし。配付資料で講義を行う。		
参考文献	坂和正敏・矢野均・西崎一郎著 「情報科学入門」 朝倉書店、<4254121040> 錦織昭峰, 特集解説「日本の情報ネットワークおよびソフトウェアセンターに関する提言」, 電気学会論文誌, 第121巻C分冊, 第1号, pp. 56-57, 平成13年1月。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書全体をざっと読みして授業に臨むこと。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。		



授業科目名	情報処理基礎（経情学科）		
担当教員氏名	重丸伸二		
研究室の場所	1640研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	主としてパソコン実習である。授業日程に従って、各回に出される課題に取り組み、その結果をE-Mailで提出させる。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択（平成26年度以前入学生は必修）
履修要件	経営情報学科1年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）		
キーワード	ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、文書作成、データ処理と可視化、プログラミング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、学部共通専門科目の一つとして、情報処理技術の習得を目的とする。具体的には、「情報リテラシー」に引き続き、より総合的な知識と技術を身に付けさせ、さらに高度の情報処理に関する専門科目を学ぶための基礎を固めることに焦点を置いた内容について、特に演習を中心として授業を行う。		
授業の内容	情報処理に関する総合的なスキルアップを目指す。 具体的には、Wordにおける表作成、段組、図形、数式エディタ、Excelにおける関数計算などの実習を行う。また、プログラミング言語の一つであるVisual Basicを用いることにより、さまざまなデータや情報の収集や解析および整理を行う上で必要となるプログラミング技術の基礎とアルゴリズムの考え方を習得させる。		
成績評価の方法	成績は演習の取り組み状況と課題レポートで評価する。		
テキスト	適宜プリントを配布する予定である。		
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）			

授業科目名	経営数学		
担当教員氏名	呉 漢生		
研究室の場所	広島キャンパス 1532研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 17時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間（1回）と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営情報学科必修
履修要件	経営情報学科、経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	線形代数、行列基本変換、経営システムの数学的記述、ゲーム理論基礎、ミニマックス最適戦略		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、履修学生に経営科学と経営システムによく使用されている数学手法に関する基本的な概念、基礎的内容を理解させることである。これによって、経営科学と経営システムの専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、経営情報学科の専門科目・経営科学系分野に区分されている。		
授業の内容	経営工学における意思決定は、現実の問題に数理的手法を使って分析することにより、定量的に解決されることが多い。そのためには、多種多様の現実の問題を定式化しなければならない。この科目では、経営科学のように経営の問題を定量的な科学的方法で解決しようとする学問分野が発展していることを特論的に講義する。経営数学では、このような学問分野に必要な数学基礎知識を実際の適用例をあげながら紹介する。特に、行列の演算、行列の基本変形、経営システムの数学的記述、代数連立方程式の解の存在性のための必要十分条件、線形代数方程式の解の表計算、静的ゲーム問題、ミニマックス最適戦略、純粋最適戦略と混合最適戦略の概念、行列ゲームの解の存在性のための条件、それらの経営工学への応用などを学習する。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポートと出席状況など30%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。毎回のレポート（宿題）の課題はその授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の終了後とする。期末試験では、主にレポート課題の中から問題を作成し試験する。		
テキスト	担当教員が作成している「講義概要」を配布する。使用テキストを特に指定していないが、講義中に参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。課題レポートに関する問題をよく理解したうえ、完成・提出すること。		

授業科目名	経営統計学		
担当教員氏名	韓 虎剛		
研究室の場所	広島キャンパス 1636研究室		
オフィスアワー	火曜日13時から14時30分、場所は研究室		
授業の形式・方式	主に対面授業方式で授業を進める。基本的に毎回レポート課題を課し、次回の授業開始時に提出させる。時には、授業の後半に課題を課し、その場で一人ずつ課題の解答をチェックし、それを出席の確認とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象、「経営統計学入門」の合格を履修要件とする。		
免許等指定科目			
キーワード	標本調査・標本分布、統計的な推定、仮説検定、相関と回帰、分散分析法、質的選択モデル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「経営統計学入門」の内容をベースにして、実用的な統計的な手法をいくつか絞って取り上げる。目標として、取り上げた内容を理解したうえ、関連計算とその応用ができること。		
授業の内容	経営統計学入門で習得した経営統計学に関する基礎知識を踏まえた上、もっと実用的な統計的な手法とその理論的な根拠を強調して、少数の基本項目に焦点を絞って応用力の涵養を深める。また、具体的な経営データを分析対象とし、汎用のソフトウェア例えば、Microsoft Excelなどを使って幾つかの統計理論を検証していく。予定するトピックスは以下の通りである。統計的な推定、仮説検定、相関と回帰、分散分析法、質的選択モデルなど。		
成績評価の方法	課題レポート、小テストなど20%、期末テスト80%で総合評価する。		
テキスト	テキスト：大屋 幸輔「コア・テキスト 統計学」（第2版）新世社（2011）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「経営統計学入門」を合格しないと、「経営統計学」を履修することを認めない。		

授業科目名	情報数学		
担当教員氏名	折本 寿子		
研究室の場所	広島キャンパス 1617研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約を入れると確実です）		
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に従って、各章に関する内容を講義と演習を交えて行う。講義内容に応じて課題を出し、内容の理解を深める。学生は課題をしっかりと理解することと、試験を受けることで達成状況を確認する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	符号理論，誤り検出・修正，ガロア体，集合と関係データベース，グラフ理論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	情報社会における情報処理技術，情報伝送技術，情報管理技術について基礎的考えを数値的分野から学習することを目的とする。具体的には，データの暗号化や誤り検出・修正およびグラフ理論，ネットワーク応用・情報のモデル化について基礎知識の習得を目標とする。		
授業の内容	情報を数字列で捉え，暗号化や誤り検出・修正の手法について説明する。さらに，関係データベースの基本的なアイデアと操作方法を集合や関係の考えを用いて理解する。次に，点と線からなる図形の性質のつながり具合に注目したグラフ理論を元に，ネットワーク応用，情報のモデル化を学習する。		
成績評価の方法	試験・課題レポート90%，授業態度10%の割合で評価する。試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポートの課題は授業の中に提示する。各レポートの提出期限は，原則，次回授業とする。		
テキスト	教科書 「情報数学の基礎」 寺田・中村・釈氏・松居共著 サイエンス社		
参考文献	授業の中でプリントを適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	オペレーションズリサーチ I		
担当教員氏名	呉 漢生		
研究室の場所	広島キャンパス 1532 研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 17時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間（1回）と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営情報学科必修
履修要件	経営学科、経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営科学、線形計画法、システム最適法、経営システム、経営工学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、履修学生に経営科学と経営システムによく使用されている最適化手法の線形計画法に関する基本的な概念、基礎的内容を体系的に理解させることである。これによって、経営科学と経営システムにおける他の手法を自己的に理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、経営情報学科の専門科目・経営科学系分野に区分されている。		
授業の内容	経営活動は、一定の施設を基盤として継続的、計画的、経済的な生産・サービスを遂行することである。経営科学は、そのような経営活動において生じる様々の問題を科学的方法で解決したり、合理的な意思決定を支援するための原理と方法の体系であり、オペレーションズ・リサーチ、経営工学、品質管理、生産管理などを含めた広範な概念である。オペレーションズ・リサーチ I では、経営科学の中で最も発展しているシステム最適化手法としての基本的な線形計画法とその周辺について、理論の厳密性を犠牲にしないで、できるだけ分かりやすい解説をする。特に、線形計画法とその歴史的背景、経営システムなどにおける代表的な線形計画問題、線形計画問題の定式化、基本的な単体法とそのアルゴリズム、単体法の収束性、2段階単体法、改訂単体法、単体法の双対理論、およびそれらの経営学への応用などを講義する。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポートと出席状況など30%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。毎回のレポート（宿題）の課題はその授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の終了後とする。期末試験では、主にレポート課題の中から問題を作成し試験する。		
テキスト	担当教員が作成している「講義概要」を配布する。使用テキストを特に指定していないが、講義中に参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。課題レポートに関する問題をよく理解したうえ、完成・提出すること。その他、経営学科の聴講生に対して、この講義を聴講するために、経営数学が履修済みであることが望ましい。		

授業科目名	オペレーションズリサーチⅡ		
担当教員氏名	市村 匠		
研究室の場所	広島キャンパス 1631研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときは可。ただし、事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい。		
授業の形式・方式	講義による対面授業、進度に応じて適宜コンピュータを用いた実習を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	線形代数の基礎を理解していることが望ましい。		
免許等指定科目			
キーワード	線形計画法、動的計画法、待ち行列理論、意思決定支援（階層分析法、ISM）、ゲーム理論基礎		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	オペレーションズリサーチⅠに引き続き、経営問題をモデル化し、解決する様々な手法を学ぶ。		
授業の内容	輸送問題、最短経路問題、動的計画法など、また確率モデルとして、マルコフ連鎖、待ち行列理論などを説明する。また、意思決定支援として、AHP、ISM（構造モデリング手法）についても説明する。ゲーム理論の基礎を学ぶ。		
成績評価の方法	レポートなどの課題、理解度調査テストを実施した後、期末試験の成績により総合的に判断する。		
テキスト	使用テキストを特に指定しないが、講義資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業で理解できないことがあれば、質問に来ること。		

授業科目名	シミュレーション論		
担当教員氏名	市村 匠		
研究室の場所	広島キャンパス 1631研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときは可。ただし、事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい。		
授業の形式・方式	講義による対面授業，進度に応じて適宜コンピュータを用いた実習を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	C言語でプログラムをかけること。		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	モデリングとシミュレーション，決定論的モデル，確率論的モデル，ソフトコンピューティング，C言語による人工知能プログラミング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現象をモデル化し，そのモデルを用いてコンピュータによるシミュレーションを行う。シミュレーションは，自然科学，社会科学を問わず，様々な分野で利用されている。対象とする問題が複雑であれば，その役割は重要になる。コンピュータシミュレーションの高度な技術が開発されるにつれ，シミュレーションは現実世界の問題解決，未知な世界に対する発見など，先駆的な役割を担いつつある。このような側面を考慮しながら，コンピュータシミュレーションについて講義と演習を行う。		
授業の内容	決定論的モデル，確率論的モデル，モンテカルロ法，マルチェージェントシミュレーション，ソフトコンピューティング（進化計算，ニューラルネットワーク，ファジィ など）によるシミュレーションについて説明する。また理解を深めるために，実習を通じて，シミュレーションの実施および評価を行うことを目指す。		
成績評価の方法	課題レポートおよび最終試験（プログラミング）により総合的に判断する。		
テキスト	使用テキストを特に指定しないが，講義中に参考図書等を指示する。講義資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	数式，アルゴリズム，C言語による科学技術計算プログラミングを行う。 最適システム論を受講していることが望ましい。 授業で理解できないことがあれば，質問に来ること。		

授業科目名	社会情報論		
担当教員氏名	市村 匠		
研究室の場所	広島キャンパス 1631研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときは可。ただし、事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい。		
授業の形式・方式	講義による対面授業を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	医療情報システム，行政システム，ネットビジネス，スマートフォンアプリ開発		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会のさまざまな場面で直面する情報システムと適切にかかわるために，情報通信技術についての正しい知識と技術を身につけることは重要である。このために，人間や社会や組織全体といった広い視野から，深い知識をまとめあげ，創造的に問題を発見し，解決できる素養を身につける。		
授業の内容	医療情報システム，行政システム，ネットビジネスなどの具体的な事例を挙げ，情報社会が新たな技術が必要とし，生まれた技術が社会環境を変えていることを説明する。また，スマートフォンアプリケーションの開発基礎を学び，オープンデータを活用したアプリケーション開発について企画，プレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法	レポート課題，最終試験により総合的に評価する。 また，外部コンテストにアイデア・作品を投稿する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自らスマートフォンアプリケーションについて企画し，プレゼンテーションを実施する。 学外コンテストに応募するための企画，プレゼンテーション能力を養成する。 スマートフォンアプリを企画・開発し，外部コンテストに投稿する。		



授業科目名	最適システム論		
担当教員氏名	市村 匠		
研究室の場所	広島キャンパス 1631研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときは可。ただし、事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい。		
授業の形式・方式	講義による対面授業。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象（平成22年度以降入学生対象）		
免許等指定科目			
キーワード	線形計画法，非線形計画法，メタヒューリスティック，ソーシャルネットワーク分析法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	社会問題，環境問題，産業問題など，現代社会における問題は複雑なシステムの問題である。様々な社会システムや大規模複雑システムなどの設計を，数理的にモデル化し，最適化する手法について学ぶ。		
授業の内容	最適化手法に関して，連続モデル（線形，非線形），離散モデル，ネットワークモデルなどを扱う。線形計画法，非線形計画法，組み合わせ問題，グラフとネットワークなどについて説明する。また，ソフトコンピューティングに基づくシステム最適化手法として，山登り法，焼きなまし法，タブーサーチ，進化計算手法についても説明する。さらに，ソーシャルネットワーク分析など複雑ネットワークに関する最適化手法の基礎を学ぶ。		
成績評価の方法	課題レポート，理解度テストを実施した後，期末試験の成績により判断する。		
テキスト			
参考文献	穴井宏一，数理最適化の実践ガイド，講談社<0784061565104>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	微分積分，線形代数の基礎的な知識があることが望ましい。 数式を使う講義なので，数式の意味は確認して講義に出席すること。 授業で理解できないことがあれば，質問に来ること。		

授業科目名	経営科学実験		
担当教員氏名	重丸 伸二		
研究室の場所	広島キャンパス 1640研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。経営科学に関する代表的な問題を取り上げ、コンピュータを用いて実験を行う。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営科学, オペレーションズ・リサーチ, シミュレーション。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	コンピュータを用いて経営科学に関する実験を行う。理論的背景を踏まえた上で、シミュレーション実験を行い、実験結果を分析・評価する力を習得することを目標とする。		
授業の内容	コンピュータを用いて経営科学に関する様々な実験を行い、その結果について考察する。例えば以下の問題を取り上げ考察を行う。・在庫管理問題・待ち行列問題・プロジェクト管理・輸送計画問題・動的システム制御問題・数値最適化問題など。		
成績評価の方法	授業への参加度およびレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	講義資料は別途指示または配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営システム計画論		
担当教員氏名	呉 漢生		
研究室の場所	広島キャンパス 1532 研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 17時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間（1回）と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、期末に総合的なレポートを完成することが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営科学、静的経営システム、動的経営システム、動的システム最適法、経営工学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、履修学生に経営科学における動的経営システムによく使用されている最適化手法などに関する基本的な概念、基礎的内容を体系的に理解させることである。これによって、経営科学における実際的な動的システムを計画することができる。本科目は、経営情報学科の専門科目・経営科学系分野に区分されている。		
授業の内容	動的システムでは、システムの出力が考えている時点だけでなく、それ以前の過去の入力によっても影響を受ける。従って、動的システムを計画するということはある時点だけでシステムを評価することではなく、一定期間のシステムのふるまいを問題とする。経営システム計画論では、経営システムを計画する問題を経営科学の観点から体系的に講義する。静的経営システムを計画する問題について線形計画法などという手段が存在することに対して、動的な経営システムを計画する問題についてもいくつかの計画法も存在することを紹介する。特に、動的経営システムのモデリング、動的経営システム問題の解（変分法、最大原理、動的計画法など）、および経営学（生産管理問題、広告問題、消費問題など）への応用などを学習する。		
成績評価の方法	出席状況、講義中に提出を求めるレポート（宿題）、講義終了後に提出していただく総合的なレポートなどによって、総合的に評価する。		
テキスト	担当教員が作成している「講義概要」を配布する。使用テキストを特に指定していないが、講義中に参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。特に、講義中に担当教員がよく質問を行い、聴講者と交流しながら講義を進める。課題レポートに関する問題をよく理解したうえ、完成・提出すること。その他、この講義を聴講するために、経営数学とオペレーションズ・リサーチⅠが履修済みであることが望ましい。		

授業科目名	知能情報論		
担当教員氏名	生田 顯		
研究室の場所	広島キャンパス 1661研究室		
オフィスアワー	金曜日9時～17時、場所は担当教員室		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	ファジィ情報，あいまいシステム，知能情報処理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は，学科専門科目における経営科学系科目の一つとして，特に最近，社会科学の分野において重要となっているソフトコンピューティングの一手法であるファジィ情報処理について学習することを目的とする。また，他の手法としてニューラルネットワークについても，ファジィとの対比において簡単に学習する。		
授業の内容	人間を取り巻く現実の社会環境システムにおいては，人間の認識や評価などに関する情報のように，あいまいさを含むものが多く存在している。また，得られる情報は不正確な数値や非数値情報である場合も多い。本講では，このようなあいまいな情報や非数値情報を，コンピュータで処理することを可能にするための合理的な一手法としてファジィ情報処理を取り上げ，基礎的事項について講述するとともに実システムへの適用例についても解説する。		
成績評価の方法	期末試験，出席状況，課題レポートで評価する。試験は指定された教室（試験室）内で実施する。レポート課題は授業の進行に合わせて随時，提示する。		
テキスト	テキスト：山下・須田共著「ファジィ数学入門」森北出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ノイマン型コンピュータでは対処できない問題をいかに解決するかの一つの方向性を与える。授業中の雑談や試験中の不正行為はもちろん禁止（当然のこと）。		

授業科目名	<b>経営情報論</b>		
担当教員氏名	広谷 大助		
研究室の場所	広島キャンパス 1634研究室		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する. 1or2回の講義につき1章の講義を想定し, 授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う. なお, 必要に応じて演習室を用いた講義も行う. また, ほぼ毎週宿題(レポート課題)を課し, 決められた日時までに提出させる. 学生は, 授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること, 試験を受けることが義務付けられる		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営学科 選択 経営情報学科 必修
履修要件	経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営工学, 技術と倫理, データ分析, 計画と評価, 生産管理, 品質管理, コストと利益, 意思決定, 経営情報システム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では経営情報を学問から見ることで, 従来の経営学に情報を組み入れた学問である経営工学について理解することを目的とする. なお, “工学”とあるが理系の学問ではなく, 文理融合の学問である. 近年は経営も分かる技術者つまり理系も文系も学修した学生が求められており, 経営工学を理解することは経営情報学科の学生にとっても経営学科の学生にとっても必要不可欠である		
授業の内容	経営工学について説明する. まず, 経営工学自体について説明する. その後, テキストに沿って多くのトピックスをオムニバス形式で説明する. その中で必要に応じて演習室にてパソコンを用いた講義・演習を数回行う		
成績評価の方法	中間試験35%, 期末試験35%, 課題レポート(宿題)30%の割合で評価する. 試験は指定された教室(試験室)内で, A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)のみ持ち込み可で実施する. 期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する. レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する. 各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする		
テキスト	中島編著, 経営工学のエッセンス, 朝倉書店, 2012年		
参考文献	特に指定しない		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義は“経営情報”という学問を学ぶための概論的な位置づけになります. そのため, 本講義で学んだことは, これまで学んだことの復習またはこれから経営情報学科・経営学科で深く学ぶための基礎となります. その意味でも真面目に受講し課題をこなす必要があります.		

授業科目名	知的生産システム論		
担当教員氏名	広谷 大助		
研究室の場所	広島キャンパス 1634研究室		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従った講義形式で実施する。授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。ほぼ毎週宿題（レポート課題）を課し、決められた日時までに提出させる。学生は、授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	インダストリアルエンジニアリング，押し出し型生産，引っ張り型生産，ジャストインタイム生産システム，セル生産システム，ショップフロアスケジューリング，プロジェクトスケジューリング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	うまくシステムを運営するためにはシステムの特徴やそれに合わせたやり方を理解する必要がある。よってこの科目では経営情報システムの中の生産システムに焦点をあて種々の生産システム及び生産システムを運営するのに必要なスケジューリング技法を理解することを目的とする		
授業の内容	まず生産・生産システムとは何かについて説明し，生産システムの始まりだと言われているインダストリアルエンジニアリングについて説明する。その後，現在多く用いられている代表的な生産システムを取り上げる。次に生産システムを運営する際に問題となる種々のスケジューリングについて取り上げる。これらによって日本で用いられている生産システムについて理解し，自分でスケジューリングを求めることができるように習得する		
成績評価の方法	中間試験35%，期末試験35%，課題レポート（宿題）30%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で，A4用紙1枚のメモ書き（手書きに限る）持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポート（宿題）の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする		
テキスト	特になし。講義の開始時に講義資料を配布する		
参考文献	特に指定しない		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報システム論		
担当教員氏名	岡部 正幸		
研究室の場所	広島キャンパス 1567研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。配布資料に沿って講義を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	システム運用管理，ITサービスマネジメント，資源管理，インシデント管理，セキュリティ管理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	今日の企業活動・社会活動は情報システムを基盤としたITサービスに支えられており，その適切な運用管理が求められている。この科目では，情報システムを安定的に運用し，ITサービスを継続的に提供するためのマネジメント方法について学び，その体系的な知識の習得を目標とする。 この科目は，経営情報学科の学科専門科目における経営情報系科目に位置づけられている。		
授業の内容	システム運用における標準的フレームワークであるITIL(Information Technology Infrastructure Library)を軸に，ITサービスマネジメントにおける重要事項について講義する。この重要事項は主として，サービスストラテジ（サービスの品揃えとコスト管理），サービスデザイン（サービスの品質管理），サービスオペレーション（定常時および非常時の対応管理），サービストランジション（システム構成変更時の管理）などからなる。また，演習問題を通じて，課題解決に関する実践的なノウハウについても講義する。		
成績評価の方法	期末試験50%，課題レポート50%の割合で評価する。		
テキスト			
参考文献	笹森俊裕・満川一彦 著 『ITIL ファンデーション シラバス2011』 翔泳社，2013 その他，必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	経営情報システム開発論		
担当教員氏名	広谷 大助		
研究室の場所	広島キャンパス 1634研究室		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従った講義形式で実施する。授業時間2時間（1回）と学生の復習4時間を想定した授業を行う。ほぼ毎週宿題（レポート課題）を課し、決められた日時に提出させる。学生は、授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生産システム，在庫管理，経済発注量，リードタイム，新聞売り子問題，モンテカルロシミュレーション，乱数，サプライチェーン，かんぱん		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では本講義では経営情報システムとして種々の生産システムを取り上げ、EXCELでシステムを構築し、シミュレーションできることを目的とする		
授業の内容	生産システムを構築する上での基礎的事項として在庫管理の基礎について取り上げる。その後シミュレーションするための基礎的技法について説明する。最終的にEXCELを用いて種々の生産システムに対するシミュレーションモデルを構築する。その際に演習室でのパソコンを用いた実習を適宜行う		
成績評価の方法	中間試験35%，期末試験35%，課題レポート（宿題）30%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、A4用紙1枚のメモ書き（手書きに限る）持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポート（宿題）の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする		
テキスト	特になし。各講義の開始時に講義資料を配布する		
参考文献	特に指定しない		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義とシミュレーション論及び経営情報シミュレーションは大きく関連しています。また、知的生産システム論を受講していた場合理解がより深まりますが必須ではありません。		



授業科目名	知識情報システム論		
担当教員氏名	錦織 昭峰		
研究室の場所	広島キャンパス 1643研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときにはいつでも可		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	問題解決指向型システム設計。状態空間探索。スプレッドシート等のデータ構造。情報の多重暗号化。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	現代社会の経営情報分野において、様々な形態で運用されている知識情報システムについて、人間の知識・知能に関連したスキルを理解できる。情報処理の一分野として発展している知識情報の基礎理論が理解できる。経営の実際問題に関する知識情報システムの実例を知ることができる。最近の話題を理解できる。情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進のための能力が身に付く。情報の多重暗号化を考察できる。		
授業の内容	(少人数の学生ならば)学生との講義中の対話を通じて、アクティブ・ラーニングを行う。授業でふれる項目は主に以下のとおりである。最近の話題。電話の基礎技術。電子メールの仕組み。Webの仕組み。セマンティックWeb。デジタルネットワークと社会生活。COTSの導入。意思決定支援。エキスパート・システム。DSS。マイニング技術。電子商取引とは。B to B型電子商取引。モバイルコマース。情報セキュリティ。暗号技術。認証技術。問題解決指向型システム設計。状態空間での探索。あいまいな主観を考慮する優先順位概念。知識情報システムのデータ構造。スプレッドシート等の表計算ソフトウェアのデータ構造。情報ネットワークとソフトウェアセンター。企業情報システム。電力システム等のユーティリティサービスシステム。授業中に3コマ程度は、コンピュータ実習室で下記の演習を行う。公開鍵と秘密鍵による暗号化。覆面文字。情報の多重暗号化。電子メールのための手紙文の書き方。（余裕があれば、科学と芸術と宗教(民族)を解説する。）		
成績評価の方法	中間試験(40%)及び期末試験(60%)で評価する。これが原則であるが、授業への積極的な参加なども含めて総合的に判断する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	飯島淳一 著 「入門 情報システム学」、日科技連出版社、〈4817163100〉		
参考文献	錦織昭峰, 優先順位を考慮した大規模な一般化割当問題のためのデータ構造とアルゴリズム, 電子情報通信学会論文誌, Vol. J85-D-I, No. 2, pp.122-131, 平成14年2月。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、テキスト全体をざっと読みしめて授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。		

授業科目名	経営情報システム実験		
担当教員氏名	韓 虎剛		
研究室の場所	広島キャンパス 1636 研究室		
オフィスアワー	火曜日 13時から14時30分、場所は研究室		
授業の形式・方式	演習方式		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	MATLAB, ワークスペース、大数の法則及び中心極限定理、輸送問題、待ち行列、ファジィ推論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	MathWorks社の数値解析ソフトウェアMATLABのプログラミング手法をマスターすると同時に、学科専門科目におけるいくつかのトピックを取り上げ、解法またはシミュレーションのプログラムを作成し、その理解と応用力を高める。		
授業の内容	まずは、指定のテキストを参考に、MATLABプログラミング手法をマスターする。次に、2-3人グループ単位で、指定のトピックを文書でまとめたうえ、その解法のアルゴリズムを明確し、シミュレーションで検証する。なお、毎回出席チェックの代わりに、プログラミング進捗状況の確認を、一人ずつか、グループ単位で行う。		
成績評価の方法	課題レポート50%、質疑応答50%の割合で総合評価する。		
テキスト	上坂吉則、「MATLABプログラミング入門」（改定版）、牧野書店（2011）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報シミュレーション		
担当教員氏名	錦織 昭峰		
研究室の場所	広島キャンパス 1643研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときにはいつでも可		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、配付資料に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	シミュレーション・モデル。モデル時間処理。シミュレーション言語。最適化ソフトウェア。スプレッドシート。マネジメントゲーム。特許の取得。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	複雑な経営情報の問題に対応する際に不可欠になっている、コンピュータによるシミュレーションについて理解できる。最近の話題を理解できる。シミュレーションに関する設計・システム運営ができる情報化推進者としての能力を養うことができる。		
授業の内容	(少人数の学生ならば)学生との講義中の対話を通じて、アクティブ・ラーニングを行う。授業でふれる項目は主に以下のとおりである。最近の話題。工学的方法論。MOT (Management of Technology) 教育の実践例。天気・気候予測と地球シミュレータ。空港システムと旅客機戦略。シミュレーションモデルの分類とシミュレーションの手順。モデルの時間処理の方法。シミュレーション言語。モンテカルロシミュレーションによる待ち行列現象の解析。在庫管理問題のためのシミュレーション。最適化ソフトウェア Fico Xpress による演習。社会システムのためのシミュレーション技法であるシステムダイナミックス。ゲームを行いながら経営における意思決定を学べるビジネスゲームとマネジメントゲーム。大規模なスプレッドシートを用いた大学成績処理のデータ構造。スプレッドシートのためのまばらなデータの表示法。		
成績評価の方法	中間試験(40%)，期末試験(40%)，演習のレポート(20%)で評価する。これが原則であるが，授業への積極的な参加なども含めて総合的に判断する。試験は指定された教室（試験室）内で，持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	講義資料はその都度配付する。		
参考文献	吉田茂著「経営情報学講座13 経営シミュレーション」，オーム社。錦織昭峰，特許「スプレッドシートによる，まばらな文字列データの表示法」，特許出願番号 平成18年 特願2006-51149，特開2007-207204。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は，配付資料をざっと読みして授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は，正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。		

授業科目名	サプライチェーン戦略論		
担当教員氏名	広谷 大助		
研究室の場所	広島キャンパス 1634研究室		
オフィスアワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義につき1 or 2章の講義を想定し、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。また、何回かはビジネスゲームの一種であるビールゲーム及びコンピュータ演習室にてロジスティクスゲームを行う。ほぼ毎週課題を課し、決められた日時までに提出させる。学生は授業に出席し、与えられた課題を提出し、試験を受けることが義務付けられる		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科 3年次，経営情報学科 3,4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	サプライチェーン，ロジスティクス，ロットサイズ，スケジューリング，在庫，リスク管理，ビールゲーム，ロジスティクスゲーム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	前期の経営情報システム開発論を受けて供給者から顧客までの一連のつながりを1つの鎖とみなし全体最適化を図るサプライチェーンに対してどのような問題が存在し、どのような戦略が取り組まれ最適化を図っているかを理解することを目的とする。受講者は数名のグループを組み、実際にビールゲーム及びロジスティクスゲームを行い体験することによってもサプライチェーン最適化の難しさを理解する		
授業の内容	サプライチェーンに対して最初サプライチェーンに対する概要を説明した後、種々のサプライチェーンに関連したモデル及び戦略について説明する。その後、最新のトピックスについて述べる。また、小売店、一次卸、二次卸、工場から構成されるビールゲーム及び工場、流通センター、販社から構成されるロジスティクスゲームをグループで行う		
成績評価の方法	期末試験60%、課題レポート40%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、A4用紙1枚のメモ書き（手書きに限る）持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポート（宿題）の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は回によって異なるためその都度指示する		
テキスト	久保著，サプライチェーンの最適化の新潮流，朝倉書店，2011年		
参考文献	特に指定しない		
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	知的生産システム論，経営情報システム開発論を受講しておくことより理解が深まりますが必須ではありません		

授業科目名	意思決定論		
担当教員氏名	韓 虎剛		
研究室の場所	広島キャンパス 1636研究室		
オフィスアワー	火曜日 13時から14時30分、場所は研究室		
授業の形式・方式	対面授業方式で授業を進めるが、パソコンによる実習をも重視する。毎回レポート課題を課し、次回の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ゲーム理論、ベイズ定理、デシジョン・ツリー、ポートフォリオ選択論、ファジィAHP		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	経営＝意思決定。高度情報化社会の中で、様々な情報処理技法を駆使した意思決定はますます重要視される。本科目の目標は、代表的な意思決定手法を理解させる上、実際にプログラムを駆使してその応用力に重点に置く。		
授業の内容	意思決定に際して、意思決定の手法が重要であると同時に、用いる情報の処理能力も不可欠である。本授業では、代表的な意思決定手法を説明しながら、MATLABで実際にプログラムを組ませて、その応用力を高める。予定するトピックスは以下の通りである。決定分析、在庫決定分析、ポートフォリオ選択理論、ゲーム理論、ベイズ定理、ファジィAHPなど。		
成績評価の方法	課題レポート30%，テスト70%で総合評価する。		
テキスト	資料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営データ解析論		
担当教員氏名	岡部 正幸		
研究室の場所	広島キャンパス 1567研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。配布資料に沿って講義・演習を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）		
キーワード	リレーショナルデータベース, SQL, データ定義言語, データ操作言語, データ制御言語		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、リレーショナルデータベース操作言語SQLのプログラム作成演習を実際のデータベース管理システムを用いて行い、データベース操作に関する基本技術の習得を目標とする。この科目は、経営情報学科の学科専門科目における情報処理系科目に位置づけられている。		
授業の内容	リレーショナルデータベースの操作（テーブルの作成・更新・削除、データの問い合わせ、トランザクション制御）に関するSQLの基本構文の説明と練習問題によるSQL文の作成演習を行う。		
成績評価の方法	演習に対する取組姿勢50%、課題レポート50%に基づいて評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	ミック著、「SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作」、翔泳社、2016 その他、必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	応用情報システム開発論		
担当教員氏名	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義形式で授業を実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	システム開発、設計、オペレーティングシステム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業は、情報システムの基礎知識を習得済みの学生を対象に、民間企業、あるいは公共団体における情報システムの構築に関わるアプローチについての基本的な考え方や技法を修得することを目的とする。具体的には、オペレーティングシステムの核技術に特に焦点を絞り詳述する。		
授業の内容	積極的にICT化が進められる中、民間企業、公共団体を問わず様々な組織に置いてその目的に応じた情報システムを設計、構築することが必要となっている。しかしながら、どのような組織の情報システムに置いても一貫したプロセスの排他制御やデータ保護などの技術については確立された基礎技術のもとに構築される。本講義では、これらの現状を踏まえ、情報システムの基本概念や核技術を習得するために、一般的なオペレーティングシステムに採用される技術について取得する事を目的とする。		
成績評価の方法	期末試験70%、出席状況と課題レポート30%の割合で評価する。レポートについては授業の進行に合わせて随時、課題を課す。		
テキスト	教科書は特定のもの指定しない。		
参考文献	参考文献：前川守「オペレーティングシステム」〈4000103466〉 その他の参考書については適宜、授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習、復習をしっかりと行い、学習内容の位置付けを常に意識すること。		

授業科目名	情報リスクマネジメント		
担当教員氏名	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義・演習併用形式で授業を実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報システム、情報リスク、ウェブサイト攻撃、コンピュータウィルス、情報漏洩、法務リスク、セキュリティポリシー、情報セキュリティの国際標準、セキュア開発		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	情報化プロジェクト論は、企業等におけるICT（情報通信技術）の導入に関する諸問題について学ぶ。特に、社会においてICT化が急速に進む一方で、急増する情報システムに起因するトラブルやリスクに重点を置くことで、将来大規模な情報システムの管理・開発プロジェクトに関わった際に必要となる基礎的な知識を身につけることを目標とする。		
授業の内容	企業等において急速にICTの導入が進められるに伴い、導入した情報システムが扱う情報の種類もまた多種多様なものとなっている。このような状況では、情報システムの不備／トラブルに起因して意図しない情報が漏洩してしまう、あるいは不正に情報が改ざんされるなどといった情報リスクをいかにして回避あるいは軽減するかが重要となる。講義では、このような情報リスクの種類とその脅威などを実際の事例を取り上げて紹介するとともに、どのように情報リスクを軽減するのかといった情報リスクマネジメントの手法について解説する。また、授業の後半の回を使用して、セキュア開発に関する演習も実施する。		
成績評価の方法	期末試験70%、演習課題30%により総合的に判断する。		
テキスト	各授業の開始時に必要となる資料を適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義は、実社会における情報システムに関連する内容を取り扱うため、日頃から情報システムに関するニュース等を興味を持って積極的に読む習慣をつけることが望ましい。		



授業科目名	応用確率システム論		
担当教員氏名	生田 顯		
研究室の場所	広島キャンパス 1661研究室		
オフィスアワー	金曜日9時～17時, 場所は担当教員室		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	確率システム, 実現象, 不確実・不規則性		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は, 学科専門科目における経営情報系科目の一つとして, 確率システムのモデリングや推定・予測・制御(マネジメント)の理論と応用について学習することを目的とする。具体的には, 実現象をモデル化する際に考慮すべき不確実性や不規則性に対し, いかに取り組むべきかの基本的考え方を中心として平易に解説する。また, 実際のシステムに应用する際のポイントについても, 実例を交えて詳述する。さらに, 高度の方法論を学習する上での基礎となる予測と制御の導入について述べる。		
授業の内容	社会・経済・環境など, 実際の現象はさまざまな不規則要因を含んでいることから, その解析においては確率的取り扱いが必要になる。本講では, このような実現象を確率システムとして捉え分析するためのモデリング手法について, 一般論の立場から講述する。さらに, 現代の経営戦略においては, 環境コストを組み入れ考慮することが不可欠であることから, 特に, 確率環境システム(音・振動・電磁環境)を一具体例として採り上げ詳述する。		
成績評価の方法	期末試験, 出席状況, 課題レポート3で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で実施する。レポート課題は授業の進行に合わせて随時, 提示する。		
テキスト			
参考文献	参考書: 石村貞夫著「すぐわかる多変量解析」東京図書, 藤沢偉作「楽しく学べる多変量解析」現代数学社, M. R. Spiegel, J. Schiller, R. A. Srinivasan著 Probability and Statistics "McGRAW-HILL"		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業では, 入門から高度の内容までを平易に解説する。授業中の雑談や試験中の不正行為はもちろん禁止(当然のこと)。		

授業科目名	プログラミング		
担当教員氏名	宇野 健		
研究室の場所	広島キャンパス 1550研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可 (週間スケジュールを研究室前に掲示)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、宿題(レポート課題)を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象。情報科学の基礎とコンピュータの基本操作を習得しておくこと。		
免許等指定科目	高一種免(情報) 必修		
キーワード	プログラミング, C言語, データ構造, アルゴリズム, フローチャート		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、C言語の例題プログラムを元に、プログラミングの基礎を習得することを目的とする。到達目標は、基礎的なレベルのアルゴリズムの理解と、初級レベルのプログラムを独力で作成することが可能となることを想定している。そのため、プログラムの基本的なアルゴリズム、データ構造や、フローチャートでの表現などを中心とした講義をおこなう。また、デバッグや可読性の高いコーディング技術などのソフトウェア開発の基本スキルを身に付けることも目的としている。よって、座学だけではなく、実際にコンピュータとコンパイラを用いた演習もおこなう。なお、本科目で利用するC言語は、現在ソフトウェア開発で用いられているほとんどの言語のベースであり、IPAの基本情報処理技術者試験の出題範囲にも含まれている。この出題内容の理解も本科目の到達目標の一つである。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。		
授業の内容	プログラミングは、コンピュータのソフトウェアやアプリを作成する作業を意味する。プログラミングを理解することは、コンピュータそのものの動作を理解することといえる。本科目では、プログラミングの基礎知識の習得と、実際のプログラミングスキルの取得を目的としている。そのため、各回の授業の前半にPowerPointを用いた通常講義、後半に実際にコンピュータを用いての演習をおこなう。授業で利用するプログラミング言語は、C言語である。C言語は現在主流の殆どの言語のベースであり、多くの大学や企業で、プログラミングの基礎教育に取り入れられている。前半の通常講義のパートでは、一般的なプログラムの書き方(書式)やデータ構造、制御構造、アルゴリズム(手順)などを、PowerPointの資料等を活用して詳説する。その他、アルゴリズムの理解のため、フローチャートによる表現方法を習得する。プログラミングに密接に関係するハードウェアについても、CPUやメモリなど、プログラミングとの関わりが深い部分を中心に学習する。後半の演習パートでは、前半に習得した内容の理解と、スキルの習得のため、プログラミング演習をおこなう。実際にアルゴリズム等からソースプログラムを作成し、そのコンパイル・デバッグ・実行等をおこなう。また、毎回プログラム作成課題を出すことにより、より確実な理解を目指す。詳細は、毎回の授業で利用するWebテキスト上に公開する。		
成績評価の方法	試験70%、課題レポート・小テスト等30%の割合で評価する。レポートは文書とコンテンツとしての提出の他に、作成したソースプログラムなどを提出させる場合がある。各レポートの提出期限は、通常、次回授業の前日とする。レポートの提出方法は、内容により異なるが、文書として提出する場合は電子メール、それ以外は講義中に指示する。 なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。なお、2回予定している試験を無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。		
テキスト	本科目専用のWebサイト ( <a href="http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/">http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/</a> ) を利用する。また、毎回の講義において、演習問題のプリントを配布する。		
参考文献	授業中に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	コンピュータの基本操作や基本原理等を理解しておくこと。特に情報処理入門と情報科学入門の復習をしっかりとしておくこと。 授業内容の理解のためには、授業時間外の自学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mail、動画解説サイトなどを効果的に活用し、自学習のサポートの充実を図る。		

授業科目名	プログラミング演習		
担当教員氏名	宇野 健		
研究室の場所	広島キャンパス 1550研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可（研究室前に掲示）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、宿題（レポート課題）を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象。『プログラミング』を履修しておくこと。		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	プログラミング, GUI, オブジェクト指向, JavaScript, Webアプリケーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、『プログラミング』で基本を身に付けたプログラミング力の向上と、近年主流のWebプログラミングの基本を習得することである。詳細な習得目標としては、GUI（Graphical User Interface）プログラミング、Webプログラミングの概念、クライアントサイド・プログラミング、オブジェクト指向の概念、サーバサイド・プログラミングが挙げられる。そのため、演習には、Webのインターフェースを構築する際に不可欠なスクリプト言語であるJavaScriptを主として用いる。JavaScriptはC言語をベースとした言語であるため、『プログラミング』で習得した知識とスキルの多くを活用することができる。 さらに理解を深めるために、前半20分のPowerPointによる事前説明、終了前の演習の補足説明等を入れる。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。		
授業の内容	授業はコンピュータ演習室でおこなう。プログラミングの基礎については、『プログラミング』で習得済みだが、授業の前半数回は、『プログラミング』の復習的な内容も含めておこなう。まず、WebプログラミングのGUIインターフェースとなるHTMLの演習をおこなう。次にJavaScriptによるWebプログラミングの基礎を習得する。前半は『プログラミング』の内容の復習と応用を演習し、基礎的なプログラミング能力を習得する。この際、主にJavaScriptによって演習をおこなう。JavaScriptの基本はC言語そのものであるため、C言語との共通点や、相違点等により理解を深める。後半は、JavaScriptを用いたクライアントサイド・プログラミングの演習をおこなう。これにより、WebアプリケーションやGUIプログラミングのインターフェースの構築、オブジェクト指向の習得等をおこなう。最後にサーバサイド・プログラミング演習として、PHPを用いたWebアプリケーション開発をおこなう。最終的には、与えられた条件から、自力でアルゴリズムの考案やソースの作成などをおこない、実行・修正までをこなすことが可能な能力を身に付ける。詳細は、シラバス等に随時掲載する。		
成績評価の方法	試験70%、小テスト・レポート等30%の割合で評価する。欠席に関しては、1回ごとに減点する。試験を無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。		
テキスト	教科書 本科目専用のWebサイト ( <a href="http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/">http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/</a> ) を利用する。また、毎回の講義において、プリントを配布する。		
参考文献	授業の際に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	C言語をベースとした言語を扱うため、『プログラミング』を履修していることが望ましい。授業内容の理解のためには、授業時間外の自学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mail、動画解説サイトなどを効果的に活用し、自学習のサポートの充実を図る。		

授業科目名	コンピュータ概論		
担当教員氏名	生田 顯		
研究室の場所	広島キャンパス 1661研究室		
オフィスアワー	金曜日9時～17時、場所は担当教員室		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	コンピュータ, ハードウェア, 情報処理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、学科専門科目における情報処理系科目の一つとして、コンピュータの概要について学習することを目的とする。具体的には、「情報処理入門」「情報科学論」に引き続き、特にコンピュータの仕組みや役割に焦点を絞り詳述する。さらに高度の情報処理系科目を学習する上での基礎となる。		
授業の内容	コンピュータを円滑に活用・運用するためには、コンピュータの仕組みやコンピュータ内部の働きなどハードウェアに関する知識が必要である。本講では、トランジスタなど電子回路の基礎から論理回路について、さらにコンピュータを構成している演算装置、制御装置、記憶装置について講述する。また、コンピュータを利用した情報処理の原理を理解するため、各種インターフェイスやAD/DA変換および信号処理の基礎についても概説する。		
成績評価の方法	期末試験、出席状況、課題レポートで評価する。試験は指定された教室（試験室）内で実施する。レポート課題は授業の進行に合わせて随時、提示する。		
テキスト			
参考文献	参考書：橋本・松永・小澤・木村共著「コンピュータ概論」オーム社、佐藤著「信号処理入門」オーム社、三井田著「情報工学概論」森北出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	コンピュータの仕組みを知ることは、コンピュータを使いこなす上で重要なことである。授業中の雑談や試験中の不正行為はもちろん禁止（当然のこと）。		

授業科目名	情報システム論		
担当教員氏名	折本 寿子		
研究室の場所	広島キャンパス 1617研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約を入れると確実です）		
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に従って、各章に関する内容を講義と演習を交えて行う。講義内容に応じて課題を出し、内容の理解を深める。学生は課題をしっかりと理解することと、試験を受けることで達成状況を確認する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	情報システム、情報処理、ハードウェア、ソフトウェア、システム開発（要件定義）		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、学科専門科目における情報処理系科目の一つとして、ソフトウェア開発の側面から情報処理手法について学ぶことを目的とする。具体的には、「情報」と「システム」に対する概念を学び、システム及びビジネスワークフローを明確にし、システム構築を行う技術を身に付けることを目標とする。		
授業の内容	システムという概念を情報システムに焦点を絞って学習する。まず、情報とシステムに対する概念を学び、現在提供されている情報システムとソフトウェア・ハードウェアとの関連を学習する。最終的に情報システム構築の上流工程である要件定義を演習形式で実施する。		
成績評価の方法	試験・課題レポート90%、授業への取り組み姿勢10%の割合で評価する。試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポートの課題及び提出期限は授業の中で提示する。		
テキスト	「情報システム学入門」 黒川 利明著 牧野書店		
参考文献	「入門 情報システム学」 飯島淳一著 日科技連		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は、前回授業の内容をよく理解し、次回の予習を行い授業に臨むこと。		

授業科目名	数理情報論		
担当教員氏名	折本 寿子		
研究室の場所	広島キャンパス 1617研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約を入れると確実です）		
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に従って、各章に関する内容を講義と演習を交えて行う。講義内容に応じて課題を出し、内容の理解を深める。また、場所はパソコンの使える演習室で行う。学生は課題をしっかりと理解することと、試験を受けることで達成状況を確認する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	MATLAB, 行列, データ解析, 統計処理, グラフィックス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、ソフトウェア（MATLAB）を用いてデータを計算・解析し、演算等をコンピュータを利用して学習する。同時に、プログラムの構造を学ぶ。		
授業の内容	情報処理とは、収集したデータを人間が利用しやすいように、解析・加工し活用することである。講義では、コンピュータを用いてデータや情報を収集、計算・加工処理し、伝達するための情報処理の諸概念、情報とデータ、データの表現とデータ構造、アルゴリズム、コンピュータの機能と情報処理、プログラミング言語、アプリケーションソフト、演算、ファイル、グラフィックスについて解説する。		
成績評価の方法	試験60%、課題レポート30%、授業態度10%の割合で評価する。試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポートの課題は授業の中で提示する。各レポートの提出期限は、原則、次回授業の前日とする。		
テキスト	授業の中でプリントを適宜配布する		
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）	履修者は、授業の前に教科書の該当する箇所を予習し、授業に臨むこと。		

授業科目名	視覚情報処理論		
担当教員氏名	肖 業 貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時（在室のときはいつでも可），場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って，主に下記の教科書・参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	視覚情報処理，デジタル画像，画像処理，静止画，動画，3原色原理，カラー画像，画像圧縮，Biometrics，顔画像の処理，Matlab Programming		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は，情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて，情報科学の重要な分野として，視覚情報処理・画像処理の基礎，特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに，演習を通して画像処理の基本技法を体験する。		
授業の内容	視覚情報は，人間が処理・利用する最も大事な情報の一つである。その形成，処理，応用に関する研究開発が近年大きく進展し，特に知能的マンマシンインタフェースにおいては極めて重要なものである。本講義では，まず生物の視覚情報処理の基礎を紹介し，画像による視覚情報処理モデルについて述べる。次に，デジタル画像の形成と処理の基本技法を詳述する。最後に，デジタル画像処理の最新応用として，近年注目されている顔識別(Biometrics)による個人認証セキュリティ技術について述べる。		
成績評価の方法	4回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題と期末試験は60%，演習への取り組みは40%の割合で，出席状況も考慮して，総合的に評価する。各課題の提出期限は，通常，次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については，授業時間内に指示する。		
テキスト	特に指定しないが、授業中にプリントをまめに配布する。		
参考文献	参考書：酒井『ディジタル画像処理入門』コロナ社，1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館，1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂，2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社，2002。谷口『画像処理工学』共立出版，1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店，1997。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	基礎から講義するので，特に受講しておく科目がない。予習・復習を行い，積極的に演習に取り組むこと。		

授業科目名	データベース論		
担当教員氏名	岡部 正幸		
研究室の場所	広島キャンパス 1567研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。配布資料に沿って講義を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	リレーショナルデータベース，SQL，正規化，データモデリング，トランザクション，同時実行制御		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>情報システムの構築において，データベースによるデータ管理は必要不可欠な機能である。この科目では，データベースの中でも実社会において広く利用されているリレーショナルデータベースに関する講義を行い，データベースの構築・操作に関する基礎理論および基盤技術に関する知識の習得を目標とする。</p> <p>この科目は，経営情報学科の学科専門科目における情報処理系科目に位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>リレーショナルデータベースに関するデータモデル，データ操作のための代数演算，操作言語SQL，データの正規化，データモデリング，管理システム，トランザクションと同時実行制御，障害回復などについて講義する。また，分散データベース，データベースの応用分野についても触れる。</p>		
成績評価の方法	期末試験50%，課題レポート50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	<p>三石大・吉廣卓哉 編著，「データベース-ビッグデータ時代の基礎-」，共立出版，2014          増永良文 著，「リレーショナルデータベース入門（新訂版）」，サイエンス社，2003          その他，必要に応じて紹介する。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	情報システム実験		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563 研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時（在室のときはいつでも可）， 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の実験指導書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。実験1回に対し学生の自習2時間を想定した授業を行う。毎週宿題を課し、次週の実験開始時に提出させる。学生は、実験への出席と課題が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	情報システム，コンピュータハードウェア・ソフトウェア，パソコン組み立て，ソフトウェア追加・削除，Matlab Programming，サンプリング定理，量子化，時系列解析，自己回帰（AR）モデル，モデル推定，データ予測		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、情報システム分野の基礎として、コンピュータハードウェア・ソフトウェアに対する理解を深めるため、パソコンの解体・組み立て、ソフトウェアの追加・削除をまず実施する。さらにデジタル信号・情報処理に係るいくつかの基礎的かつ重要な問題に対してプログラミングを行ってシミュレーションし、ソフトウェアへの理解を深める。		
授業の内容	本実験は、「情報処理論」「情報システム論」「コンピュータ概論」等の一連の講義との関連において行なわれるもので、ハードウェアとソフトウェアの両方を体験させると共にそれらの基礎を身に付けることを目的とする。 具体的実験内容は次のとおりである：(1)PC組み立てによるハードウェアの体験，(2)アプリケーション等のインストールと活用，(3)デジタル情報システム実験（プログラミングの演習を含む），(4)実時間情報システムシミュレーション実験など。		
成績評価の方法	4回以上の欠席は評価の対象外とする。課題や小テストは60%，実験への取り組みは40%の割合で、出席状況も総合して、評価する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	指導書を読んでしっかり予習・復習すること。実験課題に積極的に取り組むこと。		
参考文献	必要な場合は、授業に初日に提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	マルチメディア概論		
担当教員氏名	宇野 健		
研究室の場所	広島キャンパス 1550研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可（研究室前に掲示）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、宿題（レポート課題）を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象。情報科学の基礎とコンピュータの基本操作を習得しておくこと。		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	マルチメディア、コミュニケーション、人間の視覚特性、2次元CG、3次元CG、Web、インターフェース、コンテンツ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、コミュニケーションに大きな影響を与えるマルチメディアの基本概念を習得することである。特に、各メディアの特徴を考慮した情報のデザインの考え方や、各メディアの特性や利用技術等の基本の習得を主目的とする。そのため、身近な例を取り上げ、最新のトピックスと共に理解を深める。また、座学だけでは理解が困難な画像処理やアニメーション作成等については、コンピュータ実習室におけるマルチメディア系ソフトウェアの演習などを併用することによって理解を深める。さらにプログラミングを利用した演習をおこなうことにより、マルチメディアとコンピュータとの関係についての知識とスキルの習得も目的の一つとする。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。		
授業の内容	コンピュータ技術の進化と、インターネット(特にWeb)の普及は、マルチメディアをより身近な存在にした。ビジネスにおけるプレゼンテーションやWebシステム等のインターフェース部分においては、その利用が必要不可欠となっている。マルチメディアは、人間と人間のコミュニケーションの手段である。そのため、まずコミュニケーションの概念や、人間の感覚（特に視覚）の特性、コミュニケーションデザインの概念などについて講義する。そして現在主流となっている各メディアの特徴、現状、コンピュータにおける取り扱いなどについて講義する。特にマルチメディアの中核をなす、画像処理技術については、PhotoshopやFlash等のソフトウェア演習などを織り交ぜながら講義を進めていく。また、昨今インターネットやデジタル家電等の普及等で顕著になってきた、コンテンツの著作権問題や次世代技術などについて、最新のトピックスを織り交ぜながら詳説する。さらに、現在最も身近なマルチメディアであるWebについても、マルチメディア・コンテンツのメディア比較や開発方法について言及する。加えてWebユーザビリティやアクセシビリティなど、Webインターフェースの評価技法などの基礎も習得する。詳細は、シラバス等に随時掲載する。		
成績評価の方法	試験60%、課題レポート30%、授業での質問対応10%の割合で評価する。レポートは文書としての提出の他に、作成したコンテンツなどを提出させる場合がある。各レポートの提出期限は、通常、次回授業の前日とする。レポートの提出方法は、内容により異なるが、文書として提出する場合はメールで、それ以外は講義中にそれぞれ指示する。 なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合と、試験を1回でも無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。		
テキスト	Webテキスト ( <a href="http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/">http://mis.pu-hiroshima.ac.jp/</a> ) とパワーポイントのスライドを利用する。毎回授業開始までに、その回のパワーポイントのスライドをプリントアウトして持参すること。		
参考文献	授業中に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業内容の理解のためには、授業時間外の学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mail、動画解説サイトなどを効果的に活用し、サポートの充実を図る。		

授業科目名	マルチメディア演習		
担当教員氏名	宇野 健		
研究室の場所	広島キャンパス 1550研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可（研究室前に掲示）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、宿題（レポート課題）を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象。		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	Flash, アニメーション, ActionScript, GUIプログラミング, Webアプリケーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、マルチメディア・コンテンツの製作実習を通じて、インタラクティブ（双方向性）なマルチメディアの開発技術の習得をおこなうことである。そのため、Web上マルチメディア・コンテンツ開発で良く用いられている、Adobe社のFlashを用いたコンテンツ開発演習をおこない、アニメーション等の基本的から応用までの技法の習得をおこなう。また、専用言語であるActionScriptを用いてオブジェクトやアニメーションを制御することにより、インタラクティブなマルチメディア・アプリケーションの開発をおこなう。最終的には個人ごとにマルチメディア・アプリケーションの提案、設計、開発までを行い、実用的なアプリケーションの作成を目指す。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。		
授業の内容	現在、様々な分野でマルチメディアの活用が進んでいるが、最も身近で、先進的に利用されている分野がWebである。この講義では、Web上のマルチメディア・コンテンツ開発では事実上の標準となっているFlashを用いる。まず、Flashによる様々なアニメーション作成技法を習得する。特にレイヤーの概念、シーンとシンボルなど、画像処理やアニメーション作成の基本となる部分を重点的に演習する。次に、インタラクティブなコンテンツの作成のため、ECMAScriptベースのFlashの標準スクリプト言語である、ActionScriptを用いたコンテンツ作成演習をおこなう。MovieClipというFlash独特の概念から、イベントやイベントハンドラといった、GUIプログラミングの基本概念を習得し、演習を通して開発スキルを身に付ける。また、Flashと、サーバサイド・プログラミングを組み合わせ、マルチメディアWebアプリケーションの開発演習を行う。最終的にこれらの技術を用いた、オリジナルのマルチメディアコンテンツ制作を最終レポートの課題とする。		
成績評価の方法	試験40%、課題レポート40%・小テスト20%の割合で評価する。レポートは文書としての提出の他に、作成したソースプログラム、コンテンツなどを提出させる。レポートの提出方法は、講義中にそれぞれ指示する。 なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。試験を無断で受験しなかった場合と、最終レポートを無断で提出しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。		
テキスト	本科目専用のWebサイトを利用する（ <a href="http://mis.pu-hiroshima.ac.jp">http://mis.pu-hiroshima.ac.jp</a> ）。		
参考文献	授業中に指示する		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	Flashのプログラミング言語はJavaScriptとほぼ同じ仕様であるため、『プログラミング演習』を受講済みであることが望ましい。授業内容の理解のためには、授業時間外の自学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mailなどを効果的に活用し、自学習サポートの充実を図る。		

授業科目名	インターネットアプリケーション		
担当教員氏名	佐々木 宣介		
研究室の場所	広島キャンパス 1545研究室		
オフィスアワー	毎週木曜日4時限目。場所は担当教員研究室。これ以外の時間でも可能な限り対応するのが、事前にメール等で在室時間を確認すること。		
授業の形式・方式	対面授業。主な内容は資料として配布し、その内容をもとに演習を行う。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	ネットワークプログラミング、サーバ・クライアントシステム、Webサービス、サーバ構築		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は経営情報学科専門科目で情報処理系科目に位置づけられるものである。基本的なネットワークプログラミングを理解すること、ネットワークを通じてサービスを提供するさまざまな情報システムについて、演習によって理解を深めることが目標である。本科目は、C言語によるプログラミングに関する基礎的な講義・演習は履修済みであることを前提としている。また、コンピュータネットワークに関する基本的な知識は習得済みであることが望ましい。		
授業の内容	インターネット上、特にWebのサービスで使われる技術を中心に演習を行なう。まず、簡単なネットワークプログラミングの作成実習を行う。それにより、ネットワークプログラミングの基礎の習得や、クライアント・サーバシステムの基本的手法の理解を目指す。次に、Webサービス上で使われる技術を題材にして、複数のソフトウェアの連携によってクライアントにネットワークを通じてサービスを提供するシステムの構築演習を行ない、インターネットで使用されるWebアプリケーションシステムの構築・運用の基本を習得する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。演習への取り組みで20%程度、演習課題・レポート等で80%程度の割合として総合的に評価する。		
テキスト	参考文献を必要に応じて紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	情報ネットワーク論		
担当教員氏名	陳 春祥		
研究室の場所	広島キャンパス 1565研究室		
オフィスアワー	随時、メールで予約してください。		
授業の形式・方式	対面授業。講義に関連する宿題（レポート課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。履修者は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	情報ネットワーク、インターネット、通信プロトコル、サーバ/クライアント、IPアドレス、アクセス方式、LAN/WAN接続		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、経営情報学科2年の学生を対象にして、情報ネットワーク（とりわけインターネット）の概念、アーキテクチャ、接続原理及び各種のアプリケーションについて体系的に講義する。本授業を通じてネットワーク上で展開される多彩なサービス機能だけでなく、これらの機能を支える技術等に関する基礎的内容を履修者に理解させ、ネットワークの活用を身につけてもらう。本科目は高等学校教諭1種免許状（情報）に係る必修科目の1つと位置づけられている。		
授業の内容	情報ネットワークの仕組み、技術、利用などに関する基礎知識を系統的に講義する。まず、ネットワークの設計、構築の際に基礎となる階層（レイヤー）化アーキテクチャの概念、各レイヤーの機能及びプロトコルについて述べる。そして、これらの機能を利用してどのようなネットワークサービスが可能であるかを紹介する。更に異なるネットワーク間の相互接続技法などをとりあげる。最後にインターネット（TCP/IP）を中心に展開される多彩な通信機能及び各種のネットワーク型ビジネスモデルについて学ぶ。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポート（宿題）、授業中の質問応答等30%の割合で評価する。3分の1以上の欠席があったら成績評価外とする。試験は指定された教室（試験室）内で、試験日の授業時間（90分）内、持ち込み不可で実施する。課題レポート（宿題）は授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の開始時までとする。またレポートの作成に文献や資料等を自由に参考してよい。		
テキスト	池田 博昌, 山本 幹:「情報ネットワーク工学」, オーム社		
参考文献	松下温、重野寛、屋代智之:「コンピュータネットワーク」、オーム社。 関根 勤:「ネットワークの考え方」、オーム社。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は授業前の予習と後の復習、そしてレポート（宿題）を通じて授業内容の理解を深めること。 この科目は、3年次の「情報ネットワーク実験」、「ネットワーク管理論」を履修する要件になっている。		

授業科目名	ネットワーク管理論		
担当教員氏名	陳 春祥		
研究室の場所	広島キャンパス 1565研究室		
オフィスアワー	随時、メールで予約してください。		
授業の形式・方式	対面授業。講義に関連する宿題（レポート課題）を課し、次週の授業開始時に提出する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	TCP/IP, LAN, WAN, ネットワーク機器, ネットワークセキュリティ, SNMP, VPN		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	インターネットの標準プロトコルTCP/IP (IPv4) について基礎的理解を深めて、ネットワークの運用・管理に必要な実践的な知識の習得を本科目の目標とする。		
授業の内容	本講義では、LAN・WAN設計構築及び運用管理に必要な基礎知識を習得し、ネットワーク管理の技法について学ぶ。具体的にはネットワークアーキテクチャ、ネットワークの設計技法、ネットワーク管理プロトコル、ネットワーク障害分析と信頼性評価、ネットワークセキュリティ、安全・安心ネットワークの考え方と構築技法、ネットワークの運用と付加価値ネットワークなどについて演習と講義を通じて学習する。		
成績評価の方法	授業中の討論などへの取り組みを重視し、宿題及び期末レポート等で総合的に評価する。		
テキスト	テキストについては、必要に応じて、授業前にてプリントを配布する。		
参考文献	参考文献等は授業中適宜に指定する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「情報ネットワーク論」の単位を習得していなければ履修できない。 「情報ネットワーク実験」を履修していることが望ましい。		

授業科目名	情報ネットワーク実験		
担当教員氏名	陳 春祥		
研究室の場所	広島キャンパス 1565研究室		
オフィスアワー	随時、メールで予約してください。		
授業の形式・方式	実験・演習科目で一人又は少人数で各回の実験課題に取り組み、設計・構築、実験等の結果をレポートにまとめて提出する。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）必修		
キーワード	TCP/IP, LAN設定構築, IPアドレス, スイッチ, ルーティング（経路制御）, アクセス制御		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	実験・演習を通じて、「情報ネットワーク論」で習得した基礎知識・技術を深め、情報ネットワークに関わる応用力、実践力及びネットワークトラブル解決の能力を育成する。		
授業の内容	本実験では、「情報ネットワーク論」と相俟って、ネットワークに関する実践力を身につけることを目的としている。まず、TCP/IPベースのネットワーク設計、構築から着手し、ネットワークへの接続、ネットワークアドレス管理、経路制御などの実験を通して、各種のソフトウェア・ハードウェアの運用・構築に必要な実技を学ぶ。更にインターネットで行なわれている代表的なサービスを取り上げ、実際にこれらのサービスを提供するサーバを構築してみる。またネットワーク障害などを想定し、実験を通じてネットワークの実践力を高める。		
成績評価の方法	課題レポート、授業中の質問応答および期末試験等で総合的に評価する。		
テキスト	テキストについては毎回授業にてプリントを配布する。		
参考文献	参考文献等は授業中適宜に指定する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	2年次の「情報ネットワーク論」の単位を習得していなければ、履修できない。		

授業科目名	情報セキュリティ論		
担当教員氏名	佐々木 宣介		
研究室の場所	広島キャンパス 1545研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日2、3時限目。場所は担当教員研究室。これ以外の時間でも可能な限り対応するのが、事前にメール等で在室時間を確認すること。		
授業の形式・方式	対面授業。主な内容は資料として配布し、その内容をもとに講義を行う。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免（情報）選択		
キーワード	セキュリティマネジメント、コンピュータネットワーク、暗号化、電子認証、個人情報保護、セキュリティポリシー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は経営情報学科専門科目で情報処理系科目に位置づけられるものである。近年、情報セキュリティの問題は、コンピュータウイルス、不正アクセス、個人情報保護等の問題もあつてますます重要性が増している。本科目では情報セキュリティに関する基本的事項について、技術面、管理運用面等の幅広い視点からの理解を深めることが目標である。		
授業の内容	今日の情報化社会の中でますます重要となつてきている情報セキュリティに関する基本的な内容を技術的側面とマネジメント的側面の両面から幅広く学習する。コンピュータウイルスの問題、不正アクセス等、ネットワークを介して行なわれる攻撃とその対策といった情報機器に関係した技術的内容、組織における情報セキュリティ確保のためのマネジメント的内容を含む。また、情報セキュリティポリシーの考え方や個人情報保護の視点等から、情報セキュリティが社会に与える影響についても解説を行なう。		
成績評価の方法	レポート（1回）で30%程度、期末試験の結果を70%程度の割合で総合的に評価する。		
テキスト	参考文献を必要に応じて紹介する。		
参考文献			
備考 （履修上のアドバイス・ 禁止行為等）			



授業科目名	ソフトウェア開発管理論		
担当教員氏名	重安 哲也		
研究室の場所	広島キャンパス 1638研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義形式で授業を実施する。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	プログラミング言語処理系, 字句解析, 構文解析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ソフトウェアの開発時にソースコードを計算機に理解させる形式に変換するにはプログラミング言語処理系が必要となる。 本講義では、代表的なプログラミング言語処理系であるコンパイラに焦点を当て、コンパイラに実装される技術の基礎概念や基礎理論について学ぶ。		
授業の内容	本講義では、まず、プログラミング言語処理系について概観した後にコンパイラに焦点を当てる。 その後、ユーザの記述したソースコードを意味を保持した状態での最小単位であるトークンに分割するための字句解析について学び、トークンの形式定義のための正規表現ならびに有限オートマトンについて学ぶ。 その後、分割したトークン列の並びが正しく、文法に沿っているかを解析するための構文解析について学び、構文解析の形式定義のための文脈自由文法の概要ならびに、同文法からの左再帰性や演算子優先順位、曖昧性除去などについて詳しく学ぶ。		
成績評価の方法	期末試験70%、出席状況と課題レポート30%の割合で評価する。レポートについては授業の進行に合わせて、随時、課題を課す。		
テキスト	教科書は特定のものは用いない。		
参考文献	参考書については適宜、授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習、復習をしっかりと行い、学習内容の位置付けを常に意識すること。		

授業科目名	情報技術基礎論		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に自習課題を課し、授業と並行して実施させる。 学生は、授業への出席、自習課題の実施、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報技術, 高度IT人材, 情報関連資格試験, テクノロジ, マネジメント, ストラテジ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、学科専門科目中の情報処理系科目に区分され、「情報技術に関する基本知識・技能の習得」を目標としている。 具体的には、情報技術を活用した戦略立案やシステムの設計・開発に必要な、ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジ系の基本的な知識を習得するとともに、プログラミングに関する基礎的事項を理解する。 本科目の受講生には、情報関連資格試験の受験・合格を推奨し、これを課外においてもサポートする。		
授業の内容	企業や組織の情報化に際しては、情報技術を活用し戦略を立案する企画提案力と、システムの設計・開発あるいは既存システムのインテグレーションによって、信頼性・生産性の高いシステムを構築する企画実現力が共に重要である。本講義では、そのために必要となる基本知識・技能を習得し、実践的な活用力を身に付けるため、まず、経営戦略、システム戦略、企業と法務、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの概要について講義する。次に、情報システムの基礎技術(ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、アルゴリズム、ソフトウェア設計、ソフトウェア開発)の概要について講義する。また、論理的な思考力を鍛えるためプログラミング(C言語、Java、表計算から選択)の基礎についても学習する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席状況および期末試験70%、自習課題の実施状況30%の割合で評価する。 期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。 自習課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	『よく分かるマスター 基本情報技術者試験対策テキスト 平成29-30年度版』富士通エフ・オー・エム株式会社		
参考文献	定平誠, 須藤智『平成29年度【春期】【秋期】基本情報技術者 合格教本』技術評論社 きたみりゅうじ『キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 平成26年度』技術評論社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義は、情報関連資格試験に対する支援科目として位置付けているので、授業外での積極的な予習・復習に努めること。		

授業科目名	情報と倫理		
担当教員氏名	上村 崇 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、下記の教科書の内容を講義形式で実施する。毎週講義の最後に課題(その週の学習テーマに関する簡単な論述)を課す。学生には授業に出席し、毎週の課題と小論文(2000字程度)を作成、提出することを義務づける。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免(情報)必修		
キーワード	情報社会 情報教育 情報リテラシー メディアリテラシー 倫理 規範 IT インターネット ケータイ プライバシー 知的財産 遺伝情報		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では「情報」という概念を多角的に検討し、情報社会における倫理学の可能性を探究する。この探究の試みは、情報リテラシーやメディアリテラシーといった分野を超えて、従来の倫理学や教育のあり方を再検討することにもつながる。本講義の受講を通して、情報社会を主体的に生きる教育を実践するために必要な諸概念を身につけることを目標とする。		
授業の内容	情報技術の発展にともない、プライバシーや知的財産といった概念は再検討される必要に迫られている。また「情報」という言葉も、個人情報や遺伝情報へと拡張してきている。本講義では、これらの諸概念について具体的な事例を挙げながら検討していく。こうした検討を通して、従来の規範では対応できない問題への対処法と倫理学の可能性について履修者とともに考えていく。また、メディアリテラシーの一環として、各自が自主的に選択した一つのテレビ番組を継続して視聴してもらい、その内容について批判的に検討してもらう機会を設ける。		
成績評価の方法	出席50%、毎週提出する課題20%、小論文30%で評価。小論文の課題は、講義中に通知する。		
テキスト	土屋 俊監修『改訂新版 情報倫理入門』アイケイコーポレーション (2014)		
参考文献	水谷 雅彦著 『岩波応用倫理学講義3 情報』 岩波書店 2005 水谷 雅彦著 『現代社会の倫理を考える(15) 情報の倫理学』 丸善 2003 越智 貢著 『情報倫理学入門』 ナカニシヤ書店 2004		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は積極的に講義に参加することが求められる。そのために、自分なりの問題意識を持って講義に参加してもらいたい。		

授業科目名	情報と職業		
担当教員氏名	若林 義啓 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で実施する。各テーマを2回～3回かけて講義を行い、それぞれの最後に課題(レポート課題)を課す。また、テーマによっては質疑応答やディスカッション等を行う。		
単位数(時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免(情報)必修		
キーワード	情報化社会, ビジネスモデル, 職業, 教科情報, インターネット, 社会基盤, 職業倫理, 情報モラル, 情報セキュリティ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は, 高等学校情報教職免許取得に必要な科目の一つである。情報科社会と言われる現代において, それぞれの産業で行われているIT化と, そこで情報がどのように扱われているかを紹介する。IT化によって人々の仕事がかどのように変わったか, またどんな新しいビジネスモデルが誕生したかを学び, 情報と職業のかかわりを広く理解することを目的とする。		
授業の内容	現在の情報科社会では, あらゆる職業で情報が関わる場面があり, 働くにあたって情報を扱わないことは無いと言える。現代社会ではどのようなところでどのような情報技術が使われているのかを学び, 情報化社会の進展と職業, 情報を扱う職業人としての倫理など, 実例を基に広く理解を深めることを目的としている。また, 教師として教える立場になったとき, 社会では多くの場面で, 多種多様な情報が扱われており, またそこに携わる多種多様な仕事があることや, 情報化社会で生まれた様々な問題を広く紹介できるように多くの事例を紹介する。		
成績評価の方法	講義中に提示するレポート課題での評価を基本とし, そこから授業態度, 質疑応答, 出席状況でマイナス評価があればそれを差し引いて, 総合的に評価する。5回を超える欠席は評価対象外とする。		
テキスト	授業において提示する。		
参考文献	駒谷昇一, 辰巳丈夫, 楠元範明共著, 「情報と職業」, オーム社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業では, 社会基盤となっているシステムや社会問題を取り上げるので, 情報に関わるニュースや報道を意識して見ること。		

授業科目名	外国書講読Ⅰ（経情学科）		
担当教員氏名	呉 漢生		
研究室の場所	広島キャンパス 1532 研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日17時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間（1回）と学生の自習2時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、口頭発表と討論などを行う。期末に総合的なレポートを作成・提出する。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 3年次対象（経営情報学科必修）		
免許等指定科目			
キーワード	英語参考文献、外国語教科書、外国語文献の読み方、卒業論文の準備		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、履修学生に英語で書かれた文献または書物を熟練に読むことができるような力を養成させることである。本科目は、経営情報学科の経営情報外国語科目に区分されている。		
授業の内容	外国語講読Ⅰでは、英語で書かれたコンピュータ・経営情報科学に関連する文献または書物の講読法を練習する。卒業論文に関する研究で、英文の文献を読むことはできないので、本講義は、英語で書かれた文献または書物を熟練に読むことができるような力を養成することを目的とする。経営情報学科の分野に関連する英文の文献または書物の輪読を行うことを通じて、学術文書の読み方および構成法、よく使われている文法、参考文献の調べ方などを講義する。		
成績評価の方法	出席状況50%、口頭発表・質疑応答30%、期末の総合的なレポート20%の割合で評価する。毎回の口頭発表の内容は前回の授業の最後に提示する。		
テキスト	講義中でテキストとしているプリントを適宜に用意・配布する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	該当している口頭発表の部分を授業前によく予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。期末に総合的なレポートを必ず提出すること。		

授業科目名	外国書講読Ⅰ（経情学科）		
担当教員氏名	陳 春祥		
研究室の場所	広島キャンパス 1565研究室		
オフィスアワー	随時、メールで予約してください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業は配布された英文の資料を輪講する形式で進める。学生は、授業に出席し、口頭発表と討論などを行う。期末に総合的なレポートを完成し、提出する。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科，3年次対象（必修）		
免許等指定科目			
キーワード	情報通信技術，インターネット，プロトコル， 情報システムにおける専門用語の英語表現		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、情報通信分野関連の文献または書物を精読するによって、これらの分野の諸概念を英語で理解し、専門内容を理解しながら専門用語の英語表現に慣れ、卒業研究等に必要英文の文献を読みこなす力を養成することを目的とする。		
授業の内容	外国語講読Ⅰでは、情報システムや情報通信ネットワークなどの英語の文献または書物を輪講する。これらの講読を通じて、情報通信システムの諸概念を英語で理解し、専門的な知識を習得すると同時に、情報通信技術の分野の英語表現、専門用語に慣れ、英文の専門文章（論文）の読み方および構成法、よく使われる文法や表現などを習得する。		
成績評価の方法	期末試験60%、口頭発表・質問応答20%、レポート20%の割合で総合的に評価する。毎回の口頭発表の内容は前回の授業の最後に提示する。		
テキスト	教科書は使用しない。プリント資料を適宜に用意し、配布する。		
参考文献	講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は、割当部分の資料を授業の前によく予習することともに、授業中、積極的に発言や討論に参加すること。		

授業科目名	外国書講読Ⅱ（経情学科）		
担当教員氏名	錦織 昭峰		
研究室の場所	広島キャンパス 1643研究室		
オフィスアワー	原則として在室のときにはいつでも可		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、輪読あるいは講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Writing paragraphs, Scheduling in computer and manufacturing systems, English composition		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	情報あるいは科学の伝達手段としての英語を修得するために、伝達手段として必須の基本原則が理解できる。専門分野としては、オペレーションズ・リサーチにおけるスケジューリングが理解できる。特に、生産のためのショップ・スケジューリングが分かる。若干の英作文の練習により、学術文書独特な言い回しに慣れることができる。スケジューリングに関する情報処理システムを開発する情報技術者として必須の英語を理解できる。		
授業の内容	授業でふれる項目は主に以下のとおりである。 1. 情報過多の今日において、学術文書を読者に的確にざっと読みやとばし読みをしてもらうためのパラグラフの書き方。 2. コンピュータ及び生産システムにおけるスケジューリング。 3. 学術文書独特な言い回しによる英文表現に慣れるために簡単な英作文の練習。 4. 報告文・論述文の書き方。 5. タイピングの練習。 過去の優秀な受講生との競争を促すアクティブ・ラーニング「パーフェクト教育」を行っている。		
成績評価の方法	期末試験は60%で評価する。（試験の配点は、授業の講義内容からの出題は30%、それとは係りない出題をすることがあり、これをは30%とする。ただし、出題された講義内容の担当者は、それぞれ10%、50%とする）残りの40%は、輪講における発表内容及び授業への積極的参加である。試験は指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	講義資料はその都度配付する。参考図書：木下是雄著「理科系の作文技術」中公新書 624、ISBN 4-12-100624-0。		
参考文献	Technical Writing and Professional Communication for Nonnative Speakers of English ( Second Edi. )<71007466>, Scheduling in Computer and Manufacturing Systems ( Second, Revised Edition )<3540580492>		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、講義資料の英文を和訳してから授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内 LANのYドライブに入っている。		

授業科目名	外国書講読Ⅱ（経情学科）		
担当教員氏名	生田 顯		
研究室の場所	広島キャンパス 1661研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業は配布された英語の文献を輪講形式で訳していく。学生は授業に出席して、自分の意見を発表し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	1	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	インフォメーション、プロセス、モデリング、ストカスティックシステムなど情報科学における専門用語の英語表現		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業科目は、情報に関する分野の書物や文献を輪読することによって、これらの分野の諸概念を英語で理解し、専門知識や専門用語の英語表現に慣れ、卒業研究等に必要な英語の文献を読みこなす力を養成することを目的とする。		
授業の内容	情報科学の分野の中で、コンピュータサイエンスや情報処理システムなどの英語の書物または文献を輪読する。これらの講読をとおして、コンピュータサイエンスや情報処理システムにおける諸概念を英語で理解し、専門的な知識として身につけると同時に、情報技術の分野の英語表現に慣れることを目的とする。また、情報分野のテクニカルタームの習得を目指す。		
成績評価の方法	中間試験・期末試験・輪講における発表状況・出席率を考慮してで評価する。中間試験および期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。中間試験・期末試験では、輪講で学習した部分から出題する。		
テキスト	講読のテキストは、プリントを授業に先立って配布する。情報科学に関する文献など実践的な英文を必要に応じて紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は、授業の前に教科書の該当する箇所を精読し、授業に臨むこと。		



授業科目名	環境情報処理論		
担当教員氏名	折本 寿子		
研究室の場所	広島キャンパス 1617研究室		
オフィスアワー	随時（メールで事前に予約を入れると確実です）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に教科書の各章に関する内容を講義形式で実施する。学生は授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	騒音, 振動, dB, 低周波, 評価		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	環境情報を音環境の側面から捉え、会話や音楽等、我々の生活で欠かすことのできない音の性質や種類について学習する。一方で、望ましくない音、生活の妨げになる音である騒音について基礎知識を学ぶことで、騒音の評価方法を習得することを目標とする。		
授業の内容	音とは常に存在し、無意識の中で我々の耳に聞こえている。心地よい音もあれば望ましくない音も存在しており、音の性質を数値的に捉えるため、まず音の定量的表現を学ぶ。その後、日常に存在している騒音問題を取り上げ、騒音の評価方法について学ぶ。		
成績評価の方法	発表30%、課題レポート60%、授業への取り組み姿勢10%の割合で評価する。試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポートの課題は授業の中で提示する。各レポートの提出期限は、原則、次回授業の前日とする。		
テキスト	テキストは講義の時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は、前回授業の内容をよく理解し、授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	経営情報学研究序論		
担当教員氏名	学科長，教務委員，学科教員，学外講師		
研究室の場所			
オフィスアワー	各回の担当教員の指示に従うこと。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って，オムニバス形式で実施する。 学生は授業への出席，振り返りシート等の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	経営情報学，経営科学系，経営情報系，情報処理系，研究概要，講義概要		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は，経営情報学科の学科専門科目における専門演習関連科目に区分される。 本学科の持つ3つの学問体系（経営科学系，経営情報系，情報処理系）で学修する科目群と， 3，4年次で取り組む経営情報学専門演習（卒業研究）との間の繋がりを予め把握することにより， 学修の方向性を明確にし，学修のモチベーションを高めることを目的としている。 また，学科専門科目を担当している学外講師を招いて担当科目のガイダンスを行うことにより， 当該科目の重要性について理解させ，積極的な受講を促すことを併せて目的としている。		
授業の内容	学科教員10名程度と外部講師5名程度のオムニバス形式で実施する。 学科教員による授業は，各教員の研究に関わる入門的な内容をまとめた講義と，今後の学修に対するアドバイス等を中心とした授業を行う。 学外講師による授業は，担当科目に関わる入門的な内容をまとめた講義や，社会的に問題になっている事項（例えば，サイバー犯罪など）に対する理解と情報学を用いた問題解決の事例をまとめた講演などを行う。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度，振り返りシート，授業アンケート等を総合して評価する。		
テキスト	講義ごとに資料を配付する。		
参考文献	特に指定しない。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	振り返りシート，授業アンケート等への回答は真剣に行うこと。		

授業科目名	情報科教育法 I		
担当教員氏名	長松 正康 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	第1週は講義形式，第2週から第7週はテキストの内容を分担し，プレゼンテーションと質疑により進める。第8週以降はテーマを選択し模擬授業を行う。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (情報) 必修		
キーワード	情報教育，普通教科情報，専門教科情報		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	情報教育の概要の理解と，主に情報科における学習指導に必要となる知識と能力の修得を図る。		
授業の内容	<p>第1週 教科「情報」の構成 (1章)  第2週 学習環境の整備 (2章)  ・ 教材・教具としてのソフトウェア (3章)  第3週 カリキュラムの作成 (7章)  ・ 他教科等との関連，他校種との関連 (4章)  第4-7週 模擬授業の計画と学習評価 (5章)  ・ 学習形態の選択 (9章) ・ 情報発信とプレゼンテーション (8章)  ・ メディアリテラシー (10章) ・ 情報倫理教育の方法 (11章)  ・ カード操作による発想法 (6章5節) 教師による利用，学習者による利用  第8-14週 模擬授業実施と授業計画  第15週 結果の分析，次の授業にむけて</p> <p>(注) 括弧内は，テキストの該当箇所を示す。</p>		
成績評価の方法	教材研究のプレゼンテーション及び模擬授業，討議の参加状況 (30%)，小テスト (35%) レポート (35%) を評価する。		
テキスト	大岩ほか：情報科教育法 (最新刊) オーム社 必要に応じて高等学校普通教科情報の教科書を参照する。高等学校で使用した教科書を持っている場合は持参するとよい。		
参考文献	高等学校学習指導要領解説 情報編，文部省，開隆堂出版発行		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	情報科教育法Ⅱ		
担当教員氏名	長松 正康 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義, 演習, 模擬授業と討議により進める。		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免 (情報) 選択		
キーワード	カリキュラム, 学習指導, 学習評価, 授業の記録と分析, 教材研究, 普通教科情報, 専門教科情報		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科の教材研究, カリキュラムや授業プランの作成から授業評価にいたる過程を各自で立案, 実施, 討議することにより, これらに関する能力の獲得を図る。</li> <li>・普通教科「情報」と専門教科「情報」の違いを踏まえた指導を行う能力の育成を図る。</li> </ul> <p>《カリキュラム上の位置づけ》</p> <p>この授業は, 情報科教育法Ⅰにおける概論を前提としつつ内容を深め, 教育実習につながるものである。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通教科「情報」における学習評価と指導</li> <li>2. 学習者の把握</li> <li>3. カリキュラムの立案と年間指導計画</li> <li>4. 授業を前提とした教材研究 情報活用の実践力 情報の科学的理解 情報社会に参画する態度</li> <li>5. 授業プランの立案と学習指導案</li> <li>6. 授業の記録と分析</li> <li>7. 専門教科情報における内容と方法</li> <li>8. 実践事例に学ぶ</li> </ol> <p>注) 項目4～7については, 受講者によるプレゼンテーション, 模擬授業と討議により進行する。</p>		
成績評価の方法	模擬授業の立案・準備, 実施, 結果の把握状況や, 討議の参加状況(30%), 提出物(35%), による評価を行う。その他, 予告の上で小テスト(35%)を行う。		
テキスト	大岩ほか: 情報科教育法 (最新刊) オーム社 高等学校学習指導要領解説 情報編 (最新刊), 文部省, 開隆堂出版発行 普通教科情報の教科書		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>情報科に関する知識だけでなく, 教師としての意思決定に必要な思考力, 判断力を重視します。なぜその教材を選び, そのような授業方法を選択するのか, ねらいは何か等について妥当性のある説明をできることが求められます。</p> <p>出席はこれらの前提となるので注意してください。</p>		

授業科目名	経営情報学専門演習 I (小川)		
担当教員氏名			
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数 (時間数)	4		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報学専門演習Ⅰ（韓）		
担当教員氏名	韓 虎剛		
研究室の場所	1636室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面及び実習		
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	卒業論文に関連する専門基礎，プログラミングの能力を身につけること。		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け			
授業の内容	制御理論，ファジィ理論，MATLABプログラミング，Latex演習，ファジィ制御など，卒業論文にかかわる全般		
成績評価の方法	授業内容の理解，出席や勉強態度などで総合評価		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報学専門演習Ⅰ（呉）		
担当教員氏名	呉 漢生		
研究室の場所	1532研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 17時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数（時間数）	4	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営情報学科 必修
履修要件	学科の規定により		
免許等指定科目			
キーワード	卒業論文		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒業論文の準備		
授業の内容	卒業論文の準備		
成績評価の方法	学科の規定により、総合的に判定		
テキスト	使用テキストを特に指定していないが、卒論の準備のため、参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報学専門演習Ⅰ（肖）		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	1563室		
オフィスアワー	研究室配属後は随時。		
授業の形式・方式	ゼミ形式		
単位数（時間数）	4	60時間	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	卒論研究の基礎づくりを目的に時系列分析の本を読みながら解説していく。		
成績評価の方法	ゼミへの取り組み、課題の完成度などで総合的に評価する。		
テキスト	ゼミの内容に合わせて指定する。		
参考文献	学生の希望する研究課題に合わせて指定する。		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	経営情報学専門演習Ⅱ (小川)		
担当教員氏名			
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数 (時間数)	4		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報学専門演習Ⅱ（韓）		
担当教員氏名	韓 虎剛		
研究室の場所	1636室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	主に実習方式		
単位数（時間数）	4		学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	卒業論文を完成すること。		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容			
成績評価の方法	卒業論文の内容で評価する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報学専門演習Ⅱ（呉）		
担当教員氏名	呉 漢生		
研究室の場所	1532研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 17時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数（時間数）	4	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 経営情報学科 必修
履修要件	学科の規定により		
免許等指定科目			
キーワード	卒業論文		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒業論文の作成		
授業の内容	卒業論文の作成		
成績評価の方法	学科の規定により、総合的に判定		
テキスト	特になし。卒業論文の作成のため、いろいろ必要な参考文献と参考書を使う。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営情報学専門演習Ⅱ（肖）		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	1563室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	研究ゼミ		
単位数（時間数）	4	60時間	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	学生の研究課題に合わせて内容を定める。毎年内容が変わる。		
成績評価の方法	研究課題の難易度、提案したアルゴリズムやシステム等の完成度、卒論の完成度により評価。		
テキスト			
参考文献	研究進行中に指定する。		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	Linear System Theory and Design (I)		
担当教員氏名	Hansheng Wu		
研究室の場所	1532		
オフィスアワー	16:20 ~ 17:50, Monday		
授業の形式・方式	Seminar and Lecture		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 ET Lesson
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	Linear systems, Control design, Feedback control, Optimal control, Stability of dynamical systems		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>In engineering, a physical system can be described by some mathematical equations. Once a mathematical description is obtained, it is important to carry out the quantitative and/or qualitative analyses of systems. In this module, the problems of linear system theory and design are considered for lumped systems described by linear differential equations. The concepts of controllability, observability, stability, and so on are introduced, and the design methods of state feedback, state estimators, robust control, and adaptive control are proposed.</p>		
授業の内容	Please refer to the following syllabus for each time.		
成績評価の方法	According to the situation of the attendance, the presentations given in the seminar, and the quality of the reports		
テキスト	C. T. Chen: Linear System Theory and Design, 3rd Edition, Oxford University Press, New York, 1999.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	Intelligent Production Systems		
担当教員氏名	Daisuke Hirotsani		
研究室の場所	1634		
オフィスアワー	Any time is OK if I am in my room. (Reservation by E-mail is recommended)		
授業の形式・方式	Lecture		
単位数 (時間数)	2		学科または専攻毎の必修・選択の別 Selected subject
履修要件	3rd year level		
免許等指定科目			
キーワード	Production systems, Industrial engineering, inventory control, inventory simulation, Material requirements planning, Toyota production system, Project scheduling, Production scheduling		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	To take this module, students can understand modern production systems and production control technique.		
授業の内容	Recently production systems become bigger and more complex. Therefore, characteristics for production systems should be understood. In this module, traditional production systems are discussed at first. Then, production control that includes inventory management is discussed, and modern production systems are discussed. After this, we discuss scheduling techniques for production and project.		
成績評価の方法	Report and exercise (100%)		
テキスト	None		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	In this module, experiments by using Microsoft Excel are done for some topics. Therefore, student must have a basic skill for Microsoft Excel		

授業科目名	MATLAB Programming		
担当教員氏名	Hugang Han		
研究室の場所	1636		
オフィスアワー	Any time, but make an appointment in advance		
授業の形式・方式	Lectures and Practicals. The classes consist of three steps as follows. 1) Self-training: you have to exercise the programs in the hand-outs provided by the lecturer while you read the material from beginning to end; 2) Supplementary explanation: once you have finished the step 1, the lecturer will provide some supplementary explanation on the hand-outs; 3) Practical session: the lecturer will give you some assignments to let you deepen your understanding of the contents of the hands-out.		
単位数 (時間数)	2		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け			
授業の内容	In recent years, there has been a move towards great use of the MATLAB language, in particular, in engineering design. The module provides students with fundamental usage of the language. The students will develop proficiency on how to use it in computer simulations. The skill in the MATLAB language can be utilized in their final year studies.		
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	Fundamentals of Adaptive Filters		
担当教員氏名	Yegui Xiao		
研究室の場所	Room 1563		
オフィスアワー	Any time if I am in my office.		
授業の形式・方式	Lectures and computer simulations		
単位数（時間数）	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	<p>In digital communications, biomedical engineering, power engineering, system control and so on, signals of interest present different and unique features and are very often corrupted by noises with various different statistical characteristics. Extraction, cancellation, and active control of the signals can be realized by means of various adaptive filters which process the signal measurements to achieve a goal set by the filter designers. In this module, fundamentals of adaptive filters will be presented, including basic adaptive system structures and algorithms.</p>		
成績評価の方法	Reports assigned		
テキスト	Reading materials will be distributed if needed		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	Linear System Theory and Design (II)		
担当教員氏名	Hansheng Wu		
研究室の場所	1532		
オフィスアワー	16:20 ~ 17:50, Monday		
授業の形式・方式	Seminar and Lecture		
単位数 (時間数)	2	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 ET Lesson
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	Linear systems, Control design, Feedback control, Optimal control, Stability of dynamical systems		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	In engineering, a physical system can be described by some mathematical equations. Once a mathematical description is obtained, it is important to carry out the quantitative and/or qualitative analyses of systems. In this module, the problems of linear system theory and design are considered for lumped systems described by linear differential equations. The concepts of controllability, observability, stability, and so on are introduced, and the design methods of state feedback, state estimators, robust control, and adaptive control		
授業の内容	Please refer to the following syllabus for each time.		
成績評価の方法	According to the situation of the attendance, the presentations given in the seminar, and the quality of the reports		
テキスト	C.T. Chen: Linear System Theory and Design, 3rd Edition, Oxford University Press, New York, 1999.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	Linear Control System Theory		
担当教員氏名	Shinji Shigemaru		
研究室の場所	Hiroshima Campus 1640		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Seminar		
単位数（時間数）	2		学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	Dynamical system, stability, feedback control		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	This course aims to understand the mathematical basis of system engineering. We aim to understand the modeling and dynamic characteristics of the system whose state changes with the lapse of time. In addition, we learn the basic theory such as the method to control the object to the desired state, the stability of the system.		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dynamic system modeling</li> <li>・ Dynamic system solution</li> <li>・ Controllability and observability</li> <li>・ System stability</li> <li>・ State observer design</li> <li>・ Optimal control of dynamic system</li> <li>・ Robust control</li> </ul>		
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	SystemsManagementOptimizationTheory andApplication		
担当教員氏名	Akimine Nishikori		
研究室の場所	Office 1643		
オフィスアワー	Every day and time, my door always open.		
授業の形式・方式	Lecture and Practice		
単位数（時間数）	2		学科または専攻毎の必修・選択の別 Selective
履修要件	Linear Programming necessary		
免許等指定科目			
キーワード	Assignment Problem, Priority Order, Search Trees, Data Structure, Constraint Satisfaction, Display Expression, Large-Scale Spread Sheet, Multiple Encryptions		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	This study researches mathematical optimization applied to planning, design, and operation on management.		
授業の内容	The research topics are about simulations by developing sparse and large-scale management software system of mathematical planning. In particular, both algorithms and data structures are studied for knowledge information systems. Moreover, their practices are exercised by Mathematical Programming System and Excel Solver and by the developed software of Constrained Load Flow of electric power system, and the instances are discussed.		
成績評価の方法	Test and Report		
テキスト	Handout		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	Supply Chain Management		
担当教員氏名	Daisuke Hirotsu		
研究室の場所	1634		
オフィスアワー	Any time is OK if I am in my room. (Reservation by E-mail is recommended)		
授業の形式・方式	Lecture		
単位数 (時間数)	2		学科または専攻毎の必修・選択の別 Selected subject
履修要件	3rd year level		
免許等指定科目			
キーワード	Supply chain, Inventory, Logistics game		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	To take this module, students can understand a structure of supply chain.		
授業の内容	Supply chain management (SCM) is the management of the flow of goods and services. It includes the movement and storage of raw materials, work-in-process inventory, and finished goods from point of origin to point of consumption. In this module, characteristics and strategy for supply chain management are explained. In addition, students must play a game for supply chain management.		
成績評価の方法	Report and exercise (100%)		
テキスト	None		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	In this module, taking the previous module "intelligent production systems" is highly recommended, but this is NOT a requirement. Experiments by using Microsoft Excel are done for some topics. Therefore, student must have a basic skill for Microsoft Excel		

授業科目名	Fuzzy and Rough Sets		
担当教員氏名	Hugang Han		
研究室の場所	1636 rm		
オフィスアワー	Any time, but make an appointment in advance		
授業の形式・方式	Lectures and Practicals. The classes consist of two steps as follows. 1) PowerPoint Presentation: most of the contents will be taught by the lecturer using the PowerPoint presentation style; then 2) Practical session: the lecturer will give you some assignments to let you deepen your understanding of the contents.		
単位数 (時間数)	2		学科または専攻毎の必修・選択の別 optional
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け			
授業の内容	The module provides students with fundamental fuzzy set theory, fuzzy inference theory, rough set theory and rule extraction from a database. After the theoretical learning, the module mainly pays attentions to how to use them in a real system. The students will develop proficiency in designing a prototype of either of following systems: intelligent system, fuzzy control system and expert learning system, parts of which can be extended further to a final year project.		
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	Adaptive Filtering and Applications		
担当教員氏名	Yegui Xiao		
研究室の場所	Room 1563		
オフィスアワー	Any time if I am in my office.		
授業の形式・方式	Lectures and Computer Simulations		
単位数（時間数）	2	30 hours	学科または専攻毎の必修・選択の別
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	Adaptive filtering has been offering a vast number of efficient, effective and smart solutions to various real-life problems in digital communications, biomedical engineering, control engineering and so on. In this module, both popular and advanced adaptive linear and nonlinear filtering algorithms and systems are presented and discussed in detail. Applications of these filters to real-world problems are also discussed such as de-noising of speech signals, fetal ECG extraction, time-series prediction, etc.		
成績評価の方法	Reports of simulations of adaptive algorithms applied to special signal processing problems.		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			